

文 部 科 学 大 臣 殿

学校法人 聖徳学園
理事長 杉 山 元 彦

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	岐阜聖徳学園大学
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	<input checked="" type="radio"/> 大学・短期大学・高等専門学校・専門学校
大学等の所在地	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目 1 番地
学長又は校長の氏名	学長 藤井徳行
設置者の名称	学校法人 聖徳学園
設置者の主たる事務所の所在地	岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目 1 番地
設置者の代表者の氏名	理事長 杉山元彦
申請書を公表する予定のホームページアドレス	http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php

大学等における修学の支援に関する法律(以下「大学等修学支援法」という。)第 7 条第 1 項の確認を申請します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点(☑)を付けて下さい。

- この申請書(添付書類を含む。)の記載内容は、事実と相違ありません。
- 確認を受けた大学等は、大学等修学支援法に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知しています。
- 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があると同時に、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。
- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第 7 条第 2 項第 3 号及び第 4 号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	羽島庶務課 ・長村憲尚	058-279-0804	hashimashom@shotoku.ac.jp
第2号の1	羽島教務課 ・森本真	058-279-3493	kyomuka@shotoku.ac.jp
第2号の2	法人本部総務・管財課 ・玉木伸明	058-279-3300	honbu@shotoku.ac.jp
第2号の3	羽島教務課 ・森本真	058-279-3493	kyomuka@shotoku.ac.jp
第2号の4	IR推進室 ・窪田憲隆	058-279-6710	kikaku@shotoku.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)-①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

(添付書類) 経営要件を満たすことを示す資料

学校名	岐阜聖徳学園大学
設置者名	聖徳学園

I 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における「経常収支差額」の状況

	経常収入(A)	経常支出(B)	差額(A)-(B)
申請前年度の決算	6,331,823,805円	6,075,370,452円	256,453,353円
申請2年度前の決算	6,408,999,539円	6,305,588,653円	103,410,886円
申請3年度前の決算	6,081,283,836円	6,145,163,882円	△63,880,046円

II 直前の決算の貸借対照表における「運用資産-外部負債」の状況

	運用資産(C)	外部負債(D)	差額(C)-(D)
申請前年度の決算	7,034,809,022円	235,006,491円	6,799,802,531円

III 申請校の直近3年度の収容定員充足率の状況

	収容定員(E)	在学生等の数(F)	収容定員充足率(F)/(E)
今年度(申請年度)	2840人	3002人	105%
前年度	2840人	2946人	103%
前々年度	2780人	2836人	102%

(IIの補足資料)「運用資産」又は「外部負債」として計上した勘定科目一覧

○「運用資産」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	資産の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

○「外部負債」に計上した勘定科目

勘定科目の名称	負債の内容	申請前年度の決算における金額
		円
		円
		円

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岐阜聖徳学園大学
設置者名	聖徳学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育課程	夜・通信	0	0	51	51	13	
外国語学部	外国語学科	夜・通信	4	0	41	45	13	
経済情報学部	経済情報学科	夜・通信	0	0	32	32	13	
看護学部	看護学科	夜・通信	0	0	74	74	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページ上（教育情報公表）で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岐阜聖徳学園大学
設置者名	聖徳学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページ上（事業報告書）で公表している。URL アドレスは次のとおり。
<http://www.shotoku.jp/outline/Officer.php>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	民間会社 取締役社長	2019.4.1～ 2023.3.31	特に財務・人事に関する こと
非常勤	弁護士	2019.4.1～ 2023.3.31	特に、労務に関する こと
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岐阜聖徳学園大学
設置者名	聖徳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学のシラバスは例年前年度の1月から各授業担当者に作成を依頼し、2月中旬までに作成する。2月中旬から各学部教務委員会によるシラバスチェックを実施し、必要に応じて改善の指示等を行い、3月下旬にWebシステムにて公開する。 ・本学では全学共通の「シラバス作成ガイドライン」を作成し、シラバス作成に関するFD研修会を各学部で実施している。 	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学ホームページ上(教育情報公表)で公表している。URLアドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位の認定については学則第21条に定めている。 	
<p>第6章 単位の認定、卒業認定及び学位の授与 第21条 授業科目を履修し、単位修得の認定を受けた者には所定の単位を与える。 2 授業科目の単位修得の認定は、試験成績若しくは平常の学習成績、又は両者を総合して担当教員が行う。 3 成績評価は、秀(A:100~90点)、優(B:89~80点)、良(C:79~70点)、可(D:69~60点)、不可(F:60点未満)の5段階をもって表し、可以上を合格とし、不可は不合格とする。なお、他大学等で修得した単位を本学で認定した場合は認定(T)とする。 4 授業形態、科目の特性などにより、前項の成績評価が困難なものについては、合格(P)、不合格(NP)とする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・本学では全ての科目において成績評価方法、割合及び評価基準をシラバスで明示している。シラバスで明示した方法により成績評価を行い、秀・優・良・可の成績評価の場合は合格とし、単位を認定している。 ・成績評価の基準は履修要覧に以下のように記載し、学生に示している。 	

判定	成績評価等	成績評価等の基準	GP
合格	秀	A:100～90点(特に優秀な成績)	4
	優	B:89～80点(優れた成績)	3
	良	C:79～70点(良好な成績)	2
	可	D:69～60点(合格と認められる成績)	1
不合格	不可	F:59点以下(合格と認められない成績)	0
失格	失格	G:試験を棄権した場合、出席日数が不足した場合	0
認定	認定	T:学則に則り、単位の認定がされた場合	—

また、授業形態、科目の特性などにより、5段階評価(秀・優・良・可・不可)の成績評価が困難なものについては、次の表のとおりとする。

判定	成績評価等	成績評価等の基準	GP
合格	合格	P:単位を与える条件を満たしたもの	0
不合格	不合格	NP:単位を与える条件を満たさなかったもの	0

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

・本学ではGPA制度を導入している。履修した科目の成績評価をグレード・ポイント(GP)に置き換え算出する。

判定	成績評価等	成績評価等の基準	GP
合格	秀	A:100～90点(特に優秀な成績)	4
	優	B:89～80点(優れた成績)	3
	良	C:79～70点(良好な成績)	2
	可	D:69～60点(合格と認められる成績)	1
不合格	不可	F:59点以下(合格と認められない成績)	0
	失格	G:試験を棄権した場合、出席日数が不足した場合	0

・算出方法は以下の数式により行う。

$$GPA = \frac{\text{履修登録した全科目の[単位数} \times \text{GP]の合計}}{\text{履修登録した全科目の単位数の合計}}$$

GPAの算出にあたっては、小数点第2位までとし、割り切れない場合は、小数点第3位を四捨五入する。

・対象科目は、卒業要件に算入でき、5段階評価(秀・優・良・可・不可)または失格で成績を判定された科目を対象とする。

客観的な指標の算出方法の公表方法	大学ホームページ上(教育情報公表)で公表している。URLアドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php
------------------	--

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・本学では「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」を各学部で定めている。

【教育学部】

教育学部は、建学の精神にのっとり、義務教育諸学校等・保育所における有為な教育者、保育者等を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(教育)の学位を授与します。

- 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。(基礎教養)
- 2 専攻する各教科に関する専門的知識と能力を身に付け、児童生徒の実態に合わせて創造的な学習指導方法を探求することができる。(教科教育)
- 3 生徒指導・教育相談、学級経営などを、子ども理解に基づき、他の教員等と協調・協同して実践できる。(子ども理解)
- 4 学校教育と学校を取り巻く現代社会の諸問題に関心をもち、問題解決のために情報を収集・分析・整理することができる。(学校と社会)
- 5 教育者、保育者等の専門的職業人としての使命感・責任感をもち、自ら学び求める姿勢をもって自己形成を目指すことができる。(自己形成)
- 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。(態度)

【外国語学部】

外国語学部は、建学の精神にのっとり、国際的視野に立ち、主体的に考え、表現し、行動する言語コミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(外国語)の学位を授与します。

- 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。(基礎教養)
- 2 言語体系としての英語を正しく理解し、文学作品を通して多様な表現を理解することができる。(言語・文学)
- 3 さまざまな国際的な場において適切なコミュニケーションをとることができる。(コミュニケーション能力)
- 4 世界各国の文化と、異文化間・国家間の関係について幅広く理解することができる。(異文化・国際理解)
- 5 言語・異文化・国際事情に関する知識とコミュニケーション技能を、国際的な舞台において、または中学校・高等学校において活用することができる。(実務・英語教育)
- 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。(態度)

【看護学部】

看護学部は、建学の精神にのっとり、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(看護学)の学位を授与します。

- 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。(基礎教養)
- 2 自分と他者に対して素直に向き合い、寛容の心をもって相互関係を築くことができる。(コミュニケーション能力)
- 3 専門的知識や技術を統合・汎用し、科学的根拠に基づいて多様な人々に対して柔軟かつ創造的に看護を実践することができる。(知識理解・発展)
- 4 対象の最善の利益を追求する同一目的集団であることを常に認識し、保健・医療・福祉・

- 教育・行政等の多職種と連携・協働し、地域社会に貢献できる。(地域貢献)
- 5 看護に対する情熱や使命感と国際的視野をもち、自立した看護専門職として継続的に自己研鑽できる。(国際理解・自己啓発)
- 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。(態度)

【経済情報学部】

経済情報学部では、建学の精神にのっとり、経済、情報分野の知識、技術を身に付け、社会貢献し、実社会の発展のために尽くそうという意欲的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(経済学)の学位を授与します。

- 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。(基礎教養)
- 2 経済、情報の専門知識を修得し、経済および情報のグローバル化にかかわる多様な諸問題に対応する知識や、地域社会に貢献する知識を身に付けることができる。(社会事情に対応する応用力)
- 3 変化する国内外の社会にかかわる諸問題に関心を持ち、その本質を理解することを心掛け、情報の収集・分析をすることができる。(情報収集・分析に関する力)
- 4 各自の関心に即した高度な専門知識を修得する基礎を築くことができる。(基礎力・創造的思考力)
- 5 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけることができる。(コミュニケーション能力)
- 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。(態度)

・ 本学では学則第 22 条において「本学に 4 年以上在学し、第 14 条、第 15 条、第 16 条及び第 17 条の規定により所定の単位を修得した者は、学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。」としている。原則として 2 月に開催する各学部教授会において、後期修得科目をもって所定の単位(合計 128 単位)を修得した者に対し卒業判定会議を行い、承認された者に対して学長が卒業を認定する。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学ホームページ上(教育情報公表)で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岐阜聖徳学園大学
設置者名	聖徳学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.jp/business-report/
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.jp/business-report/
財産目録	学園ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.jp/business-report/
事業報告書	学園ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.jp/business-report/
監事による監査報告(書)	学園ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.jp/business-report/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法: 特になし	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法: 特になし	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。
<http://www.shotoku.ac.jp/outline/self-inspect.php>

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 平成29(2017)年3月、公益財団法人大学基準協会において大学基準に適合していると認定を受ける。認定期間は令和6(2024)年3月31日まで。認証評価の結果については大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。
<http://www.shotoku.ac.jp/data/outline/kekka2015.pdf>

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/outline/purpose.php)
(概要) 建学の精神にのっとり、教職に対する強い情熱をもち教師力、人間力を備えた義務教育教員の養成を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisy_archive/201504_ed_dp.pdf)
(概要) 教育学部は、建学の精神にのっとり、義務教育諸学校等・保育所における有為な教育者、保育者等を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(教育)の学位を授与します。 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。(基礎教養) 2 専攻する各教科に関する専門的知識と能力を身に付け、児童生徒の実態に合わせて創造的な学習指導方法を探求することができる。(教科教育) 3 生徒指導・教育相談、学級経営などを、子ども理解に基づき、他の教員等と協調・協同して実践できる。(子ども理解) 4 学校教育と学校を取り巻く現代社会の諸問題に関心をもち、問題解決のために情報を収集・分析・整理することができる。(学校と社会) 5 教育者、保育者等の専門的職業人としての使命感・責任感をもち、自ら学び求める姿勢をもって自己形成を目指すことができる。(自己形成) 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。(態度)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: 大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisy_archive/201704_ed_CP.pdf)
(概要) 教育学部は、建学の精神にのっとり、義務教育諸学校等・保育所における有為な教育者、保育者等を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のように教育課程を編成します。 1 建学の精神の理解を図るため、「宗教学」を全学共通の必修科目として開講します。 2 1、2年次には、大学教育への導入のための「基礎セミナー」、基礎的な学力を養うための教養基礎科目を開講し、現代社会の諸問題ならびに教育の問題の理解を図ります。 3 実践的指導力に優れた教員等の養成を目指し、国語、社会、数学、理科、音楽、体育、英語、保育、特別支援教育、学校心理の各専修の専門性を生かしつつ、初等教育と中等教育を統合して学ぶことのできるカリキュラムを編成します。 4 教科科目は、教師力の養成を主眼として、各専修の基礎となる学問の体系に基づき、精選した内容で開講します。3年次には「専門演習」、4年次には「卒業研究」を必修で開講し、専門的な知識・技能を深め、児童生徒の実態に合わせた総合的な学習指導を

探求できるように導きます。

5 子ども理解・教職理解のために、「学校ふれあい体験」、「教育実践観察」等の体験型の科目を導入し、早くから子どもや学校現場に触れる機会を設け、学校教育と学校を取り巻く社会の諸問題に関心を持ち、問題解決に取り組めるように計らいます。

6 1年次から、教職の意義、指導法、生徒指導等を学ぶための教職科目、実践的な教師力の養成ならびに専門の学芸を教授するための教科科目を開設し、教員集団の一員として協働できるよう実践カリキュラムを実施します。

以上のカリキュラムを通じて、教育者、保育者等の専門的職業人がもつべき知識と技能、思考力、判断力、表現力、豊かな人間性を育みます。

これらの学修成果の評価として、本学が推進するクリスタルプランに基づき、1年次から4年次にわたる共通の13視座を設け、自己評価することで、自己形成のステップアップを跡づけます。学習到達度のチェックにおいてはGPAを活用します。3年次終了時には、卒業研究を履修するための修得単位数のチェックを行います。卒業研究については、ルーブリックを活用して評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/policy_archive/2019_ed_AP.pdf)

(概要)

教育学部は、建学の精神にのっとり、義務教育諸学校等・保育所における有為な教育者、保育者等を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のようにアドミッション・ポリシーを定めています。

1 求める人物像

- ・将来を担う子どもたちを育てていこうという強い意欲を持つ人
- ・基礎学力（知識・技能）を備え、自らの思考・判断を積極的に表現できる人
- ・多様な価値観を受容しつつ、他者との協働のもとで主体的に物事に取り組む姿勢・態度を備えた人

2 大学入学までに身につけてほしいこと

- ・確かな学習習慣及び社会への広い関心
- ・志願する専修に関係の深い学習や活動に幅広く取り組む姿勢

3 入学者選抜方法

〔一般入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、個別学力検査により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

〔AO入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、小論文・実技試験により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接・グループディスカッション等により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔推薦入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、基礎学力検査・実技試験により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔大学入試センター試験利用入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、大学入試センター試験の得点により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

学部等名 外国語学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/purpose.php>)

<p>(概要)</p> <p>建学の精神にのっとり、国際的視野に立ち、主体的に考え、表現し、行動する言語コミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/201704_fl_DP.pdf ）</p>
<p>(概要)</p> <p>外国語学部は、建学の精神にのっとり、国際的視野に立ち、主体的に考え、表現し、行動する言語コミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士(外国語)の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。（基礎教養） 2 言語体系としての英語を正しく理解し、文学作品を通して多様な表現を理解することができる。（言語・文学） 3 さまざまな国際的な場において適切なコミュニケーションをとることができる。（コミュニケーション能力） 4 世界各国の文化と、異文化間・国家間の関係について幅広く理解することができる。（異文化・国際理解） 5 言語・異文化・国際事情に関する知識とコミュニケーション技能を、国際的な舞台において、または中学校・高等学校において活用することができる。（実務・英語教育） 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。（態度）
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/2018_fl_CP.pdf ）</p>
<p>(概要)</p> <p>外国語学部は、建学の精神にのっとり、国際的視野に立ち、主体的に考え、表現し、行動する言語コミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のように教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神の理解を図るため、「宗教学」を全学共通の必修科目として開講します。 2 英語の基本技能（読む・書く・聴く・話す）を習得し、語学力・コミュニケーション能力を高めるために習熟度別少人数クラスを編成します。 3 幅広い教養を身に付け自信を持って国際社会に出るために、外国事情や異文化研究などのコンテンツをすべて英語で学ぶ授業を開講します。 4 多方面で活躍できる国際人になるために、IT技術、日本語教授法、実用中国語などを習得できる専門科目や、キャリアを意識したキャリア支援科目を開講します。 5 英語教員として常に「ことば」を意識した学究姿勢を身に付けるために、「第二言語習得論」、「英文法教育研究」などの専門科目を開講します。 6 3年次後期、4年次前後期に卒業研究を必修で開講し、専門的な知識・技能を深めます。 <p>以上のカリキュラムを通じて、多彩で質の高い国際社会で活躍できる人材、国際言語としての英語の機能をよく理解した視野の広い教員を育成します。</p> <p>これらの学修成果は、英語 Can-Do リストによる基本技能の自己評価、卒業要件科目の評価による累計 GPA、3年次終了時に4年次「卒業研究Ⅱ・Ⅲ」を履修するための最低修得単位数、TOEIC テストのスコア、卒業研究の評価ルーブリックにより評価します。</p> <p>さらに、中等英語教員を希望する学生は、中学校・高等学校教育実習履修要件による評価も行います。</p>

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/policy_archive/2019_fl_AP.pdf)

（概要）

外国語学部は、建学の精神にのっとり、国際的視野に立ち、主体的に考え、表現し、行動する言語コミュニケーション能力を備えた人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のようにアドミッション・ポリシーを定めています。

1 求める人物像

- ・英語をはじめとする外国語に関心を持ち、その学修に意欲を持つ人
- ・国際的視野に立って企業で活躍したい人
- ・英語教員になることを志望する人
- ・自文化に対する深い知識を基盤にして、異文化の多様な価値観が理解できるようになりたい人

2 大学入学までに身につけてほしいこと

- ・高等学校の各教科に関する基礎的・基本的な知識と技能
- ・基礎的な知識・技能に基づき、自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力、判断力、表現力
- ・真摯に勉学に取り組む姿勢と、学内外の様々な活動において人と協働できる態度

3 入学者選抜方法

〔一般入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、個別学力検査により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

〔AO入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、プレゼンテーション・ディスカッション等により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔推薦入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、小論文により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔大学入試センター試験利用入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、大学入試センター試験の得点により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

学部等名 経済情報学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/purpose.php>)

（概要）

建学の精神にのっとり、社会で役立つ実践的な経済、経営、情報分野の教育を行い、主体性・企画力・コミュニケーション能力等に富んだ有能な人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/policy_archive/201704_ei_dp.pdf)

(概要)

経済情報学部では、建学の精神にのっとり、経済、情報分野の知識、技術を身に付け、社会貢献し、実社会の発展のために尽くそうという意欲的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士（経済学）の学位を授与します。

- 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。（基礎教養）
- 2 経済、情報の専門知識を修得し、経済および情報のグローバル化にかかわる多様な諸問題に対応する知識や、地域社会に貢献する知識を身に付けることができる。（社会事情に対応する応用力）
- 3 変化する国内外の社会にかかわる諸問題に関心を持ち、その本質を理解することを心掛け、情報の収集・分析をすることができる。（情報収集・分析に関する力）
- 4 各自の関心に即した高度な専門知識を修得する基礎を築くことができる。（基礎力・創造的思考力）
- 5 社会人としてのコミュニケーション能力を身につけることができる。（コミュニケーション能力）
- 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。（態度）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/2019_ei_CP.pdf)

(概要)

経済情報学部では、建学の精神にのっとり、経済、情報の幅広い知識、技術を身につけ、社会貢献し、実社会の発展のために尽くそうという意欲的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のように教育課程を編成します。

- 1 建学の精神の理解を図るため、「宗教学」を全学共通の必修科目として開講します。
- 2 社会に対する知識や理解を深めるために、教養科目では、社会や経済状況についての幅広い知識、外国語科目では、異なる言語や文化を持つ人とコミュニケーションをする手段である語学力、保健体育科目では、心身を鍛え、健康づくりや安全に配慮した自己管理を学びます。
- 3 1、2年次には少人数クラスの「基礎セミナー」（必修）を開講し、1年次では大学での学びの導入、また大学生活に慣れることや友人とのコミュニケーションする機会を設けます。2年次ではプレゼンテーション能力を養います。
- 4 2、3年次に「キャリアデザイン」を開講し、2年次ではキャリア形成への意識向上を図ります。さらに、3年次では課題解決能力の向上や就職活動への実践的知識と技術を身につけます。
- 5 3、4年次にゼミ形式で学ぶ「専門演習」（必修）、「卒業研究」を開講し、専門分野での問題発見・解決能力・創造的思考力を養い、コミュニケーション能力を高めます。
- 6 「経済」の科目では「経済の基礎」の科目を配置し、経済の基礎を固める科目を提供します。また「経済の分析」、「経済の考え方」の科目を配置し、経済の専門を学ぶ科目を開講します。「経営」の科目では、企業のマネジメントについて学ぶ科目を開講します。「情報」の科目では情報の基礎からプログラミングや情報システムについて学ぶ科目を開講します。さらに、最新の経済・情報などの学際領域について学ぶ科目を開講します。

以上のカリキュラムを通じて、学生各人が思い描く将来像を実現し、社会貢献し、実社会の発展に尽くすことができる人材を育成することを目標としています。

これらの学修成果は、カリキュラムマップに基づく科目の修得単位数、学年末の修得単位数およびGPA、3・4年次に「専門演習」を履修するための最低修得単位数により評価します。

また、学生各人が、学修成果アンケートを用いて自己評価することで学びを深化させます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/2019_ei_AP.pdf)

（概要）

経済情報学部は、建学の精神にのっとり、経済、情報の幅広い知識、技術を身につけ、社会に貢献し、実社会の発展のために尽くそうという意欲的な人材を育成することを目的としています。この目的を達成するために、次のようなアドミッション・ポリシーを定めています。

1 求める人物像

〔知識・技能〕

- ・経済情報学部で学修するために必要な日本語（国語）や数学の基礎学力を備えている人
- ・高等学校在学中に簿記・情報・英語などの能力試験に挑戦し、大学でもその能力を伸ばす努力を惜しまない人

〔思考力・判断力・表現力〕

- ・好奇心にあふれ、物事や状況に対して適切な判断をし、さまざまな見方や考えができる人
- ・地域や社会における経済に関心があり、さまざまな人の意見を聴き、自分の考えを伝えることができる人

〔主体性・多様性・表現力〕

- ・経済、経営、情報の分野に関心があり、そのスキルを主体的に身につける意欲のある人
- ・大学生活を通してキャリア形成に努め、実社会の発展のために尽くそうという気持ちを持った活力ある人
- ・高校生活を通じ、生徒会活動やクラブ活動等に積極的に参加するなど、他者と協働する能力を備えている人

2 大学入学までに身につけてほしいこと

- ・さまざまな見方や考え方をするための基になる、高等学校で学ぶ教科全般に関する知識や技能
- ・社会への関心を幅広く持ち、意欲的に探究し、協働する姿勢

3 入学者選抜方法

〔一般入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、個別学力検査により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

〔AO入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を、面接・プレゼンテーション等により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔推薦入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、小論文により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔大学入試センター試験利用入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、大学入試センター試験の得点により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

学部等名 看護学部

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/purpose.php>)

<p>(概要)</p> <p>建学の精神にのっとり、社会の要請に応じて、心の教育を基盤とした、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材を養成することを目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/201704_nu_DP.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部は、建学の精神にのっとり、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するために、次のような知識・技能・態度を備えた人材を養成し、この養成目標に到達した者に学士（看護学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人文・社会・自然の分野に関する基礎的知識を身に付け、それらを現代社会の諸問題と関連づけて理解することができる。（基礎教養） 2 自分と他者に対して素直に向き合い、寛容の心をもって相互関係を築くことができる。（コミュニケーション能力） 3 専門的知識や技術を統合・汎用し、科学的根拠に基づいて多様な人々に対して柔軟かつ創造的に看護を実践することができる。（知識理解・発展） 4 対象の最善の利益を追求する同一目的集団であることを常に認識し、保健・医療・福祉・教育・行政等の多職種と連携・協働し、地域社会に貢献できる。（地域貢献） 5 看護に対する情熱や使命感と国際的視野をもち、自立した看護専門職として継続的に自己研鑽できる。（国際理解・自己啓発） 6 いのちを尊重する豊かな人間性、高い倫理観、自己の能力を社会に還元する強い志によって、社会人としての規範に従って行動できる。（態度）
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/201704_nu_CP.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>看護学部は、建学の精神にのっとり、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するために、次のように教育課程を編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 建学の精神の理解を図るため、「宗教学」を全学共通の必修科目として開講します。 2 多様な人々との交流から、柔軟なコミュニケーション能力を養うために、学部の枠を越えて学び合う教養基礎科目や、学年を越えて学び合う「SPP 技術演習」、「SPP 技術指導演習」を専門科目に配置します。 3 人間を深く理解し、多様な看護の対象に柔軟に対応するために、「生涯発達論」、「臨床心理学」、「コミュニケーション論」、「日本手話」、「クリニカルコミュニケーション」、「特別支援教育・看護合同演習」等の専門基礎科目や専門科目を配置します。 4 専門的知識や技術を統合・汎用し、対象に応じて看護を創造的に実践できるように、「解剖生理学」、「病態治療学」等の学習をベースに、「東洋医学」、「代替補完療法」の専門基礎科目や、応用発展できるように、「救急看護」、「災害看護」を専門科目に配置します。 5 地域社会に貢献できる能力を育成するために、「ボランティア活動」を専門基礎科目に配置します。また、退院後地域と連携した看護ができるように、「多職種連携論」、「退院支援論」、「継続看護実習」等を専門科目に配置します。 6 国際的な視野をもち、将来にむけて看護を探求・発展させていくことができるように、「看護管理論」、「国際看護論」、「看護教育論」、「卒業研究」の科目を配置します。 <p>以上のカリキュラムを通じて、看護専門職として社会に貢献できる人材を育成します。</p>

これらの学修成果は、2年次以降の各看護学実習に出る前提条件として事前に指定された科目の単位修得状況により評価します。看護の特徴として科目は積み上げ方式であり、4年次前期の「統合看護実習」では、各領域実習すべての単位修得を履修要件として評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。

http://www.shotoku.ac.jp/images/outline/polisys_archive/2019_nu_AP.pdf)

（概要）

看護学部は、建学の精神にのっとり、深い人間理解と高い倫理観を備えた看護専門職として社会に貢献できる人材の養成を目的としています。この目的を達成するために、次のようにアドミッション・ポリシーを定めています。

1 求める人物像

- ・他者を尊重しながら積極的に関わり、協調性のある人
- ・看護の専門的知識・技能を学ぶ基礎学力を持つ人
- ・論理的な思考力・判断力・表現力の基礎が備わっている人
- ・日々進歩する医療に対応するため、常に学び続け、課題探求のできる人

3 入学者選抜方法

〔一般入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、個別学力検査により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

〔AO入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を、小論文により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔推薦入試〕

出願書類（調査書等）により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、基礎学力検査により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を、面接により「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価します。

〔大学入試センター試験利用入試〕

調査書により「知識・技能」、「主体性・多様性・協働性」を、大学入試センター試験の得点により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を多面的・総合的に評価します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。

<http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
教育学部	—	39人	26人	8人	0人	0人	73人
外国語学部	—	7人	7人	5人	1人	0人	20人
経済情報学部	—	12人	8人	2人	1人	0人	23人
看護学部	—	5人	6人	7人	8人	3人	29人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
2人			145人				147人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.acoffice.jp/gsghp/KgApp					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学では、教育の質的向上を図ることを目的としてF D活動を推進している。F D活動は、大学全体と各学部の2つに分かれており、大学全体のF D活動は全学部に通ずる内容を、各学部のF D活動は各学部に特化した内容を取り扱っている。</p> <p>全学部で行う主なF D活動は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員によるF Dサロン ・学外講師によるF D研修会 ・専任教員による教育改革等事業助成報告会（研究発表） 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	330人	381人	115%	1320人	1522人	115%	—人	0人
外国語学部	150人	151人	100%	600人	547人	91%	—人	0人
経済情報学部	150人	147人	98%	600人	597人	99%	—人	0人
看護学部	80人	91人	113%	320人	336人	105%	—人	0人
合計	710人	770人	108%	2840人	3002人	105%	—人	0人
(備考) 編入学の受入人員は、各学部とも欠員の場合のみ若干名。								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	382人 (100%)	13人 (3.4%)	357人 (93.5%)	12人 (3.1%)
外国語学部	113人 (100%)	4人 (3.5%)	99人 (87.6%)	10人 (8.8%)
経済情報学部	120人 (100%)	0人 (0%)	116人 (96.7%)	4人 (3.3%)
看護学部	56人 (100%)	0人 (0%)	56人 (100%)	0人 (0%)
合計	671人 (100%)	17人 (2.5%)	628人 (93.6%)	26人 (3.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
教育学部				
【教員】(公) 岐阜県、愛知県、滋賀県、静岡県、長野県、石川県、神奈川県、島根県、奈良県 ほか				
【幼稚園教諭】(私) 揖斐幼稚園 ほか				
【保育職】(公) 長野県、岐阜市、大垣市、瑞穂市、関市、土岐市、名古屋市、一宮市、静岡 市、ほか				
【公務員】(地方) 岐阜県、愛知県、三重県、大垣市、羽島市、関市、美濃加茂市、長浜市 ほか				
【企業】三菱UFJ銀行、岐阜信用金庫、高山信用金庫、富国生命保険、藤田観光、ほか				
外国語学部				
【企業】大垣共立銀行、ドリームスカイ名古屋、エイチ・アイ・エス、西濃運輸、日本生命保 険、明治安田生命保険、住友生命保険、JAぎふ、愛知トヨタ自動車、ディスコ ほか				
【公務員】(警察官) 岐阜県、愛知県				
【教員】(公) 岐阜県、石川県、長野県、 ほか				
経済情報学部				
【企業】蒲郡信用金庫、関信用金庫、尾西信用金庫、西尾信用金庫、かんぼ生命保険、上組、 大垣ガス、岐阜プラスチック工業、酒井重工業、三甲、セブン工業、千住金属工業、大和ハウ ス工業、東洋化学、西日本キャンバック、日本トムソン、福田刃物工業、藤田螺子工業、文化 シャッター、ポパール興業、イシダテクノ、井高、F&Cホールディングス、太田廣、協和医科 器械、サントリービバレッジサービス、杉本商事、ダイドー、辰巳屋興業、パーパス、米津物 産、岐阜トヨタ自動車、ネサンメッセ、生活協同組合コープぎふ ほか				
【公務員】(国家) 自衛官 (警察官) 岐阜県、愛知県				
【教員】(公) 岐阜県、愛知県				
看護学部				
【病院】大垣市民病院、岐阜県総合医療センター、岐阜赤十字病院、岐阜大学医学部附属病院、 中濃厚生病院、松波総合病院、安城更生病院、一宮市立市民病院、稲沢市民病院、名古屋市立 大学病院、名古屋大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院、愛知医科大学病院、藤田医科 大学病院、静岡県立こころの医療センター ほか				
【保健師】羽島市、飛騨市				
【養護教諭】岐阜県				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	375人 (100%)	365人 (97.3%)	6人 (1.6%)	4人 (1.1%)	0人 (0%)
外国語学部	143人 (100%)	104人 (72.7%)	8人 (5.6%)	18人 (12.6%)	13人 (9.1%)
経済情報学部	135人 (100%)	112人 (83%)	5人 (3.7%)	17人 (12.6%)	1人 (0.7%)
看護学部	63人 (100%)	56人 (88.9%)	1人 (1.6%)	6人 (9.5%)	0人 (0%)
合計	716人 (100%)	637人 (89%)	20人 (2.8%)	45人 (6.3%)	14人 (2%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・本学のシラバスは例年前年度の1月から各授業担当者に作成を依頼し、2月中旬までに作成する。2月中旬から各学部教務委員会によるシラバスチェックを実施し、必要に応じて改善の指示等を行い、3月下旬にWebシステムにて公開する。 ・本学では全学共通の「シラバス作成ガイドライン」を作成し、シラバス作成に関するFD研修会を各学部で実施している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・単位の認定については学則第21条に定めている。
<p>第6章 単位の認定、卒業認定及び学位の授与</p> <p>第21条 授業科目を履修し、単位修得の認定を受けた者には所定の単位を与える。</p> <p>2 授業科目の単位修得の認定は、試験成績若しくは平常の学習成績、又は両者を総合して担当教員が行う。</p> <p>3 成績評価は、秀（A：100～90点）、優（B：89～80点）、良（C：79～70点）、可（D：69～60点）、不可（F：60点未満）の5段階をもって表し、可以上を合格とし、不可は不合格とする。なお、他大学等で修得した単位を本学で認定した場合は認定（T）とする。</p> <p>4 授業形態、科目の特性などにより、前項の成績評価が困難なものについては、合格（P）、不合格（NP）とする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・本学では全ての科目において成績評価方法、割合及び評価基準をシラバスで明示している。シラバスで明示した方法により成績評価を行い、秀・優・良・可の成績評価の場合は合格とし、単位を認定している。 ・成績評価の基準は履修要覧に以下のように記載し、学生に示している。

判定	成績評価等	成績評価等の基準	GP
合格	秀	A:100～90点(特に優秀な成績)	4
	優	B:89～80点(優れた成績)	3
	良	C:79～70点(良好な成績)	2
	可	D:69～60点(合格と認められる成績)	1
不合格	不可	F:59点以下(合格と認められない成績)	0
失格	失格	G:試験を棄権した場合、出席日数が不足した場合	0
認定	認定	T:学則に則り、単位の認定がされた場合	—

また、授業形態、科目の特性などにより、5段階評価(秀・優・良・可・不可)の成績評価が困難なものについては、次の表のとおりとする。

判定	成績評価等	成績評価等の基準	GP
合格	合格	P:単位を与える条件を満たしたもの	0
不合格	不合格	NP:単位を与える条件を満たさなかったもの	0

- ・本学では学則第22条において「本学に4年以上在学し、第14条、第15条、第16条及び第17条の規定により所定の単位を修得した者は、学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。」としている。原則として2月に開催する各学部教授会において、後期修得科目をもって所定の単位(合計128単位)を修得した者に対し卒業判定会議を行い、承認された者に対して学長が卒業を認定する。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	128単位	有・無	年間49単位
外国語学部	外国語学科	128単位	有・無	年間49単位
経済情報学部	経済情報学科	128単位	有・無	年間49単位
看護学部	看護学科	128単位	有・無	年間48単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:特になし。		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:資格取得状況について大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。 http://www.shotoku.ac.jp/careers/qualification.php		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法:大学ホームページ上で公表している。URLアドレスは次のとおり。
<http://www.shotoku.ac.jp/student-life/campus/index.php>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	学校教育課程	540,000 円	300,000 円	520,000 円	
外国語学部	外国語学部	540,000 円	300,000 円	520,000 円	
経済情報学部	経済情報学部	540,000 円	300,000 円	520,000 円	
看護学部	看護学科	800,000 円	300,000 円	800,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <p>【奨学金関係】</p> <p>課外活動奨励奨学金 教育学部・外国語学部・経済情報学部・看護学部 免除 学費全額 (4年間)・授業料全額 (4年間)・授業料半額 (4年間) 入学前および入学後の課外活動において優れた才能を発揮し、全国大会レベルの 競技会等において特に顕著な成績を修め、その能力・技術の向上および勉学を両立 させる者と本学が認める者</p> <p>学生外国留学奨学金 給付 留学先の授業料相当額を給付 (上限あり) 航空運賃一部助成 (派遣留学より選考) 派遣・認定留学により留学する学生 (学部教授会で決定した人数)</p> <p>修学支援授業料減免 教育学部・外国語学部・経済情報学部・看護学部 免除 授業料半額 (採用された当該年度) 生活困窮者の中から選考</p> <p>修学支援奨学金 給付 20,000 円/月 (卒業時までの最短就学期間) 在学中に家計支持者の死亡により経済的に修学が困難になった学生</p> <p>スカラシップ 教育学部・外国語学部・経済情報学部・看護学部 免除 学費全額 (4年間)・授業料全額 (4年間)・授業料半額 (4年間) 一般入試 A 日程・B 日程・大学入試センター試験利用入試 (前期日程) 合格者のうち成績上位者</p> <p>Yawaragi 入試奨学金 外国語学部・経済情報学部・看護学部 免除 授業料半額 (4年間) Yawaragi 入試入学者</p> <p>指定校制奨学金 経済情報学部 給付 300,000 円 (入学年度のみ) 指定校制推薦入試入学者</p> <p>課外活動特別奨学金 外国語学部・経済情報学部 給付 300,000 円 (入学年度のみ) 課外活動特別推薦入試入学者</p> <p>公益財団法人 広田奨学会選奨生奨学金 給付 50,000 円/月 (採用時より卒業時までの最短修学期間<継続審査あり>) 経済的に修学が困難で、学業成績・人物ともに優秀と認められる学生</p> <p>公益財団法人 岐阜杉山記念財団奨学金 給付</p>

120,000 円（当該年度）平成 30 年度実績
経済的に修学が困難で、学業成績・人物ともに優秀と認められる学生
保護者の住所が岐阜県内にある学生

一般財団法人 本願寺派教学助成財団奨学金 給付
100,000 円（当該年度）平成 30 年度実績
経済的に修学が困難で、学業成績・人物ともに優秀な学生で、
浄土真宗本願寺派の発展に寄与しようとする寺院子弟ならびに門徒子弟

日本学生支援機構奨学金 第一種奨学金（無利息）貸与
自宅通学 20,000 円/月・30,000 円/月・40,000 円/月・54,000 円/月
自宅外通学 20,000 円/月・30,000 円/月・40,000 円/月・50,000 円/月・64,000 円/月
経済的に修学が困難で、学業成績・人物ともに優秀と認められ、心身ともに健全な学生

日本学生支援機構奨学金 第二種奨学金（無利息）貸与
20,000 円/月～120,000 円/月
（10,000 円単位で選択）
経済的に修学が困難で、学業成績・人物ともに優秀と認められ、心身ともに健全な学生
返還利息は卒業後年 3%以内

日本学生支援機構奨学金 給付奨学金
自宅通学 30,000 円/月
自宅外通学 40,000 円/月
住民税非課税世帯、生活保護世帯又は社会的養護を必要とする学生

【障害学生の修学関係】

- ・学生支援センターは、障害の有無にかかわらず全ての学生が等しい条件のもとで学生生活を送れるように支援するとともに、学生の心身の健康の保持増進を図ることを目的としている。
- ・障害学生支援室は、障害のある学生の相談窓口として、障害のある学生が平等公平な修学環境を得られるよう支援の充実を図っている。
- ・入学を希望する学生への情報提供及び相談対応したり、受験上の配慮に関する業務を行ったりしている。
- ・障害のある学生の教育的ニーズを把握し、障害学生支援に係る関係部局及び学外機関等との連絡調整をしている。
- ・学生サポーターの募集、養成及び支援組織運営管理を行っている。
- ・施設・設備のバリアフリー化に関する業務を行っている。

【学生相談室関係】

- ・学生相談室は、学生個人の心理的な諸問題についてのカウンセリングを行い、学生生活を有意義かつ健康に送れるよう支援の充実を図ることを目的としている。
- ・学生個人の修学、その他の日常生活における心理的な諸問題についてのカウンセリングを行う。
- ・業務に必要な資料の収集及び整理保存を行う。

【ハラスメント関係】

基本的人権尊重の精神に則り、ハラスメントのない快適な環境において、修学・教育研究・就業する権利を保障するため、ハラスメント全般の防止啓発に取り組んでいます。
ハラスメントの具体的な相談については、ハラスメント相談員を配置して面談のほか、手紙、電話、電子メール等で受け付けます。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【就職関係】

【教員採用試験対策支援】

教員経験者による講義や教員採用試験対策講座をはじめ、教員採用試験の面接官を招いた講義や論作文対策など、教員採用試験合格に向けて様々な支援を行っています。

(講座等の内容)

- ・教員採用選考試験対策（一般教養・教職教養・専門・直前対策）
- ・教員採用選考試験2次対策（模擬面接、実技、集団討論、模擬授業等）
- ・教員採用選考模擬試験（3年次12月・3月・4年次4月）
- ・集団面接・個人面接対策
- ・願書、論作文添削指導
- ・各県市教員採用選考試験説明会

【公務員試験対策支援】

筆記や面接などの公務員試験対策講座を開講し、支援を行っています。

(講座等の内容)

- ・公務員試験対策講座（筆記：8月・1～3月 各種面接、集団討論：4～9月）
- ・公務員内定者報告会

【企業就職対策支援】

3年次生から、実際の就職活動に向けたカリキュラム、各種講座を開講しています。また、3年次生後期及び4年次生前期にゼミ別に学生、教員、就職課職員との三者面談を行い、就職活動状況を把握しながら適切な支援に努めています。

(講座等の内容)

- ・キャリアセミナー（授業科目）
- ・インターンシップ（授業科目）
- ・企業就職特別講座（自己分析編・業界研究編）
- ・就職合宿
- ・就職対策講座（志望動機作成講座・グループディスカッション講座・面接対策講座・業界研究セミナーなど）
- ・学内企業説明会
- ・資格取得講座（FP技能士、MOS、TOEIC、日商簿記、秘書検定）

【看護師等国家試験対策支援】

1年次生から模試及び解説講座を行い、知識を定着させます。また、学生を中心とした「看護師国家試験対策学生委員会」を組織し、勉強会の開催や国家試験対策への学生の要望を取り入れる等の取り組みを行っています。3年次生から、学生個々の目標を把握しながら、求人情報の提供や就職に関する助言、履歴書添削、面接指導等を教員と協力し支援しています。

(講座等の内容)

看護師・保健師国家試験ガイダンス

看護師・保健師国家試験（模試・講座等）

【進学関係】

大学院進学、他大学への編入学などを希望する学生に対して、資料取り寄せから入学試験対策に至るまで支援をしています。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【学生の心身の健康、保健衛生及び安全関係】

- ・保健室は、学生の心身の健康の保持増進を図ることを目的としている。
- ・学生の健康診断、健康相談、保健指導及び救急処置を行っている。
- ・環境衛生検査を実施し、感染症の予防に取り組んでいる。
- ・健康診断票、学生健康管理カードの作成や保管を行っている。

- ・保健に関する統計・調査等の資料作成を行っている。
- ・学生傷害保険・付帯賠償責任保険に関する業務を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページ上で公表している。URL アドレスは次のとおり。
<http://www.shotoku.ac.jp/outline/pub-info.php>

事業活動収支計算書

平成30年 4月 1日から
平成31年 3月 31日まで

(単位 円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,841,658,000	4,840,963,731	694,269
	授業料	2,309,723,000	2,309,479,031	243,969
	入学金	403,350,000	403,530,000	△ 180,000
	実験実習料	109,896,000	109,515,600	380,400
	施設設備資金	1,042,982,000	1,042,711,000	271,000
	教育振興費	3,600,000	3,600,000	0
	教育充実費	862,463,000	861,538,800	924,200
	特別協力費	3,600,000	3,600,000	0
	その他負担金	106,044,000	106,989,300	△ 945,300
	手数料	135,282,000	125,923,900	9,358,100
	入学検定料	133,372,000	122,477,000	10,895,000
	試験料	780,000	1,933,000	△ 1,153,000
	証明手数料	960,000	1,337,400	△ 377,400
	大学入試センター試験実施手数料	170,000	176,500	△ 6,500
	寄付金	17,732,000	18,947,218	△ 1,215,218
	特別寄付金	2,859,000	0	2,859,000
	一般寄付金	14,873,000	17,440,000	△ 2,567,000
	現物寄付	0	1,507,218	△ 1,507,218
	経常費等補助金	1,056,313,000	1,066,369,535	△ 10,056,535
	国庫補助金	402,700,000	402,717,000	△ 17,000
	地方公共団体補助金	653,613,000	663,652,535	△ 10,039,535
	付随事業収入	87,121,000	88,607,687	△ 1,486,687
	補助活動収入	69,485,000	67,727,408	1,757,592
	受託事業収入	17,636,000	20,880,279	△ 3,244,279
	雑収入	155,271,000	159,173,551	△ 3,902,551
	施設設備利用料収入	37,164,000	35,141,386	2,022,614
	退職給与引当金戻入額	100,000	65,090	34,910
	退職金社団交付金	7,482,000	8,682,949	△ 1,200,949
私立大学退職金財団交付金	73,515,000	74,806,560	△ 1,291,560	
雑収入	37,010,000	40,477,566	△ 3,467,566	
教育活動収入計	6,293,377,000	6,299,985,622	△ 6,608,622	
教育活動収支	科 目	予 算	決 算	差 異
	人件費	3,698,402,000	3,691,815,011	6,586,989
	教員人件費	2,758,219,104	2,758,219,104	0
	職員人件費	741,362,809	738,100,749	3,262,060
	役員報酬	30,803,234	28,986,234	1,817,000
	退職金	18,566,031	18,564,862	1,169
	退職給与引当金繰入額	149,450,822	147,944,062	1,506,760
	教育研究経費	2,034,006,000	1,935,905,918	98,100,082
	消耗品費	165,390,636	151,571,831	13,818,805
	光熱水費	151,707,391	149,758,058	1,949,333
	旅費交通費	57,262,630	50,701,806	6,560,824
	奨学費	164,815,000	159,959,686	4,855,314
	印刷製本費	37,250,820	28,581,185	8,669,635
	通信運搬費	23,056,000	17,432,254	5,623,746
	修繕費	79,328,587	57,912,333	21,416,254
	実験実習費	35,763,000	28,255,479	7,507,521
	学生生徒等福利厚生費	12,754,000	11,173,798	1,580,202
	課外教育活動費	8,806,900	6,616,135	2,190,765
	賃借料	117,065,000	114,920,437	2,144,563
	保守点検委託費	213,351,128	211,581,136	1,769,992
	諸会費	19,595,000	17,156,203	2,438,797
	公租公課	649,490	564,286	85,204
	損害保険料	6,787,000	5,485,621	1,301,379
	会議費	129,280	79,280	50,000
	支払報酬等	19,488,000	15,396,944	4,091,056
	生徒輸送費	226,743,343	226,725,393	17,950
	不動産取りこわし費	1,836,000	1,836,000	0
	雑費	62,319,335	50,308,380	12,010,955
減価償却額	629,907,460	629,889,673	17,787	
管理経費	474,253,000	445,304,523	28,948,477	
消耗品費	12,591,000	8,837,567	3,753,433	
光熱水費	11,201,673	11,023,561	178,112	
旅費交通費	14,582,178	13,707,675	874,503	
印刷製本費	35,868,000	34,652,518	1,215,482	

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動支出の部	通信運搬費	12,743,153	10,565,426	2,177,727
		修繕費	5,136,000	4,110,743	1,025,257
		賃借料	22,883,700	21,399,821	1,483,879
		保守点検委託費	42,987,000	40,873,721	2,113,279
		諸会費	5,218,820	4,791,180	427,640
		公租公課	21,875,287	21,711,894	163,393
		損害保険料	4,409,000	3,962,748	446,252
		会議費	500,000	339,820	160,180
		支払報酬等	8,813,640	8,274,560	539,080
		渉外費	16,625,000	14,733,492	1,891,508
		広告料	115,178,964	113,432,968	1,745,996
		福利厚生費	8,747,826	7,862,485	885,341
		検定料等減免費	3,730,000	1,670,000	2,060,000
		賄費	61,588,490	60,167,628	1,420,862
		地方公共団体補助金返還金	40,000	40,000	0
		雑費	28,263,380	21,892,917	6,370,463
		減価償却額	41,269,889	41,253,799	16,090
		徴収不能額等	12,967,000	2,075,000	10,892,000
		徴収不能引当金繰入額	3,098,000	756,000	2,342,000
		徴収不能額	9,869,000	1,319,000	8,550,000
教育活動支出計	6,219,628,000	6,075,100,452	144,527,548		
教育活動収支差額		73,749,000	224,885,170	△ 151,136,170	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	14,000,000	11,838,183	2,161,817
		その他の受取利息・配当金	14,000,000	11,838,183	2,161,817
		その他の教育活動外収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
		収益事業収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
		教育活動外収入計	29,000,000	31,838,183	△ 2,838,183
		科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	270,000	270,000	0
		借入金利息	270,000	270,000	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	270,000	270,000	0		
教育活動外収支差額		28,730,000	31,568,183	△ 2,838,183	
経常収支差額		102,479,000	256,453,353	△ 153,974,353	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	10,000,000	9,321,043	678,957
		施設売却差額	0	2,458,388	△ 2,458,388
		設備売却差額	0	434,157	△ 434,157
		有価証券売却差額	10,000,000	6,428,498	3,571,502
		その他の特別収入	44,758,000	36,673,648	8,084,352
		施設設備寄付金	25,100,000	25,545,003	△ 445,003
		現物寄付	8,945,000	11,128,645	△ 2,183,645
		施設設備補助金	10,713,000	0	10,713,000
		過年度修正額	0	0	0
	特別収入計	54,758,000	45,994,691	8,763,309	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	44,100,000	31,443,613	12,656,387
		有価証券売却差額	20,000,000	7,698,697	12,301,303
		施設除却差額	0	0	0
		設備除却差額	24,100,000	23,744,916	355,084
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	44,100,000	31,443,613	12,656,387
		特別収支差額	10,658,000	14,551,078	△ 3,893,078
		[予備費]	(0)		47,500,000
基本金組入前当年度収支差額		65,637,000	271,004,431	△ 205,367,431	
基本金組入額合計	△ 295,860,000	△ 277,437,753	△ 18,422,247		
当年度収支差額	△ 230,223,000	△ 6,433,322	△ 223,789,678		
前年度繰越収支差額	△ 6,289,192,358	△ 6,289,192,358	0		
基本金取崩額	7,690,000	7,657,327	32,673		
翌年度繰越収支差額	△ 6,511,725,358	△ 6,287,968,353	△ 223,757,005		
(参考)					
事業活動収入計		6,377,135,000	6,377,818,496	△ 683,496	
事業活動支出計		6,311,498,000	6,106,814,065	204,683,935	

事業活動収支計算書

平成29年 4月 1日から
平成30年 3月31日まで

(単位 円)

	科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,766,400,000	4,760,352,565	6,047,435
	授業料	2,266,437,000	2,262,755,825	3,681,175
	入学金	436,910,000	438,040,000	△ 1,130,000
	実験実習料	93,312,000	93,665,800	△ 353,800
	施設設備資金	1,015,530,000	1,013,157,000	2,373,000
	教育振興費	3,900,000	3,900,000	0
	教育充実費	833,955,000	832,102,700	1,852,300
	特別協力費	3,900,000	3,900,000	0
	その他負担金	112,456,000	112,831,240	△ 375,240
	手数料	138,817,000	125,185,290	13,631,710
	入学検定料	133,577,000	118,595,000	14,982,000
	試験料	780,000	1,672,000	△ 892,000
	証明手数料	960,000	1,171,500	△ 211,500
	大学入試センター試験実施手数料	3,500,000	3,746,790	△ 246,790
	寄付金	19,251,000	19,390,074	△ 139,074
	特別寄付金	2,880,000	210,000	2,670,000
	一般寄付金	15,220,000	17,560,000	△ 2,340,000
	現物寄付	1,151,000	1,620,074	△ 469,074
	経常費等補助金	1,059,093,000	1,058,735,768	357,232
	国庫補助金	398,536,000	398,536,000	0
	地方公共団体補助金	660,557,000	660,199,768	357,232
	付随事業収入	83,740,000	86,277,704	△ 2,537,704
	補助活動収入	70,680,000	71,529,314	△ 849,314
	受託事業収入	13,060,000	14,748,390	△ 1,688,390
	雑収入	301,305,000	307,464,474	△ 6,159,474
	施設設備利用料	32,098,000	33,433,199	△ 1,335,199
	退職給与引当金戻入額	0	183,417	△ 183,417
	退職金社団交付金	60,000,000	60,005,999	△ 5,999
	私立大学退職金財団交付金	188,400,000	188,408,100	△ 8,100
	雑収入	20,807,000	25,433,759	△ 4,626,759
教育活動収入計	6,368,606,000	6,357,405,875	11,200,125	
事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
	人件費	3,861,704,000	3,836,579,411	25,124,589
	教員人件費	2,759,826,102	2,759,826,102	0
	職員人件費	761,415,792	745,472,998	15,942,794
	役員報酬	29,198,418	29,198,418	0
	退職給与引当金繰入額	239,277,944	230,477,786	8,800,158
	退職金	71,985,744	71,604,107	381,637
	教育研究経費	2,098,623,000	2,024,331,337	74,291,663
	消耗品費	150,890,031	141,115,561	9,774,470
	光熱水費	141,767,644	139,406,292	2,361,352
	旅費交通費	53,404,606	47,918,297	5,486,309
	奨学費	185,709,599	184,820,424	889,175
	印刷製本費	34,982,696	27,532,932	7,449,764
	通信運搬費	22,501,000	14,727,802	7,773,198
	修繕費	152,040,000	144,710,563	7,329,437
	実験実習費	32,692,000	27,586,486	5,105,514
	学生生徒等福利厚生費	10,252,000	9,995,697	256,303
	課外教育活動費	8,996,000	6,690,618	2,305,382
	賃借料	120,533,718	117,442,163	3,091,555
	保守点検委託費	218,041,018	210,153,530	7,887,488
	諸会費	20,284,000	17,328,660	2,955,340
	公租公課	952,816	868,288	84,528
	損害保険料	6,901,000	5,762,849	1,138,151
	会議費	50,000	0	50,000
	支払報酬等	15,223,522	12,395,076	2,828,446
	生徒輸送費	210,595,341	210,595,341	0
	不動産取りこわし費	43,000	42,904	96
	雑費	53,883,009	47,290,389	6,592,620
	減価償却額	658,880,000	657,947,465	932,535
	管理経費	466,300,000	438,987,905	27,312,095
消耗品費	12,778,000	11,417,142	1,360,858	
光熱水費	10,337,912	9,532,967	804,945	
旅費交通費	15,102,524	13,880,853	1,221,671	
印刷製本費	34,363,000	32,770,679	1,592,321	

		科 目	予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	事業活動支出の部	通信運搬費	10,152,237	7,812,863	2,339,374	
		修繕費	5,718,226	3,756,945	1,961,281	
		賃借料	23,012,000	21,534,768	1,477,232	
		保守点検委託費	36,446,968	35,541,103	905,865	
		諸会費	5,712,000	5,374,250	337,750	
		公租公課	22,031,678	19,797,486	2,234,192	
		損害保険料	4,565,130	4,259,308	305,822	
		会議費	550,000	364,982	185,018	
		支払報酬等	7,744,000	7,506,177	237,823	
		渉外費	12,811,308	10,865,058	1,946,250	
		広告料	127,067,164	124,183,007	2,884,157	
		福利厚生費	9,529,039	7,724,244	1,804,795	
		検定料等減免費	3,755,000	3,170,000	585,000	
		賄費	63,770,482	63,641,083	129,399	
		雑費	20,843,332	17,037,555	3,805,777	
		減価償却額	40,010,000	38,817,435	1,192,565	
		徴収不能額等	13,357,000	5,360,000	7,997,000	
		徴収不能引当金繰入額	3,789,000	2,206,000	1,583,000	
		徴収不能額	9,568,000	3,154,000	6,414,000	
		教育活動支出計	6,439,984,000	6,305,258,653	134,725,347	
教育活動収支差額	△ 71,378,000	52,147,222	△ 123,525,222			
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		受取利息・配当金	34,000,000	31,593,664	2,406,336	
		その他の受取利息・配当金	34,000,000	31,593,664	2,406,336	
		その他の教育活動外収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000	
		収益事業収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000	
		教育活動外収入計	49,000,000	51,593,664	△ 2,593,664	
		事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
			借入金等利息	330,000	330,000	0
			借入金利息	330,000	330,000	0
			その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	330,000		330,000	0		
教育活動外収支差額	48,670,000	51,263,664	△ 2,593,664			
経常収支差額	△ 22,708,000	103,410,886	△ 126,118,886			
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産売却差額	20,000,000	9,788,376	10,211,624	
		設備売却差額	0	10,000	△ 10,000	
		有価証券売却差額	20,000,000	9,778,376	10,221,624	
		その他の特別収入	52,939,000	58,957,936	△ 6,018,936	
		施設設備寄付金	23,600,000	26,566,000	△ 2,966,000	
		現物寄付	19,439,000	22,485,813	△ 3,046,813	
		施設設備補助金	9,900,000	9,900,000	0	
		過年度修正額	0	6,123	△ 6,123	
		特別収入計	72,939,000	68,746,312	4,192,688	
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異	
		資産処分差額	44,101,000	31,596,796	12,504,204	
		有価証券売却差額	20,000,000	10,245,118	9,754,882	
		施設除却差額	1,000	3	997	
		設備除却差額	24,100,000	21,351,675	2,748,325	
		その他の特別支出	0	0	0	
	特別支出計	44,101,000	31,596,796	12,504,204		
	特別収支差額	28,838,000	37,149,516	△ 8,311,516		
	[予備費]	(0)		47,500,000		
	基本金組入前当年度収支差額	△ 41,370,000	140,560,402	△ 181,930,402		
基本金組入額合計	△ 523,600,000	△ 482,823,761	△ 40,776,239			
当年度収支差額	△ 564,970,000	△ 342,263,359	△ 222,706,641			
前年度繰越収支差額	△ 5,974,712,586	△ 5,974,712,586	0			
基本金取崩額	24,780,000	27,783,587	△ 3,003,587			
翌年度繰越収支差額	△ 6,514,902,586	△ 6,289,192,358	△ 225,710,228			
(参考)						
事業活動収入計	6,490,545,000	6,477,745,851	12,799,149			
事業活動支出計	6,531,915,000	6,337,185,449	194,729,551			

事業活動収支計算書

平成28年 4月 1日から
平成29年 3月31日まで

(単位 円)

		予 算	決 算	差 異
事業活動収入の部	科 目			
	学生生徒等納付金	4,531,173,000	4,517,202,900	13,970,100
	授業料	2,178,747,000	2,169,274,400	9,472,600
	入学金	349,520,000	354,375,000	△ 4,855,000
	実験実習料	67,724,000	68,114,500	△ 390,500
	施設設備資金	974,733,000	973,753,000	980,000
	教育振興費	23,300,000	22,100,000	1,200,000
	教育充実費	793,179,000	792,507,400	671,600
	特別協力費	23,300,000	22,100,000	1,200,000
	その他負担金	120,670,000	114,978,600	5,691,400
	手数料	134,145,000	123,826,690	10,318,310
	入学検定料	132,354,000	121,361,000	10,993,000
	試験料	812,000	1,021,500	△ 209,500
	証明手数料	979,000	1,279,250	△ 300,250
	大学入試センター試験実施手数料	0	164,940	△ 164,940
	寄付金	28,590,000	21,355,401	7,234,599
	特別寄付金	3,090,000	0	3,090,000
	一般寄付金	15,370,000	20,000,000	△ 4,630,000
	現物寄付	10,130,000	1,355,401	8,774,599
	経常費等補助金	996,868,000	999,178,016	△ 2,310,016
	国庫補助金	375,255,000	375,619,000	△ 364,000
	地方公共団体補助金	621,613,000	623,559,016	△ 1,946,016
	付随事業収入	81,089,000	81,558,877	△ 469,877
	補助活動収入	70,250,000	69,144,140	1,105,860
	受託事業収入	10,839,000	12,414,737	△ 1,575,737
	雑収入	261,572,000	274,713,635	△ 13,141,635
	施設設備利用料	41,020,000	46,080,826	△ 5,060,826
	退職給与引当金戻入額	8,000,000	8,984,467	△ 984,467
	退職金社団交付金	109,440,000	109,446,500	△ 6,500
	私立大学退職金財団交付金	89,313,000	89,313,640	△ 640
雑収入	13,799,000	20,888,202	△ 7,089,202	
教育活動収入計	6,033,437,000	6,017,835,519	15,601,481	
事業活動支出の部	科 目			
	人件費	3,830,426,000	3,798,188,976	32,237,024
	教員人件費	2,769,435,111	2,769,435,111	0
	職員人件費	751,320,178	732,736,807	18,583,371
	役員報酬	29,417,866	29,183,010	234,856
	退職給与引当金繰入額	153,497,233	140,859,470	12,637,763
	退職金	126,755,612	125,974,578	781,034
	教育研究経費	2,030,698,000	1,916,589,194	114,108,806
	消耗品費	176,742,745	150,576,063	26,166,682
	光熱水費	145,016,108	127,390,243	17,625,865
	旅費交通費	57,028,568	49,902,720	7,125,848
	奨学費	152,458,000	136,812,304	15,645,696
	印刷製本費	33,530,000	27,152,711	6,377,289
	通信運搬費	22,348,416	15,747,622	6,600,794
	修繕費	66,812,904	65,823,142	989,762
	実験実習費	27,150,000	23,326,579	3,823,421
	学生生徒等福利厚生費	9,216,000	8,960,083	255,917
	課外教育活動費	10,571,507	8,835,378	1,736,129
	賃借料	119,590,215	117,799,877	1,790,338
	保守点検委託費	223,841,170	216,291,843	7,549,327
	諸会費	20,935,000	16,938,254	3,996,746
	公租公課	664,300	411,250	253,050
	損害保険料	7,779,054	6,999,123	779,931
	会議費	90,000	0	90,000
	支払報酬等	13,238,000	12,059,507	1,178,493
	生徒輸送費	183,211,296	183,133,332	77,964
	不動産取りこわし費	290,000	289,831	169
	雑費	63,467,000	51,830,384	11,636,616
	減価償却額	696,717,717	696,308,948	408,769
	管理経費	462,300,000	428,274,160	34,025,840
消耗品費	9,348,433	8,416,951	931,482	
光熱水費	6,521,891	5,411,165	1,110,726	
旅費交通費	15,582,430	13,123,373	2,459,057	
印刷製本費	36,339,131	33,570,267	2,768,864	

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動支出の部	通信運搬費	9,372,707	7,011,856	2,360,851
		修繕費	4,536,642	3,174,835	1,361,807
		賃借料	22,728,000	21,292,218	1,435,782
		保守点検委託費	32,095,407	29,859,338	2,236,069
		諸会費	4,832,660	4,470,640	362,020
		公租公課	21,363,531	21,138,368	225,163
		損害保険料	5,220,264	4,819,124	401,140
		会議費	585,000	413,324	171,676
		支払報酬等	6,321,000	6,101,372	219,628
		不動産取りこわし費	90,000	0	90,000
		渉外費	25,521,182	19,704,423	5,816,759
		広告料	132,601,690	125,315,801	7,285,889
		福利厚生費	8,857,273	7,558,739	1,298,534
		検定料等減免費	3,730,000	3,355,000	375,000
		賄費	64,646,224	63,175,831	1,470,393
		雑費	24,956,535	23,417,996	1,538,539
		減価償却額	27,050,000	26,943,539	106,461
		徴収不能額等	12,480,000	1,342,000	11,138,000
		徴収不能引当金繰入額	2,890,000	1,342,000	1,548,000
		徴収不能額	9,590,000	0	9,590,000
		教育活動支出計	6,335,904,000	6,144,394,330	191,509,670
教育活動収支差額		△ 302,467,000	△ 126,558,811	△ 175,908,189	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	40,000,000	43,448,317	△ 3,448,317
		その他の受取利息・配当金	40,000,000	43,448,317	△ 3,448,317
		その他の教育活動外収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
		収益事業収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
		教育活動外収入計	55,000,000	63,448,317	△ 8,448,317
		科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金等利息	772,000	769,552	2,448
		借入金利息	772,000	769,552	2,448
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	772,000	769,552	2,448		
教育活動外収支差額		54,228,000	62,678,765	△ 8,450,765	
経常収支差額		△ 248,239,000	△ 63,880,046	△ 184,358,954	
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	26,000,000	26,494,453	△ 494,453
		有価証券売却差額	26,000,000	26,494,453	△ 494,453
		その他の特別収入	40,380,000	49,331,933	△ 8,951,933
		施設設備寄付金	18,600,000	22,603,000	△ 4,003,000
		現物寄付	1,060,000	10,075,933	△ 9,015,933
		施設設備補助金	20,720,000	16,653,000	4,067,000
		特別収入計	66,380,000	75,826,386	△ 9,446,386
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	79,910,000	69,570,529	10,339,471
		有価証券売却差額	18,000,000	16,913,810	1,086,190
		施設除却差額	10,000	0	10,000
		設備除却差額	61,900,000	52,656,719	9,243,281
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	79,910,000	69,570,529	10,339,471		
特別収支差額		△ 13,530,000	6,255,857	△ 19,785,857	
[予備費]		(0)		47,500,000	
基本金組入前当年度収支差額		△ 309,269,000	△ 57,624,189	△ 251,644,811	
基本金組入額合計		△ 373,820,000	△ 368,504,947	△ 5,315,053	
当年度収支差額		△ 683,089,000	△ 426,129,136	△ 256,959,864	
前年度繰越収支差額		△ 5,561,191,013	△ 5,561,191,013	0	
基本金取崩額		5,770,000	12,607,563	△ 6,837,563	
翌年度繰越収支差額		△ 6,238,510,013	△ 5,974,712,586	△ 263,797,427	
(参考)					
事業活動収入計		6,154,817,000	6,157,110,222	△ 2,293,222	
事業活動支出計		6,464,086,000	6,214,734,411	249,351,589	

貸 借 対 照 表

平成31年 3月31日

(単位 円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	21,760,088,731	22,089,681,756	△ 329,593,025
有 形 固 定 資 産	17,240,775,949	17,690,598,846	△ 449,822,897
土 地	3,751,140,666	3,734,235,159	16,905,507
建 物	10,920,977,914	11,372,053,129	△ 451,075,215
構 築 物	410,510,224	464,643,074	△ 54,132,850
教 育 研 究 用 機 器 備 品	674,258,163	623,682,431	50,575,732
管 理 用 機 器 備 品	42,794,030	46,839,716	△ 4,045,686
図 書	1,433,639,621	1,439,594,826	△ 5,955,205
車 両	7,455,331	9,550,511	△ 2,095,180
特 定 資 産	2,721,738,000	2,403,878,000	317,860,000
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産	811,200,000	811,200,000	0
施 設 設 備 維 持 引 当 特 定 資 産	243,506,000	225,646,000	17,860,000
学 園 維 持 引 当 特 定 資 産	1,667,032,000	1,367,032,000	300,000,000
そ の 他 の 固 定 資 産	1,797,574,782	1,995,204,910	△ 197,630,128
電 話 加 入 権	3,584,769	3,584,769	0
施 設 利 用 権	3,831,365	4,571,593	△ 740,228
ソ フ ト ウ ェ ア	751,680	1,939,560	△ 1,187,880
有 価 証 券	1,399,037,068	1,597,678,068	△ 198,641,000
収 益 事 業 元 入 金	301,178,800	301,178,800	0
出 資 金	88,600,000	85,600,000	3,000,000
差 入 保 証 金	591,100	652,120	△ 61,020
流 動 資 産	3,021,457,596	2,787,274,811	234,182,785
現 金 預 金	2,349,232,719	1,934,921,113	414,311,606
未 収 入 金	90,715,028	265,571,801	△ 174,856,773
有 価 証 券	564,801,235	572,652,432	△ 7,851,197
仮 払 金	0	35,000	△ 35,000
前 払 金	16,708,614	14,094,465	2,614,149
資 産 の 部 合 計	24,781,546,327	24,876,956,567	△ 95,410,240
負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	1,454,842,749	1,545,155,595	△ 90,312,846
長 期 借 入 金	0	140,000,000	△ 140,000,000
長 期 未 払 金	10,382,568	0	10,382,568
退 職 給 与 引 当 金	1,444,460,181	1,405,155,595	39,304,586
流 動 負 債	1,313,550,896	1,589,652,721	△ 276,101,825
短 期 借 入 金	0	40,000,000	△ 40,000,000
未 払 金	224,623,923	473,959,412	△ 249,335,489
前 受 金	891,655,000	894,250,000	△ 2,595,000
預 り 金	112,603,064	122,398,742	△ 9,795,678
仮 受 金	84,668,909	59,044,567	25,624,342
負 債 の 部 合 計	2,768,393,645	3,134,808,316	△ 366,414,671
純 資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	28,301,121,035	28,031,340,609	269,780,426
第 1 号 基 本 金	27,872,121,035	27,602,340,609	269,780,426
第 4 号 基 本 金	429,000,000	429,000,000	0
繰 越 収 支 差 額	△ 6,287,968,353	△ 6,289,192,358	1,224,005
翌 年 度 繰 越 収 支 差 額	△ 6,287,968,353	△ 6,289,192,358	1,224,005
純 資 産 の 部 合 計	22,013,152,682	21,742,148,251	271,004,431
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	24,781,546,327	24,876,956,567	△ 95,410,240

直近3年度の収容定員充足率の状況

令和元年5月1日現在

(単位：人)

学部・学科等		収容定員	在学生数	収容定員充足率	
岐阜聖徳学園大学	教育学部	学校教育課程	1,320	1,522	115%
	経済情報学部	経済情報学科	600	597	99%
	外国語学部	外国語学科	600	547	91%
	看護学部	看護学科	320	336	105%
	計		2,840	3,002	105%
短期大学部	幼児教育学科第一部		200	149	74%
	幼児教育学科第三部		150	153	102%
	計		350	302	86%

平成30年5月1日現在

(単位：人)

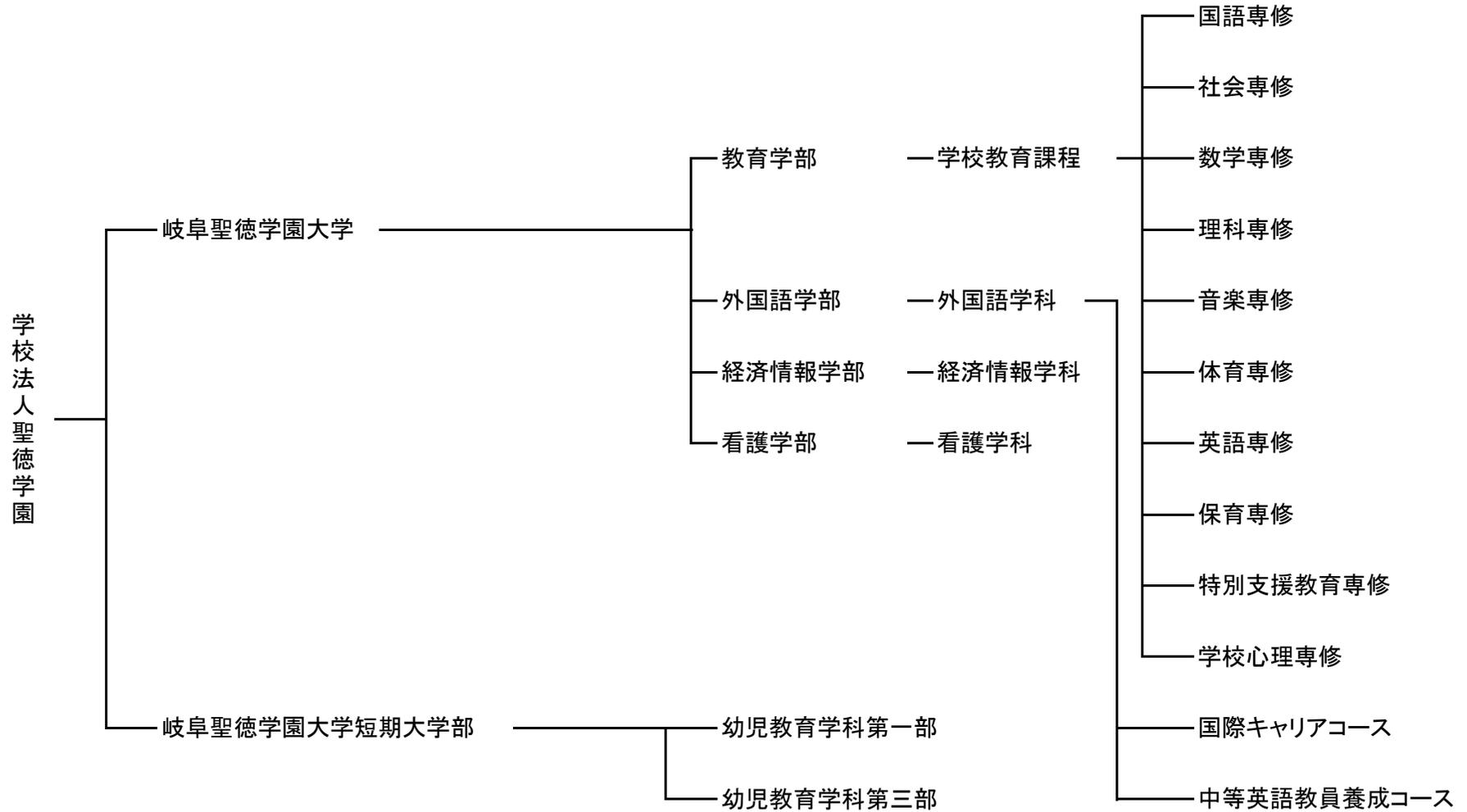
学部・学科等		収容定員	在学生数	収容定員充足率	
岐阜聖徳学園大学	教育学部	学校教育課程	1,320	1,526	115%
	経済情報学部	経済情報学科	600	589	98%
	外国語学部	外国語学科	600	524	87%
	看護学部	看護学科	320	307	95%
	計		2,840	2,946	103%
短期大学部	幼児教育学科第一部		200	192	96%
	幼児教育学科第三部		150	164	109%
	計		350	356	101%

平成29年5月1日現在

(単位：人)

学部・学科等		収容定員	在学生数	収容定員充足率	
岐阜聖徳学園大学	教育学部	学校教育課程	1,290	1,541	119%
	経済情報学部	経済情報学科	650	553	85%
	外国語学部	外国語学科	600	516	86%
	看護学部	看護学科	240	226	94%
	計		2,780	2,836	102%
短期大学部	幼児教育学科第一部		200	199	99%
	幼児教育学科第三部		150	166	110%
	計		350	365	104%

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧



実務経験のある教員による授業科目の配置一覧

講義コード	年度	開講責任部署	科目名	単位	講義区分	担当教員	実務家教員	実務経験を生かした授業内容
1 5013801	2019年度	教育学部	教育課程論	2	講義	玉置 崇	教諭(講師を含む)	教育課程編成の最終責任者は校長にあることから、すべての回において、校長として教育課程編成においてどう動いたか、どう見直し、編成をしてきたかなど学校現場での実例を示しながら、学生の教育課程への理解を深める。
2 5174601	2019年度	教育学部	教育情報方法論(初等)	2	講義	石原 一彦	教諭(講師を含む)	学校現場の経験を生かし、教育方法や教育の情報化に資する技能を演習形式で指導する。
3 5128601	2019年度	教育学部	初等英語	2	講義	加藤 拓由	教諭(講師を含む)	小中学校現場での指導経験を生かし、英語教育の意義や教師の役割について講義する
4 6010201	2019年度	教育学部	教師論(幼・小・中・高)	2	講義	水川 和彦	教諭(講師を含む)	様々な実務経験をもとに、教師の在り方や対応等について具体的な事例を示し、その背景にある捉え方、考え方、基盤にすべき事項などについて論議する授業を構築する。
5 5280901	2019年度	教育学部	初等教科教育法(体育)	2	講義	稲垣 良介	教諭(講師を含む)	学校現場の経験を活かし、小学校の体育授業に密接に関連させながら体育の目標、内容、方法について講義する。
6 5280401	2019年度	教育学部	初等教科教育法(理科)	2	講義	高木 正之	教諭(講師を含む)	担当教員による模擬授業を通して、問題解決の授業のあり方を理解する。
7 5170601	2019年度	教育学部	障害児教育学(初等)	2	講義	松本 和久	教諭(講師を含む)	通常の学級(3年)、特別支援学級(11年)、特別支援学校(3年)と、合計17年間学校教育現場で児童生徒の支援に携わってきた。その経験を踏まえ、具体的な事例を交えながら講義を進める。

総単位数

14

実務経験のある教員による授業科目の配置一覧

講義コード	年度	開講責任部署	科目名	単位	講義区分	担当教員	実務家教員	実務経験を生かした授業内容
1 5352502	2019年度	外国語学部	ME I(メディアの英語 I)	2	講義	宮原 淳	新聞記者(中日新聞)	記者経験を生かして、報道の現場を紹介する
2 5352602	2019年度	外国語学部	ME II(メディアの英語 II)	2	講義	宮原 淳	新聞記者(中日新聞)	記者経験を生かして、報道の現場を紹介する
3 5361002	2019年度	外国語学部	英文法教育研究 I (C5-8)	2	講義	伊佐地 恒久、 大屋 進	岐阜県公立高校英語科教諭	文法指導の理論と実践を、実務経験を生かして結びつけ、学生を指導する。
4 5361101	2019年度	外国語学部	英文法教育研究 II (C1-4)	2	講義	伊佐地 恒久、 大屋 進	岐阜県公立高校英語科教諭	英文法の実践的な指導を学生に理解させるために、実務経験を生かす。
5 5000131	2019年度	外国語学部	宗教学 I [外看]	2	講義	蜷川 祥美	浄土真宗本願寺派 僧侶・教師・輔教・教師 検定試験委員	僧侶として、信仰者の情操を参照しながら講義する。
6 5000231	2019年度	外国語学部	宗教学 II [外看]	2	講義	蜷川 祥美	浄土真宗本願寺派 僧侶・教師・輔教・教師 検定試験委員	僧侶として、信仰者の情操を参照しながら講義する。
7 5356001	2019年度	外国語学部	情報実務Ⅲ	1	演習	長谷川 信	システムエンジニア	コンピュータ会社の勤務経験を生かし、データの活用方法とソフトウェアの活用方法について演習を行う。

総単位数

13

実務経験のある教員による授業科目の配置一覧

講義コード	年度	開講責任部署	科目名	単位	講義区分	担当教員	実務家教員	実務経験を生かした授業内容
1 5102359	2019年度	経済情報学部経済情報学科	基礎セミナーⅡ[経済情報]	1	演習	阿部 邦美	講師(インストラクタ)	授業の一部で、IT企業等での実務経験がある外部講師がパワーポイントの手法等の授業を行う。
2 5102251	2019年度	経済情報学部経済情報学科	基礎セミナーⅠ[経済情報]	1	演習	伊東 裕希	セミナー講師	授業の一部で、キャリアコンサルタント等の実務経験がある外部講師がグループワークの手法等について授業を行う。
3 5557501	2019年度	経済情報学部経済情報学科	商学概論	2	講義	山田 浩喜	流通小売業でのマーケティング担当	流通小売業でのマーケティング業務経験を活かし、流通業の仕組みや課題を講義する。
4 5557601	2019年度	経済情報学部経済情報学科	流通論	2	講義	山田 浩喜	流通小売業でのマーケティング担当	流通小売業でのマーケティング業務の経験を活かし、流通業の戦略や課題について講義する。
5 5557901	2019年度	経済情報学部経済情報学科	マーケティング論	2	講義	山田 浩喜	企業でのマーケティング担当	企業でのマーケティング業務の経験を活かし、マーケティング戦略の目的や役割について講義する。
6 5558001	2019年度	経済情報学部経済情報学科	マーケティングリサーチ	2	講義	山田 浩喜	企業でのマーケティング担当	企業でのマーケティング業務の経験を活かし、データ分析の手法、マーケティング施策について講義する。
7 5559701	2019年度	経済情報学部経済情報学科	キャリアデザインⅡ	2	講義	中村 亜綺	キャリアコンサルタント	個人や組織の問題の本質を探り解決を図る
8 5521901	2019年度	経済情報学部経済情報学科	キャリアデザインⅠ	2	講義	今枝 正史	就職支援コンサルタント	「キャリア形成」教育支援会社や就職支援コンサルタントの経験を活かし、大学卒業後のキャリア設計および社会人基礎力について講義する。

総単位数

14

実務経験のある教員による授業科目の配置一覧

講義コード	年度	開講責任部署	科目名	単位	講義区分	担当教員	実務家教員	実務経験を生かした授業内容
1 7010101	2019年度	看護学部	看護学概論	2	講義	上田 ゆみ子	看護師	病院勤務における患者への看護ケアを通して得た知識と経験を交えながら、看護とは何かを講義する
2 7011101	2019年度	看護学部	成人看護学概論	2	講義	大久保 仁司、古川 智恵	看護師	成人期にある人の健康障害が生活に与える影響とそれを支える看護の概要について、病院勤務の経験を活かし解説する。
3 7011601	2019年度	看護学部	老年看護学概論	2	講義	中尾 治子	看護師	病院・施設勤務の経験を生かし、老年看護の特徴と看護の役割について講義する。
4 7012101	2019年度	看護学部	小児看護学概論	1	講義	大見サキエ、高橋 由美子、小平 由美子	看護師、子育て支援活動家	医療機関での看護師の勤務経験、地域における子育て支援活動の経験を踏まえて講義を展開する。
5 7012701	2019年度	看護学部	母性看護学概論	2	講義	門脇 千恵	看護師、助産師	病院や地域において行ってきた(妊産婦指導・更年期指導・思春期指導)について講義をする。
6 7013101	2019年度	看護学部	精神看護学概論	2	講義	小林 純子	看護師	精神科病院での勤務経験を活かし、精神看護学の概要と看護の役割について講義する。
7 7013601	2019年度	看護学部	在宅看護援助論	2	演習	深谷 由美	訪問看護師・介護支援専門員	訪問看護や介護支援専門員の実践を通して、在宅看護の特徴と多職種連携について講義・演習を行う。
8 7015101	2019年度	看護学部	公衆衛生看護学概論	2	講義	古澤 洋子	保健師	保健所、健診センター勤務の経験を生かし、公衆衛生看護活動の実際と役割について講義する。

総単位数

15

科目名	教育課程論	単位	講義区分	担当教員	玉置 崇
		2単位	講義		
期待される学修成果	学校と社会 自己形成			ナンバリング	BB3CTM102
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	教諭(講師を含む)
実務経験を生かした授業内容	教育課程編成の最終責任者は校長にあることから、すべての回において、校長として教育課程編成においてどう動いたか、どう見直し、編成をしてきたかなど学校現場での実例を示しながら、学生の教育課程への理解を深める。				
到達目標及びテーマ	<到達目標>初等中等教育段階における教育課程が果たす役割や意義について理解し、説明ができる。また、各校の実情に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を説明できる。 <テーマ>特色ある教育課程の工夫と編成の在り方				
授業の概略	教育課程の意義と編成方法について学ぶことを目的とする。児童生徒の人格的発達を保障するという教育の課題が学校の現場でどのように計画され、実践されているのかを具体的に検討していく。本講義は、教育課程について理論的・実践的・国際的な観点において幅広く考察し、何のためにどのような教育を行おうとしているのかについて各学校の教育課程編成やカリキュラム・マネジメントの大切さなどを実例等から学ぶ。				
授業計画					
第1回	●教育の目的と学習指導要領の理念、教育課程 本講義の主な内容→教育の目的・役割を考察し、理解する				
第2回	●教育の目的と学習指導要領の理念、教育課程 学習指導要領の経緯と理念を学ぶ→教育課程とは何か(定義)を学ぶ				
第3回	●学校における教育課程の役割・機能 教育課程の意義を理解し、小学校・中学校の教育課程の枠組みとこれまでを理解する				
第4回	●学校における教育課程と教師の役割 教育課程の開発のため、学校現場がカリキュラムの編成を工夫する意味を考察する(総合的な学習の時間)				
第5回	●学校における教育課程と教師の役割 教育課程の開発のため、学校現場がカリキュラムの編成を工夫する意味を考察する(生徒指導)				
第6回	●学校における教育課程と教師の役割 教育課程の開発のため、学校現場がカリキュラムの編成を工夫する意味を考察する(進路指導とキャリア教育)				
第7回	●学校における教育課程と教師の役割 教育課程の開発のため、学校現場がカリキュラムの編成を工夫する意味を考察する(ICT活用)				
第8回	●教育課程で重視すべき「学力」と「生きる力」の関連 「学力」の重要な要素を育成するための教育課程の工夫を検討する。				
第9回	●教育課程の諸理論と今日的課題 現代日本の学力をめぐる課題を紹介→カリキュラム・マネジメントの実例				
第10回	●教育課程の諸理論と今日的課題 学社連携融合活動を生かした教育課程の編成実施の状況を学校教育現場から学ぶ				
第11回	●教育課程の編成、実施、評価と学校教育現場の教育実践の実例 学校教育現場の教育課程を基に教育実践の実例を視聴し(DVD)考察する				
第12回	●教育課程の編成、実施、評価と学校教育現場の教育実践の実例 教育目標の設定と教育評価の意義と方法について教育課程の編成の立場から検討する				
第13回	●教育課程の編成、実施、評価と学校教育現場の教育実践の実例 教育課程の改善・授業づくりの実態(よのなか科実践)から学ぶ				
第14回	●教育課程の編成、実施、評価と学校教育現場の教育実践の実例 特色ある学校づくりとカリキュラム、学校評議員や地域との連携等を学ぶ				
第15回	まとめ(特色ある教育課程の工夫と編成のあり方)と振り返り				
事前学修	2時間	各回のテーマに沿って教科書の当該頁を熟読すること 各回のテーマに沿って事前配付の資料を熟読し授業に臨む			
事後学修	2時間	授業に課された内容をノートにまとめておくこと 学校現場から学んだ内容をノートにまとめておくこと 14回終了後、研究課題レポートの提出			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	75 %	毎回の授業の中で振り返りを400字程度の文章にて行う。その内容を評価し、累積によって総合評価を行う。特にその授業で新たに知ったこと、考えたことが明記されているかが重要となる。			
上記以外の試験、平常点評価	25 %	毎回の授業において意図的指名により発言を促したり、グループで話し合い発表することを多用する。その活動への積極性と全体への貢献度を評価する。			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』『中学校学習指導要領解説 総則編』				
参考資料	『高等学校学習指導要領解説 総則編』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 また初回の講義時に参考文献一覧を別途配付する				

科目名	教育情報方法論(初等)	単位	講義区分	担当教員	石原 一彦
		2単位	講義		
期待される学修成果	基礎教養 学校と社会			ナンバリング	ED3ECM256
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク			実務家教員	教諭(講師を含む)
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、教育方法や教育の情報化に資する技能を演習形式で指導する。				
到達目標及びテーマ	本講義ではこれからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。				
授業の概略	本講義ではまず今までの教育方法の歴史を振り返り、さらにこれからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、指導案の作成や模擬授業を通して、教科等の目的に応じた授業技術を身につける。また、情報機器を活用した創意ある授業作りや、情報モラルを含む情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を習得する。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション 教育方法の基礎的理論と実践の理解(近代の教育思想)				
第2回	教育方法の基礎的理論と実践の理解(近代以降の教育思想)				
第3回	児童に求められる資質・能力を育成するための教育方法(主体的・対話的で深い学びの実現など)の理解と「21世紀型能力」				
第4回	学級・児童・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件の理解				
第5回	児童の学習評価に対する基礎的な考え方の理解				
第6回	話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術の習得				
第7回	目標・内容、教材・教具、授業、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案の作成				
第8回	児童の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりしながら学習内容をふりかえるための情報機器の活用や効果的な教材等の作成と提示				
第9回	児童の情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法の理解				
第10回	情報社会の理解と情報モラルの指導方法の理解				
第11回	プログラミング的思考とプログラミングの指導方法の理解				
第12回	特別支援教育における情報機器の活用				
第13回	情報機器を活用した模擬授業の実施とグループによる評価				
第14回	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための模擬授業の実施とグループによる評価				
第15回	模擬授業の改善と学習のまとめ				
事前学修	2時間	本講義ではシラバスの内容にしたがってノートにまとめたり、指導案や教材を作成したり、模擬授業を行ったりする。事前学修として各回のテーマに沿ってあらかじめ準備をしたり、WEB等で予習しておく。			
事後学修	2時間	事後学修として毎回の講義のテーマごとに自宅でWEBや資料などを用いてまとめるようにする。講義で作成した指導案や教材、プログラム等の学習成果物は回収して評価する。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	50 %	各講義の課題に応じたレポートや模擬授業の内容、学習成果物を評価する。			
上記以外の試験、平常点評価	50 %	講義の最終回に、到達目標がどの程度達成できたのかを確認するための確認テストを実施する。			
教科書	小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 小学校学習指導要領解説総則編(平成29年6月 文部科学省)				
参考資料	・生徒指導提要(平成22年3月 文部科学省) ・「子どもの力を引き出す 授業づくり」(ナツメ社・石原 一彦) ISBN-13: 978-4816351860 ・「ようこそ、未来の教室へーこれがポイント!教師のICT活用」(文溪堂・石原 一彦) ISBN-13: 978-4894237377 (上記の資料の中で必要な箇所を教師がプレゼンで提示して用いる)。				

科目名	初等英語		単位	講義区分	担当教員	加藤 拓由
			2単位	講義		
期待される学修成果	基礎養護 教科教育			ナンバリング	ED2ETM210	
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	教諭(講師含む)	
実務経験を生かした授業内容	小中学校現場での指導経験を生かし、英語教育の意義や教師の役割について講義する					
到達目標及びテーマ	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な実践的な英語運用能力と、英語に関する背景的な知識を習得することができる。					
授業の概略	小学校における外国語活動・外国語の授業を担当するために必要な実践的な英語運用能力を、実際の授業場を意識しながら身につける。また、小・中学校の接続も踏まえながら、小学校で外国語活動・外国語の授業を行う上で不可欠な背景知識(音声・語彙・文構造・文法・正書法)、第二言語習得の基礎理論、児童文学や異文化理解に関する事項等を習得する。					
授業計画						
第1回	第1回 Unit 1 小学校英語の変遷					
第2回	第2回 Unit 2 英語の音声					
第3回	第3回 Unit 3 発音と綴りの関係					
第4回	第4回 Unit 4 英語の文構造・文法					
第5回	第5回 Unit 5 英語の語彙 (第1回～第5回までの「学びのキーワード」小テスト実施)					
第6回	第6回 Unit 6 第二言語取得に関する基本的な知識					
第7回	第7回 Unit 7 児童文学(絵本)					
第8回	第8回 Unit 8 児童文学(子供向けの歌や詩)					
第9回	第9回 Unit 9 異文化理解					
第10回	第10回 Unit 10 英語の書き方 (第6回～第10回までの「学びのキーワード」小テスト実施)					
第11回	第11回 Unit 11 英語コミュニケーション(聞くこと)					
第12回	第12回 Unit 12 英語コミュニケーション(読むこと)					
第13回	第13回 Unit 13 英語コミュニケーション(話すこと)					
第14回	第14回 Unit 14 英語コミュニケーション(書くこと)					
第15回	第15回 Unit 15 英語コミュニケーション(領域統合型の言語活動) (第11回～第15回までの「学びのキーワード」小テスト実施)					
事前学修	2時間	「学びのキーワード」について授業内で質問するので、テキストを熟読し、簡潔に説明できるようにしておく。また、5回、10回、15回には「学びのキーワード」から抽出し小テストを行う。				
事後学修	2時間	授業で学修したことや、グループで議論した内容をふまえ、「Discussion Topic」についてA4 1枚以内でShort Reportを作成し、次時までに提出する。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	0 %					
レポート	45 %	毎回、授業で学修したことやグループで議論したことをふまえて、A4 1枚以内のレポートを提出する。レポート内容に応じて、0点～3点/回で評価する。授業の取り組み方がレポートの内容にも反映される。				
上記以外の試験、平常点評価	55 %	1)「学びのキーワード」の小テスト 15% 学びのキーワードについて簡潔に説明する小テストを3回実施する。 2)発表・ディスカッション 40% 毎回実施する、グループ討論への参加度や発表の内容により評価する。				
教科書	吉田研作(監修) 小川隆夫・東仁美(著) (2017)『小学校英語 はじめる教科書』(株)mpi ISBN978-4-89643-584-9					
参考資料	文部科学省「小学校学習指導要領解説 外国語編・外国語活動編」 文部科学省 (2017)「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」 文部科学省 (2018) We Can! 1, We Can! 2, Let's Try! 1, Let's Try!2					

科目名	教師論(幼・小・中・高)		単位	講義区分	担当教員	水川 和彦
			2単位	講義		
期待される学修成果	基礎教養 自己形成			ナンバリング	ED1ECT101	
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	教諭(講師を含む)	
実務経験を生かした授業内容	様々な実務経験をもとに、教師の在り方や対応等について具体的な事例を示し、その背景にある捉え方、考え方、基盤にすべき事項などについて論議する授業を構築する。					
到達目標及びテーマ	これまで教育を受ける立場で相対する存在として捉えてきた教師という職を、教師の視点から捉え直すことにより、その社会的意義や責務の重要性について理解することができる。併せて教師の服務や身分保証等の法的規定について学びながら、教師の在り方、理想の教師像を確立することができる。					
授業の概略	現在、大学で養成教育を受けることの意味を、教員養成制度の成立過程や教員の職務や研修内容を通して理解する。特に、実践的指導力の育成、「教師の資質向上」という政策課題が叫ばれているが、教職に就いた後の自己研鑽の積み方との連続性の中で捉えた場合、大学での養成教育はその教職人生の土台となるべきものである。それを理解した上で、現在の大学での学習への取り組み方を考えていく。					
授業計画						
第1回	イントラダクション 「理想の教師とは」					
第2回	教師に求められる資質①－教育愛・使命感－					
第3回	教師に求められる資質②－学び続ける教師－					
第4回	教師の職務①－学習指導－					
第5回	教師の職務②－学級経営・校務分掌－					
第6回	教師の職務③－生徒指導・特別支援教育－					
第7回	教師の日常①－授業における教師の役割と授業技術					
第8回	教師の日常②－優れた授業から学ぶ教師の在り方					
第9回	教師の日常③－講師の1日から理解する教師の職務					
第10回	教師の成長と教育研究及び研修制度					
第11回	教師の身分と職務の特殊性(体罰と懲戒を含む)					
第12回	教師の成長と教育研究及び研修制度					
第13回	チーム学校という概念理解とその実際					
第14回	多様な専門性を持つ人材との連携(チーム学校)による学校づくり					
第15回	教師としての生きがい・喜び					
事前学修	2時間	教師を目指す理由、目指す教師像についての考えをブラッシュアップしておくこと。また、教育法規や学習指導要領を読んでおくこと。特別支援教育、生徒指導や進路指導、家庭や地域との連携、教師教育制度などについては、下調べしておくこと。				
事後学修	2時間	授業後半に、それぞれ関係する課題を提示するので、授業での学びを加えてノートなどに整理して、学びの振り返りをする。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	%					
レポート	75 %	毎回の授業の中で振り返りを400字程度の文章にて行う。その内容を評価し、累積によって総合評価を行う。特にその授業で新たに知ったこと、考えたことが明記されているかが重要となる。				
上記以外の試験、平常点評価	25 %	毎回の授業において、意図的氏名によって発言を求めたり、グループで話し合っ発表する機会をつくる。その活動への積極性と全体への貢献度を評価する。				
教科書	なし					
参考資料	小学校学習指導要領 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 他は随時提示する。					

科目名	初等教科教育法(体育)	単位	講義区分	担当教員	稲垣 良介
		2単位	講義		
期待される学修成果	教科教育 子ども理解			ナンバリング	ED2ETM111
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし			実務家教員	教諭
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、小学校の体育授業に密接に関連させながら体育の目標、内容、方法について講義する。				
到達目標及びテーマ	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育て、健康の保持増進と体力向上を図り、楽しく明るい生活を営むための態度を育む体育授業のあり方を学ぶことができる。加えて、適切な運動の経験と健康・安全への理解が、生涯スポーツ実践の基礎的力となることを理解する。さらに、指導案の作成・授業の展開について具体的な作業や資料をもとに学ぶことができる。				
授業の概略	身体教育、運動による教育、運動の教育と変遷してきた体育授業を行う背景を概観する。そして、現在の体育授業で求められる目標・内容・方法をとらえ、運動・スポーツ実践によって生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を養う体育授業づくりについて学ぶ。なお、使用可能な体育施設の状況に応じて、授業の進度に沿って身体活動を伴う内容を随時扱う予定である。				
授業計画					
第1回	授業の進め方と評価について				
第2回	なぜ体育科教育法を学ぶのか／グループ・アイスブレイキング／授業を良く問うについて				
第3回	よい体育授業とは① 体育の目的を通して				
第4回	よい体育授業とは② 実際の授業を通して				
第5回	よい体育授業とは③ 学習指導要領を通して				
第6回	よい体育授業とは④ 学習評価を通して				
第7回	体育教材の特徴と指導内容① 運動能力・発達段階の視点から				
第8回	体育教材の特徴と指導内容② ドッジボールを通して				
第9回	体育の教材研究① 生徒・地域実態に着目して				
第10回	体育の教材研究② 教材・教具・情報機器(PC・タブレット等)に着目して				
第11回	体育の教材研究③ 実際の運動を通して				
第12回	体育の教材研究④ 運動楽しさと体育授業の構成				
第13回	体育をいかに教えるか① 学習計画・学習指導案の仕組み				
第14回	体育をいかに教えるか② 学習指導案の作成				
第15回	体育をいかに教えるか③ 模擬授業・情報機器の効果的活用				
事前学修	2時間	講義前に体育授業の問題点を把握しておく。毎時間に学ぶ内容を予習する。			
事後学修	2時間	レポート課題に向けて、ノートの内容を整理する。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	0 %	実施しない			
レポート	50 %	毎時間授業で使用する学習プリントの記載内容(25%)、計3回課す小レポートの記載内容(25%)			
上記以外の試験、平常点評価	50 %	授業の参加度(授業中の発言内容、模擬授業の参加状況)			
教科書	小学校学習指導要領解説体育編(文部科学省)、第五版小学校の体育授業づくり入門(学文社)				
参考資料	授業中に進度に沿って随時指示する				

科目名	初等教科教育法(理科)		単位	講義区分	担当教員	高木 正之
			2単位	講義		
期待される学修成果	教科教育 子ども理解			ナンバリング	ED1ETM206	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	教諭(講師含む)	
実務経験を生かした授業内容	担当教員による模擬授業を通して、問題解決の授業のあり方を理解する。					
到達目標及びテーマ	到達目標:小学校教員として、理科を指導するときの基礎知識や問題解決の過程について習得する。小学校学習指導要領解説理科編を読み解き、育むべき資質・能力は何かを学び、理科指導法の基礎を知る。テーマ:小学校で学習する理科の内容をエネルギー、粒子、生命、地球の領域の特性を理解し、児童のつまづきや思考の傾向に合った指導法について学ぶ。また、実験や観察、実物などを通して意欲的な授業づくりの方途を学ぶ。					
授業の概略	小学校学習指導要領解説[理科編]を教科書として使用する。そこに記述されている内容の理解を図る。全国学力・学習状況調査を児童の立場で解くことによって、児童の理解の実態を知る。「理科の見方・考え方を働かせる」「主体的・対話的・深い学び」「資質・能力を育む」というこれから求められる授業のあり方を理解する。授業の終盤は、学生が模擬授業を行い、教材や授業の進め方、児童理解などの観点からディスカッションして、授業力を身につけていく。					
授業計画						
第1回	現行学習指導要領と次期学習指導要領の小学校理科の目標を知る。見方・考え方を働かせた授業とは何かを理解する					
第2回	担当教員による模擬授業を通して、問題解決の授業のあり方を理解する。					
第3回	全国学力・学習状況調査(小学校)を解くことと調査結果をもとに児童の理解の実態を理解する。					
第4回	エネルギー領域の「量的・関係的な見方」について、電流の学習を通して学ぶ。					
第5回	粒子領域の「質的・実態的な見方」について、水溶液の学習を通して学ぶ。					
第6回	生命領域の「共通性と多様性のある見方」について、昆虫の学習を通して学ぶ。					
第7回	地球領域の「時間的・空間的な見方」について、天体の学習を通して学ぶ。観察・実験のほか、星座の日周運動のシミュレーションアプリを活用しての授業方法を学ぶ。					
第8回	エネルギー領域の「量的・関係的な見方」について、てこの学習などを通して学ぶ。PCを使って実験のデータをグラフ化するなどデータ処理の方法を学ぶ。					
第9回	粒子領域の「質的・実態的な見方」について、ものの燃焼の学習を通して学ぶ。					
第10回	生命領域の「共通性と多様性のある見方」について、人体の学習を通して学ぶ。内臓の働きについてタブレット端末を使った調べ学習の方法を学ぶ。					
第11回	地球領域の「時間的・空間的な見方」について地層の学習を通して学ぶ。地層や地震、火山の単元における視覚教材の効果的な利用方法を学ぶ。					
第12回	学習指導案の書き方を理解し、自身で1時間の展開を構成する。					
第13回	エネルギー領域の中からグループで1つの単元を選び、模擬授業を行う。					
第14回	粒子領域の中からグループで1つの単元を選び、模擬授業を行う。					
第15回	生命あるいは地球領域の中からグループで1つの単元を選び、模擬授業を行う。					
	定期試験					
事前学修	2時間	小学校学習指導要領解説(理科)について、次の授業で取り扱うところを熟読し、内容の理解に努める。模擬授業のための学習指導案の作成や教材作成を行う。				
事後学修	2時間	講義内容が各教科書でどのように扱われているかを確認する。授業で学んだことをレポートにまとめる。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	60 %	「理科の見方・考え方を働かせる」「主体的・対話的・深い学び」「資質・能力の育成」を企図した授業について論述的な試験を行い、回答を評価する。				
レポート	30 %	模擬授業についてレポートを提出し、その内容を評価する。				
上記以外の試験、平常点評価	10 %	模擬授業・発表内容と討論などへの参加度により評価する。				
教科書	平成29年小学校学習指導要領解説理科編					
参考資料	なし					

科目名	障害児教育学(初等)	単位	講義区分	担当教員	松本 和久
		2単位	講義		
期待される学修成果	子ども理解 学校と社会			ナンバリング	ED3EBE507
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	教諭(講師含む)
実務経験を生かした授業内容	通常の学級(3年)、特別支援学級(11年)、特別支援学校(3年)と、合計17年間学校教育現場で児童生徒の支援に携わってきた。その経験を踏まえ、具体的な事例を交えながら講義を進める。				
到達目標及びテーマ	特別支援教育の現状と課題、小・中学校や特別支援学校における特別支援教育の概要、学校教育現場における具体的な支援の在り方について理解することができる。				
授業の概略	特別支援教育は、平成19年4月から学校教育法に位置付けられ、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されている。本講義では、特別支援教育全般について概説するとともに、学校教育現場における事例をもとに具体的な支援について演習を行う。				
授業計画					
第1回	特別支援教育との出会い(講義ガイダンス)				
第2回	第1章1～4 特別支援教育の理念と制度				
第3回	第1章5 インクルーシブ教育システム				
第4回	第2章・第3章 小・中学校における特別支援教育				
第5回	第4章・第5章 特別支援学校における教育				
第6回	第6章～第9章(概説) 発達障害とは				
第7回	第6章 ADHD(注意欠陥多動性障害)の理解と支援				
第8回	第7章 LD(学習障害)の理解と支援				
第9回	第8章 自閉症の理解と支援				
第10回	第9章・第10章 情緒障害、言語障害の理解と支援				
第11回	第11章・第12章 視覚障害、聴覚障害の理解と支援				
第12回	第13章・第14章 肢体不自由、病弱・身体虚弱の理解と支援				
第13回	第15章 知的障害の理解と支援				
第14回	重度・重複障害の理解と支援				
第15回	講義の総括と確認テスト				
事前学修	2時間	教科書の該当ページを事前に読み、よく理解できなかった部分をはっきりさせて講義に臨む。			
事後学修	2時間	授業で学修したことを整理し、知識の定着を図るとともに、自分自身の考えを明確にしておく。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	0 %				
レポート	50 %	毎回の講義の最後に課す小レポートで、その日の知識の定着と考えの深まりを評価する。			
上記以外の試験、平常点評価	50 %	確認テストで、特別支援教育全般の知識の定着と具体的な支援、特別支援教育に対する考えの深まりを評価する。			
教科書	インクルーシブ教育時代の教員を目指すための特別支援教育入門 大塚玲編著 萌文書林 ISBN 978-4-89347-327-1				
参考資料	特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領 ISBN 978-4-303-12424-3				

科目名	ME I (メディアの英語 I)	単位	講義区分	担当教員	宮原 淳
		2単位	講義		
期待される学修成果	言語・文学 異文化・国際理解			ナンバリング	FL2ENG515
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション			実務家教員	新聞記者(中日新聞)
実務経験を生かした授業内容	記者経験を生かして、報道の現場を紹介する				
到達目標及びテーマ	世界各国のニュースを扱い、次の技能を身につけることを目指す: (1) 英語の報道コンテンツを使用できること(英語の4技能を磨く課題を通して、リスニングなどの小テスト、最終テストを行う) (2) 報道コンテンツについて討議できること(最終課題として短い英語のプレゼン。1人数分程度で、チームプロジェクトではない)				
授業の概略	英語の最新記事を使って以下の活動をする。 (1) 最新CNNニュースを使ったリスニングテスト (2) 最新ニュースの速読訓練(TOEIC対策や文法理解を含む)とニュース音声のシャドウイング訓練				
授業計画					
第1回	Introduction to Current Affairs How to Find News : Print, Broadcast, Online				
第2回	News in America: Listening Quiz, Reading Quiz				
第3回	News in America: Speaking Practice				
第4回	News in Europe: Listening Quiz, Reading Quiz				
第5回	News in Europe: Speaking Practice				
第6回	News in Asia: Listening Quiz, Reading Quiz				
第7回	News in Asia: Speaking Practice				
第8回	News in the Middle East: Listening Quiz, Reading Quiz				
第9回	News in the Middle East: Speaking Practice				
第10回	News in the world: Listening Quiz, Reading Quiz, Speaking Practice				
第11回	Final Paper DUE				
第12回	Reviw (get ready for the presentation, review for the final test)				
第13回	Final Presentation 1 (1-3 min per person)				
第14回	Final Presentation 2				
第15回	確認テスト				
事前学修	2時間	シャドウイングやリスニング小テストなどクラスの課題の準備(クラスで指図する最新の記事を扱う)			
事後学修	2時間	英語ニュースを繰り返し読む、聞く、単語を覚える			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	20 %	自分で選ぶ英語報道についてのレポート。授業内で評価用紙を配布する			
上記以外の試験、平常点評価	80 %	確認テスト(30%) CNNニュースのリスニング小テスト(20%)授業内外での提出物(10%) プレゼン(20%)			
教科書	以下のオンラインニュースサイトを主な教材として使う。 New York Times < http://nytimes.com > CNN 10 < http://edition.cnn.com/studentnews >				
参考資料	クラス内で記事を指定する(常に流動的な最新ニュースを扱うため、注意すること)				

科目名	ME II(メディアの英語II)	単位	講義区分	担当教員	宮原 淳
		2単位	講義		
期待される学修成果	言語・文学 異文化・国際理解			ナンバリング	FL2ENG516
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション			実務家教員	新聞記者(中日新聞)
実務経験を生かした授業内容	記者経験を生かして、報道の現場を紹介する				
到達目標及びテーマ	世界各国のニュースを扱い、次の技能を身につけることを目指す: (1) 英語の報道コンテンツを使用できること(英語の4技能を磨く課題を通して、リスニングなどの小テスト、最終テストを行う) (2) 報道コンテンツについて討議できること(最終課題として短い英語のプレゼン。1人数分程度で、チームプロジェクトではない)				
授業の概略	英語の最新記事を使って以下の活動をする。 (1) 最新CNNニュースを使ったリスニングテスト (2) 最新ニュースの速読訓練(TOEIC対策や文法理解を含む)とニュース音声のシャドウイング訓練				
授業計画					
第1回	Introduction to Current Affairs How to Find News : Print, Broadcast, Online				
第2回	News in America: Listening Quiz, Reading Quiz				
第3回	News in America: Speaking Practice				
第4回	News in Europe: Listening Quiz, Reading Quiz				
第5回	News in Europe: Speaking Practice				
第6回	News in Asia: Listening Quiz, Reading Quiz				
第7回	News in Asia: Speaking Practice				
第8回	News in the Middle East: Listening Quiz, Reading Quiz				
第9回	News in the Middle East: Speaking Practice				
第10回	News in the world: Listening Quiz, Reading Quiz, Speaking Practice				
第11回	Final Paper DUE				
第12回	Reviw (get ready for the presentation, review for the final test)				
第13回	Final Presentation 1 (1-3 min per person)				
第14回	Final Presentation 2				
第15回	確認テスト				
事前学修	2時間	シャドウイングやリスニング小テストなどクラスの課題の準備(クラスで指図する最新の記事を扱う)			
事後学修	2時間	英語ニュースを繰り返し読む、聞く、単語を覚える			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	20 %	自分で選ぶ英語報道についてのレポート。授業内で評価用紙を配布する			
上記以外の試験、平常点評価	80 %	確認テスト(30%) CNNニュースのリスニング小テスト(20%)授業内外での提出物(10%) プレゼン(20%)			
教科書	以下のオンラインニュースサイトを主な教材として使う。 New York Times < http://nytimes.com > CNN 10 < http://edition.cnn.com/studentnews >				
参考資料	クラス内で記事を指定する(常に流動的な最新ニュースを扱うため、注意すること)				

<講義コード> 5361002
 <開講学部> 外国語学部

2019年度

科目名	英文法教育研究 I (C5-8)	単位	講義区分	担当教員	伊佐地 恒久、大屋 進
		2単位	講義		
期待される学修成果	実務・英語教育			ナンバリング	FL2ELE201
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション			実務家教員	岐阜県公立高校英語科教諭
実務経験を生かした授業内容	文法指導の理論と実践をは実務経験を生かして結びつけ、学生を指導する。				
到達目標及びテーマ	学習者の英語コミュニケーション能力を支える英文法の指導法をの基本を身につけることができる。中学校で扱う文法項目をとりあげる。				
授業の概略	英語コミュニケーション能力を支える英文法の指導法を考察し、実践する。各文法項目の内容と要点を講義により確認し、指導目標を定めて、指導法を検討する。				
授業計画					
第1回	イントロダクション: 授業の進め方				
第2回	文法指導の目標: 英語コミュニケーション能力を支える英文法とは				
第3回	文法指導のための教材研究				
第4回	オーラルイントロダクション1: 原理				
第5回	オーラルイントロダクション2: 実践例から学ぶ				
第6回	文法形式の定着のための指導1: 指導法の種類				
第7回	文法形式の定着のための指導2: 実践例から学ぶ				
第8回	まとめと確認試験(1)				
第9回	使用・機能の指導: 指導法の種類と実践例				
第10回	コミュニケーションのための文法テスト1: 選択式テスト				
第11回	コミュニケーションのための文法テスト2: 記述式テスト				
第12回	現在・過去・未来				
第13回	不定詞: 名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法				
第14回	比較級				
第15回	まとめと確認試験(2)				
事前学修	2時間	授業で扱う文法事項の指導のポイントをまとめておく。			
事後学修	2時間	授業で扱った文法事項の導入指導をまとめる。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	%				
上記以外の試験、平常点評価	100 %	確認試験40% 2回 英文法及び英文法指導法から出題する。発表40% Oral Introductionなど 小テスト10% 語彙の教材から出題する。授業の取り組み10%			
教科書	中邑光男他(2017)『ジーニアス総合英語』大修館書店、 投野由紀夫(編)『チャックで英単語Standard』三省堂				
参考資料	『中学校学習指導要領解説(外国語編)』文部科学省(開隆堂)				

科目名	英文法教育研究Ⅱ(C1-4)	単位 2単位	講義区分 講義	担当教員	伊佐地 恒久、大屋 進
期待される学修成果	実務・英語教育			ナンバリング	FL2ELE202
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク			実務家教員	岐阜県公立高校英語科教諭
実務経験を生かした授業内容	英文法の実践的な指導を学生に理解させるために、実務経験を生かす。				
到達目標及びテーマ	学習者が英語コミュニケーション能力を支える英文法を身につけるための指導法を身につけることができる。高等学校で扱う文法項目をとりあげる。				
授業の概略	英語コミュニケーション能力を支える英文法の指導法を考察し、実践してみる。各文法項目の内容と要点を講義により確認し、指導目標を定めて、指導法を検討する。				
授業計画					
第1回	イントロダクション: 授業の進め方				
第2回	文法指導の目標: 英語コミュニケーション能力を支える英文法とは				
第3回	文法指導のための教材研究				
第4回	オーラルイントロダクション: 原理と実践例				
第5回	文法形式の定着のための指導: 原理と実践例				
第6回	タスクを使った文法指導1: 原理				
第7回	タスクを使った文法指導2: 実践例				
第8回	まとめと確認試験(1)				
第9回	パフォーマンステスト				
第10回	分詞				
第11回	動名詞				
第12回	関係代名詞: 制限用法、what				
第13回	不関係副詞: when, where, why, how				
第14回	仮定法: 仮定法過去				
第15回	まとめと確認試験(2)				
事前学修	2時間	授業で扱う文法項目の指導のポイントをまとめ、指導案を作成する。			
事後学修	2時間	授業で扱った文法項目の導入指導についてまとめ、指導案を修正する。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	%				
上記以外の試験、平常点評価	100 %	確認試験40% 2回 英文法と英文法指導法から出題する。発表40% Oral Introductionなど 小テスト10% 語彙教材から出題する。授業の取り組み10%			
教科書	中邑光男他(2017)『ジーニアス総合英語』大修館書店、 投野由紀夫(編)『チャックで英単語Standard』三省堂				
参考資料	「高等学校学習指導要領解説(外国語編)」文部科学省(開隆堂)				

科目名	宗教学Ⅰ〔外看〕	単位	講義区分	担当教員	蜷川 祥美
		2単位	講義		
期待される学修成果	基礎教養 態度			ナンバリング	AA1SPI101
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	浄土真宗本願寺派僧侶・教師・輔教・教師検定試験委員
実務経験を生かした授業内容	僧侶として、信仰者の情操を参照しながら講義する。				
到達目標及びテーマ	宗教について概観した上で、本学の建学の精神である仏教精神についての理解を深めることを目標とする。				
授業の概略	現代社会には、実にさまざまな宗教が存在しているが、真実の宗教とは、人としての生き方・あり方を示し、日々の生活の中で直面する悩みや苦しみを乗り越えさせるはたらきをもつものである。本講義は、世界宗教や各地の民族宗教を概観することよりはじめ、特に仏教精神を学ぶ。本学の建学の精神である仏教精神は、インドのカースト制を否定するなど、生命の平等性を示すものであり、「縁起」、「諸行無常」などの思想によって、生命のつながりとはかなさを知らせ、その尊厳性を示すものである。これらを学ぶことは、人類共通の「生命とは何か」といった命題の答えを探ることにもなる。				
授業計画					
第1回	本学の建学の精神について(諸宗教を概観し、本学の建学の精神について学ぶ本講義のねらいを理解する。)				
第2回	Ⅰ 宗教の意義 ①宗教の語義②原始宗教、民族宗教と世界宗教(原始宗教と特に民族宗教であるバラモン教、道教、儒教、ユダヤ教など諸宗教の分類と特徴について理解する。)				
第3回	Ⅰ 宗教の意義 ②原始宗教、民族宗教と世界宗教(世界宗教である仏教、キリスト教、イスラム教など諸宗教の分類と特徴について理解する。)				
第4回	Ⅰ 宗教の意義 ③カルトや原理主義(反社会的宗教の特徴を理解する。)				
第5回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ①釈尊以前のインド思想(カースト制の否定など、仏教以前のインド思想と仏教思想の相違点を理解する。)				
第6回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ②釈尊の生涯(誕生～求道・さとりを得るまでの釈尊の生涯を学び、苦を乗り越えるという仏教の目的を理解する。)				
第7回	☆討論「人間は一人で生きていけるのか?」(全員参加の討論を行い、今後の授業の理解を深める。)				
第8回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ③釈尊の生涯(成道～伝道・さとりを得て説法を開始した釈尊の生涯を学び、命のつながりを認識することの重要性を理解する。)				
第9回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ④釈尊の生涯(晩年～入滅・晩年から入滅までの釈尊の生涯を学び、仏教徒の生き方を理解する。)				
第10回	釈尊の生涯のまとめ(ビデオ「お釈迦さま」「ウパーリの出家」を視聴し、釈尊の生涯と、カースト制の否定を理解する。)				
第11回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ⑤仏教の中心思想(縁起の教え・四法印・仏教の中心思想を理解する。)				
第12回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ⑤仏教の中心思想(四諦八正道・十二縁起・仏教の中心思想を理解する。)				
第13回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ⑥釈尊入滅後の仏教教団(釈尊入滅後の仏教教団の分派を理解する。)				
第14回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ⑦大乘仏教の興起とその特色(大乘仏教の特徴を理解する。)				
第15回	Ⅱ 仏教の歴史と思想 ⑧大乘仏教の伝播⑨中国への伝播(大乘仏教の流伝の歴史を理解する。)				
	定期試験				
事前学修	2時間	(第1回)シラバスを読むこと。(第2回～第15回)テキストを読んで、「授業ポイント」を解答しておくこと。			
事後学修	2時間	テキストを読み直した上で、マナログにアクセスし、「授業のポイント」の解説を読んでおくこと。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	50 %	小テストの内容と論述問題を出題し、理解度を判断する。			
レポート	%				
上記以外の試験、平常点評価	50 %	5回の小テストと、授業終了時に提出する感想、授業への取り組みの様子によって、理解度を判断する。			
教科書	『岐阜聖徳学園大学宗教学ノート』、蜷川祥美・河智義邦著、丸善雄松堂、ISBN978-4-8419-4002-2				
参考資料	適宜、プリント等を配布する。				

科目名	宗教学Ⅱ〔外看〕	単位	講義区分	担当教員	蜷川 祥美
		2単位	講義		
期待される学修成果	基礎教養 態度			ナンバリング	AA1SPI102
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	浄土真宗本願寺派僧侶・教師・輔教・教師検定試験委員
実務経験を生かした授業内容	僧侶として、信仰者の情操を参照しながら講義する。				
到達目標及びテーマ	日本の宗教について概観した上で、特に本学の建学の精神である仏教精神についての理解を深めることを目標とする。				
授業の概略	本講義は日本の宗教、主に神道と仏教について学ぶ。特に、本学の建学の精神と関わりの深い聖徳太子の仏教信仰と、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の仏教思想について詳しく考察する。聖徳太子の仏教信仰は、あらゆる生命の平等性に目覚め、他者に寛容な心を持ち、他者の救済を目指すことを志向するものであり、親鸞聖人の仏教思想も、あらゆる生命を救う阿彌陀仏の心に気づいて、自らを律し、浄土往生、即ち生死を超えた理想の心の実現を目指すものである。また、現代の真宗門徒のターミナルケアへの取り組み「ビハーフ活動」についても紹介する。これら学ぶことは、日本人の「生死観とは何か」といった命題の答えを探ることになる。				
授業計画					
第1回	本学の建学の精神と日本仏教(日本の宗教と建学の精神について学ぶ本講義のねらいを理解する。)				
第2回	Ⅰ 日本古来の宗教 ①神道の思想(神道の歴史と思想について理解する。)				
第3回	Ⅰ 日本古来の宗教 ②日本人の神概念(日本人の宗教観を理解する。)				
第4回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ①日本への仏教の伝播(日本への伝播の様子を理解する。)				
第5回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ②聖徳太子の仏教信仰(聖徳太子の信仰の特徴を理解する。)				
第6回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ③律令期～鎌倉期の仏教(日本仏教の歴史を理解する。)				
第7回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ④親鸞聖人の生涯(誕生～回心・浄土真宗の宗祖、親鸞聖人が念仏に出逢うまでの生涯を理解する。)				
第8回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑤親鸞聖人の生涯(流罪～『教行信証』の撰述・流罪から浄土真宗の開宗までの生涯を理解する。)				
第9回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑥親鸞聖人の生涯(帰洛～往生・晩年の著述活動から往生までの生涯を理解する。)				
第10回	親鸞聖人の生涯のまとめ(ビデオ「親鸞さま ねがい、そしてひかり」を視聴し、生涯を総合的に理解する。)				
第11回	☆討論「善悪の基準はあるのか?」(全員参加の討論を行い、今後の授業の理解を深める。)				
第12回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑦浄土真宗の中心思想(他力本願、信心・称名・浄土真宗の中心思想を理解する。)				
第13回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑦浄土真宗の中心思想(悪人正機、往生浄土・正定聚・浄土真宗の中心思想を理解する。)				
第14回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑧室町期以降の日本仏教の展開(禅宗・日蓮宗・浄土真宗の発展の歴史を理解する。)				
第15回	Ⅱ 日本仏教の歴史と思想 ⑨現代人と浄土真宗(ビハーフ活動の紹介や、ビデオ「生きる力を求めて」を視聴することを通して、現代人の信仰の諸相を理解する。)				
	定期試験				
事前学修	2時間	(第1回)シラバスを読むこと。(第2回～第15回)テキストを読んで、「授業のポイント」を解答しておくこと。			
事後学修	2時間	テキストを読み直した上で、マナログにアクセスし、「授業のポイント」の解説を読んでおくこと。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	50 %	小テストの内容と論述問題を出題し、理解度を判断する。			
レポート	%				
上記以外の試験、平常点評価	50 %	5回の小テストと、授業終了時に提出する感想、授業への取り組みの様子によって、理解度を判断する。			
教科書	『岐阜聖徳学園大学宗教学ノート』、蜷川祥美・河智義邦著、丸善雄松堂、ISBN978-4-8419-4002-2				
参考資料	適宜、プリント等を配布する。				

科目名	情報実務Ⅲ	単位	講義区分	担当教員	長谷川 信
		1単位	演習		
期待される学修成果	実務・英語教育			ナンバリング	FL3ICT507
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク			実務家教員	システムエンジニア
実務経験を生かした授業内容	コンピュータ会社の勤務経験を生かし、データの活用方法とソフトウェアの活用方法について演習を行う。				
到達目標及びテーマ	現代社会では、あらゆる場面に数値情報があふれている。企業活動においても同様で、多次元のデータを組み合わせて事業に役立つ知見を導出することが求められる。授業では、データ分析の目的や考え方を学習し、表計算ソフトウェアを用いて、データ分析のための知識や技術を身につけ、原因分析や課題発見ができるようになることが目標となる。また、プレゼンテーションのための知識や技術を身につけ、説得力のある提案ができるようになることが目標となる。				
授業の概略	授業では、企業で扱うデータ分析の目的や利用方法などを学習する。また、分析グラフの読み方や利用方法などを学習する。データ分析にはMicrosoft Excelを使用して、目的に合わせたデータ集計、グラフ表現できる能力を身に付ける。また、自分の意見を主張するためのプレゼンテーションに効果的な提示・提案をする手法を学習する。プレゼンテーションにはMicrosoft PowerPointを使用して、説明に必要なプレゼンテーション資料を作成するための技術を身に付ける。授業は「情報実務Ⅱ」の履修を前提として進める。				
授業計画					
第1回	プレゼンテーション(1) PowerPointの基本操作				
第2回	プレゼンテーション(2) 図形描画				
第3回	プレゼンテーション(3) アニメーション				
第4回	プレゼンテーション(4) プレゼンテーションのまとめ方				
第5回	プレゼンテーション(5) プレゼンテーションの作成				
第6回	プレゼンテーション(6) プレゼンテーションの発表				
第7回	データの集計と分析				
第8回	業務処理と関数の活用(1): 需要曲線				
第9回	業務処理と関数の活用(2): 線形計画法				
第10回	業務処理と関数の活用(3): 利益予測				
第11回	業務処理と関数の活用(4): 散布図と相関係数				
第12回	業務処理と関数の活用(5): 相関分析				
第13回	業務処理と関数の活用(6): 単回帰分析				
第14回	業務処理と関数の活用(7): 重回帰分析				
第15回	まとめ				
事前学修	0.5時間	前提となる授業(ICT基礎、ICT活用、情報実務Ⅰ、情報実務Ⅱ)の内容を復習する。予め提示するテーマに沿って、必要な情報を調査し、授業で利用できるよう準備する。			
事後学修	0.5時間	授業の成果を確認・整理してまとめる。授業での成果物を見直して誤りを修正する。処理操作を確認して、復習する。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	0 %				
レポート	100 %	各回において学習テーマの内容を確認するために小テスト、レポートを実施する。各回に作成した完成文書を評価する。			
上記以外の試験、平常点評価	0 %				
教科書	授業で資料を配布する。				
参考資料	授業で資料を配布する。				

<講義コード> 5102359

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	基礎セミナーⅡ[経済情報]	単位	講義区分	担当教員	阿部 邦美
		1単位	演習		
期待される学修成果	基礎力 コミュニケーション能力			ナンバリング	EI2CUS102
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション			実務家教員	講師(インストラクタ)
実務経験を生かした授業内容	授業の一部で、IT企業等での実務経験がある外部講師が、パワーポイントの手法等の授業を行う。				
到達目標及びテーマ	基礎セミナーⅡでは、基本的に大学、あるいは社会人へとつながる学習のスタイルとして不可欠な要素を学ぶ。プレゼンテーション能力を身につける中で、仲間との関わりからコミュニケーションの大切さを学ぶ。				
授業の概略	基礎セミナーⅡでは、主にプレゼンテーションの手法・ディスカッションについて学ぶ。グループワークを通して、表現力やコミュニケーション力を養う。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション 個別面談(オリエンテーション後、各教室でクラス別で行う)				
第2回	プレゼンテーションの手法(パワーポイント)				
第3回	各クラスオリエンテーション				
第4回	プレゼンテーションの手法(伝える技術)				
第5回	プレゼンテーションの題材を考える。(岐阜新聞・セブン工業)				
第6回	プレゼンテーションの題材を考える。(岐阜市役所・森ビル)				
第7回	プレゼンテーションの準備				
第8回	プレゼンテーションの準備				
第9回	プレゼンテーションの準備				
第10回	プレゼンテーションの準備				
第11回	プレゼンテーションの準備				
第12回	プレゼンテーションの準備				
第13回	プレゼンテーション				
第14回	プレゼンテーション				
第15回	まとめ				
事前学修	0.5時間	事前にシラバスの内容を確認し、内容を把握しておく。			
事後学修	0.5時間	毎回の学習内容を復習しておく。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	%				
上記以外の試験、平常点評価	100 %	各回ごとに予習としての宿題50%。残りの50%は授業での貢献度、積極性、発言内容などを評し、総合する。			
教科書	なし				
参考資料	なし				

<講義コード> 5102251

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	基礎セミナー I [経済情報]	単位	講義区分	担当教員	伊東 裕希
		1単位	演習		
期待される学修成果	基礎教養 コミュニケーション能力			ナンバリング	EI1CUS101
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	セミナー講師
実務経験を生かした授業内容	授業の一部で、キャリアコンサルタント等の実務経験がある外部講師がグループワークの手法等について授業を行う。				
到達目標及びテーマ	大学生生活に順応出来ることを目指す。 特に文章能力(書く力)を身につけることができる。				
授業の概略	15回の授業では、基本的に大学、あるいは社会人へとつながる学習のスタイルとして不可欠な要素を学ぶ。自己紹介や、将来への目標、それに向けての大学時代の学習のあり方や目的を確認し、さらにレポートを書くという主体的な学習を実際に行うことで、今後4年間の学習スタイルの予行とする。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション 適正検査・アクションプラン作成(リクルート)				
第2回	消費者トラブルの実例と対処法				
第3回	各クラスオリエンテーション・個人面談				
第4回	個人面談/授業オリエンテーション				
第5回	大学の授業の仕組み、心構え				
第6回	ノートの取り方・資料の読み方				
第7回	大学での資料の集め方(図書館の本の検索、データベースの利用方法)				
第8回	留学について				
第9回	グループディスカッションの手法				
第10回	レポート書き方				
第11回	社会人との交流(ディスカッション)				
第12回	グループディスカッションとレポート作成				
第13回	レポート作成・提出				
第14回	アクションプランの振り返り				
第15回	まとめ				
事前学修	0.5時間	事前にシラバス内容を確認し、気になる単語についてネットで調べてくる。 課題を解決するための資料収集。			
事後学修	0.5時間	これまでの学習内容を自分でレポートにまとめておく。 また、日頃から新聞記事を読む習慣をつける、社会情勢を知る。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	%				
レポート	50 %	解決策の内容・レポートの書き方			
上記以外の試験、 平常点評価	50 %	残りの50%は授業での貢献度、積極性、発言内容などを評し、総合する。			
教科書	特になし。				
参考資料	特になし。				

<講義コード> 5557501

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	商学概論		単位	講義区分	担当教員	山田 浩喜
			2単位	講義		
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力 情報の分析に関する力			ナンバリング	EI2BUA315	
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし			実務家教員	流通小売業でのマーケティング担当	
実務経験を生かした授業内容	流通小売業でのマーケティング業務経験を活かし、流通業の仕組みや課題を講義する。					
到達目標及びテーマ	商業の基本機能や存在意義について正しく理解した上で、具体的な小売業態の特徴について理解することができる。					
授業の概略	われわれ消費者が日常買い物をする場所はスーパーマーケット等の小売商業である。本講義では、商業についての基礎知識を学ぶとともに小売商業の歴史、存在意義、及び現状について考えてみる。					
授業計画						
第1回	オリエンテーション(授業の進め方)					
第2回	商業の意味					
第3回	小売商業の意味					
第4回	小売商業の種類					
第5回	まとめ・レポート作成・提出(第2回から第4回までの講義内容について)					
第6回	百貨店の定義と歴史					
第7回	百貨店の現状					
第8回	スーパーマーケットの定義と歴史					
第9回	スーパーマーケットの現状					
第10回	まとめ・レポート作成・提出(第6回から第9回までの講義内容について)					
第11回	コンビニエンスストアの定義と歴史					
第12回	商業集積(商店街)					
第13回	商業集積(ショッピングセンター)					
第14回	POSシステムについて					
第15回	まとめ・レポート作成・提出(第11回から第14回までの講義内容について)					
	定期試験					
事前学修	2時間	流通業の事前学習として、テキスト及び現地確認に各々2時間必要です。				
事後学修	2時間	流通業の復習や課題を配布資料から理解するのに各々2時間必要です。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	60 %	小売業の基礎理論および業態別の現況理解ができていないかを評価する。				
レポート	20 %	授業で行うレポート(3回)の内容について評価する。				
上記以外の試験、平常点評価	20 %	授業の中で行うテスト(3回)の内容について評価する。				
教科書	『基礎から学ぶ流通の理論と政策』 ISBN4-8429-1666-8					
参考資料	なし					

<講義コード> 5557601

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	流通論		単位	講義区分	担当教員	山田 浩喜
			2単位	講義		
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力 情報の分析に関する力			ナンバリング	EI2BUA316	
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし			実務家教員	流通小売業でのマーケティング担当	
実務経験を生かした授業内容	流通小売業でのマーケティング業務の経験を活かし、流通業の戦略や課題について講義する。					
到達目標及びテーマ	流通の基本機能や存在意義について正しく理解した上で、具体的な小売業態の特性について、実際の事例を踏まえて説明できるようになることを目標とする。					
授業の概略	経済活動は生産→流通→消費から成り立っている。その中で流通は生産と商品を架橋する役割を果たしている。生産者が生産した製品を円滑に販売するためにも、消費者が消費活動を効率的に営むためにも、流通は欠くことのできない役割をもっている。本講義では、流通の社会的な機能と流通業者のタイプとそれぞれの機能、流通システムの動態を説明する理論、近年の流通における変化などのトピックを取り上げ、流通のメカニズムについて理解を深めることを目的とする。					
授業計画						
第1回	ガイダンス／流通とは 商品生産と流通では、何故工程を分ける必要があるのか、その理由を学ぶ。					
第2回	百貨店と総合スーパー 百貨店と総合スーパーが発展してきた経緯と販売方式の違いについて学ぶ。					
第3回	食品スーパーとコンビニエンスストア(CVS) 食品スーパーでは提供できないCVSの価値は何かを学ぶ。					
第4回	ディスカウントストア(DS)とSPA DSとSPAの流通工程での工夫と顧客に提供する価値は何かを学ぶ。					
第5回	商店街とショッピングセンター(SC) SCの「所有と経営の分離」の手法について、商店街と比較して学ぶ。					
第6回	変化する流通構造 流通構造が「長くなる」、「短くなる」のはなぜかを学ぶ。					
第7回	小売業態とは何か それぞれの小売業態にみられる業態技術は何かを学ぶ。					
第8回	日本型取引慣行 「建値制」、「リベート制」、から「オープン価格制」への変化について学ぶ。					
第9回	流通系列化からの脱却 大手メーカーの流通系列化の戦略とそれが衰退した理由について学ぶ。					
第10回	ロジスティクス 物流の役割、物流機能の技術革新、ロジスティクスについて学ぶ。					
第11回	売買集中の原理と品揃え形成 「売買集中の原理」と小売業態別の品揃え形成について学ぶ。					
第12回	商業の外部性と商業集積 商店街やSCをイメージして商業の外部性と商業集積について学ぶ。					
第13回	投機的流通から延期的流通へ 延期的を可能にした投機的流通についてCVSを例にして学ぶ。					
第14回	生産と流通の分業関係の変化 生産と流通の関係が協働関係になる必要があったのはなぜかを学ぶ。					
第15回	まとめ・レポート作成・提出(第11回から第14回までの講義内容について) 百貨店、総合スーパー、CVSの小売業態に関するレポート					
	定期試験					
事前学修	2時間	商学概論の復習をテキストとプリントをもとに行うのに各々2時間必要です。				
事後学修	2時間	流通業の戦略や課題をテキストとプリントをもとに理解するのに各々2時間必要です。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	60 %	流通の基礎理論および現況の理解ができているかを評価する。				
レポート	40 %	15回のレポート内容について評価する。				
上記以外の試験、平常点評価	10 %	毎回授業で行う小テストで授業の理解度を評価する。				
教科書	『基礎から学ぶ流通の理論と政策』 ISBN4-8429-1666-8					
参考資料	必要に応じてプリントを配布する。					

科目名	マーケティング論		単位	講義区分	担当教員	山田 浩喜
			2単位	講義		
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力		情報の分析に関する力	ナンバリング	EI3BUA319	
アクティブ・ラーニングの要素	該当なし			実務家教員	企業でのマーケティング担当	
実務経験を生かした授業内容	企業でのマーケティング業務の経験を活かし、マーケティング戦略の目的や役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	本講義では、マーケティング論をはじめ学ぶ学生を対象にしてマーケティングの全体像を把握するとともに、基礎的な用語や考え方を習得することを到達目標とする。また、「マーケティングリサーチ」や「流通論」等を学習する際に基盤となる知識を修得する。					
授業の概略	本講義では、マーケティングの基礎理論を学習する。企業の中でマーケティング活動は特別の位置づけをもっている。それは、企業と外部環境(市場・顧客)とを結びつける役割であり、企業が市場志向や顧客志向を現実化していくために必須のものとなっている。授業では、企業のマーケティング活動を実行していく際の基本となる市場から出発し、現実にはそれをどうマネジメントしていくかという課題について、実際の企業のケースと理論的枠組みの両方を用いながら議論を進めていく。					
授業計画						
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) 本講義の概要と運営に関する説明/マーケティングという学問体系が誕生してきた背景について学ぶ。					
第2回	顧客価値と顧客満足 顧客価値と顧客満足が必要となってきた背景や概念について理解を深める。					
第3回	マーケティング戦略の全体像 セグメンテーションの目的、細分化の基準、標的市場選定手法(マス・差別化・集中)の違いや目的を中心に学ぶ。					
第4回	マーケティング環境 マーケティング戦略を練るにあたり、企業の経営状況に関する分析ツールについて学ぶ。					
第5回	消費者行動分析① 消費者情報処理 消費者の情報処理プロセスの概念、社会や集団が情報処理に与える影響について学ぶ。					
第6回	消費者行動分析② 消費者購買行動 購買決定プロセスに焦点をあて、どのような購買決定を下すのか、影響を与える状況要因は何かを学ぶ。					
第7回	マーケティング・リサーチ マーケティングにおいて消費者に関するデータを収集し分析するための基礎知識を学ぶ。					
第8回	製品戦略 マーケティング・ミックスの中核である製品とは何かを学ぶ。新製品開発や製品ライフサイクルの実際について学ぶ。					
第9回	ブランド戦略 マーケティングにおけるブランドの役割を理解した上で、企業が競争優位にたつために行う様々なブランド戦略を学ぶ。					
第10回	価格戦略 新製品・心理面・割引を考慮した価格設定、価格弾力性、損益分岐点について学ぶ。					
第11回	流通戦略 チャネル対応の戦略をチャネル選択とチャネル管理の両面から学ぶ。					
第12回	マーケティング・コミュニケーション 広告、パブリシティ等のコミュニケーションに加え、近年の消費者間のコミュニケーションについて理解を深める。					
第13回	サービス・マーケティング サービスの特性を理解した上で、サービス・マーケティングの展開方法、顧客満足研究について学ぶ。					
第14回	リレーションシップ・マーケティング リレーションシップ・マーケティングについて概念を整理した上で具体的な取り組みを学ぶ。					
第15回	ソーシャル・マーケティング 社会の利益を考慮するソーシャル・マーケティングが注目された背景、内容の変化、具体的な取り組みを学ぶ。					
	定期試験					
事前学修	2時間	製品計画・商品計画の意味をテキストから理解するために各々2時間必要です。 流通経路・販売促進の意味をテキストから理解するために各々2時間必要です。				
事後学修	2時間	製品計画・商品計画のケース・スタディを理解するために各々2時間必要です。 流通経路・販売促進のケース・スタディを理解するために各々2時間必要です。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	70 %	授業についての理解度を評価する。				
レポート	30 %	授業の理解度を評価するレポート作成によって、理解していない箇所をチェックする。				
上記以外の試験、平常点評価	%					
教科書	『ケースで学ぶマーケティング(第2版)』ミネルヴァ書房 ISBN4-623-06982-8					
参考資料	必要に応じてプリントを配布する					

<講義コード> 5558001

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	マーケティングリサーチ		単位	講義区分	担当教員	山田 浩喜
			2単位	講義		
期待される学修成果	社会事情に対応する応用力		情報の分析に関する力	ナンバリング	EI3BUA320	
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	企業でのマーケティング担当	
実務経験を生かした授業内容	企業でのマーケティング業務の経験を活かし、データ分析の手法、マーケティング施策について講義する。					
到達目標及びテーマ	マーケティングデータの分析手法について正しく理解した上で、実際の企業データを用いて基本的なデータ分析をし、他者が理解しやすいように説明できることを目標とする。					
授業の概略	企業や組織では、商品や価格等に関する重要な決定をするときに、顧客の心理や行動に関する情報を分析して方向性が間違っていないかを確認することが必要である。本講義では、マーケティングの意思決定における諸問題を、市場や顧客に関するデータと理論に基づいて科学的に捉えるための基本的な考え方と手法を学ぶことを目的とする。					
授業計画						
第1回	オリエンテーション(授業の進め方) 本講義の概要と進め方に関する説明/マーケティングリサーチの重要性について学ぶ。					
第2回	消費者行動① 消費者の情報処理方法について理解を深める。					
第3回	消費者行動② 消費者の購買行動プロセスについて理解を深める。					
第4回	マーケティング分析の枠組 マーケティング戦略の全体像とマーケティング環境分析について学ぶ。					
第5回	マーケティング情報の収集と活用 マーケティング分析で用いるデータの種類と獲得方法について学ぶ。					
第6回	ケーススタディ① 商品開発の事例—グループ討議					
第7回	ケーススタディ① 商品開発の事例—グループ発表及びまとめ					
第8回	ケーススタディ② 小売マーケティングの事例—グループ討議					
第9回	ケーススタディ② 小売マーケティングの事例—グループ発表及びまとめ					
第10回	ケーススタディ③ インターネット環境での戦略—グループ討議					
第11回	ケーススタディ③ インターネット環境での戦略—グループ発表及びまとめ					
第12回	アンケート調査と分析手法 アンケート調査の作成方法、落とし穴について学ぶ。					
第13回	データの分析手法(平均、分散(標準偏差)、集計、クロス集計、相関分析) 平均、分散、統計の基礎知識、集計、クロス集計、相関について学ぶ。					
第14回	データ分析① 実際のデータを用いてデータ分析					
第15回	データ分析② データ分析をしてわかったことをもとにレポート作成。					
	定期試験					
事前学修	2時間	講義で用いるプリントやデータ分析の予習を行うのに各々2時間必要です。				
事後学修	2時間	講義で用いたプリントやデータ分析の復習・課題作成を行うのに各々2時間必要です。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	70 %	マーケティングリサーチに関する理解度を評価する。				
レポート	30 %	授業の理解度を評価するレポート作成によって、理解していない箇所をチェックする。				
上記以外の試験、平常点評価	%					
教科書	『ケースで学ぶマーケティング(第2版)』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-06982-8					
参考資料	その他、必要に応じてプリントを配布する。					

<講義コード> 5559701

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	キャリアデザインⅡ		単位	講義区分	担当教員	中村 亜綺
			2単位	講義		
期待される学修成果	コミュニケーション能力 態度			ナンバリング	EI3CAE302	
アクティブ・ラーニングの要素	協定締結機関との課題解決授業			実務家教員	キャリアコンサルタント	
実務経験を生かした授業内容	個人や組織の問題の本質を探り解決を図る					
到達目標及びテーマ	テーマ:問題解決に必要な「論理的思考」のフローを理解した上で、独創的かつユニークなアイデアを生成する 到達目標:岐阜市の地場産業である製造やアパレルを初め、様々な業界に関心を持ち視野を広げるきっかけをつかむ。また、実際の企業の課題を通して、社会人基礎力となる「考え抜く力」を、グループワークを通して「チームで働く力」醸成を図る。					
授業の概略	地元の特徴的な企業から「ミッション(課題)」を提供していただき、グループワークを通してミッション遂行の方策を検討する過程で理解力・想像力・創造力に基づく課題解決を体験する。また、各グループ毎に遂行策のプレゼンテーションを行い、表現力やコミュニケーション力を養う。※協力企業は前半と後半で別の企業を選定					
授業計画						
第1回	オリエンテーション、チームビルディング					
第2回	コミュニケーショントレーニング(グループディスカッションの進め方)					
第3回	講義:課題解決の考え方 / グループ活動(アイデア出し)					
第4回	講義:プレゼンの仕方(資料作りのコツ・発表のコツ) / グループ活動(アイデア決定、講師確認)					
第5回	グループ活動(プレゼン資料仮完成、講師のチェック)					
第6回	グループ活動(プレゼンテーションのリハーサル)					
第7回	プレゼンテーションと講評					
第8回	企業・団体(可児市役所)からのミッション指示、役割分担と活動計画(協力企業参加)					
第9回	グループ活動(アイデア出し)					
第10回	グループ活動(アイデア決定、講師確認)					
第11回	グループ活動(プレゼン資料作成)					
第12回	グループ活動(プレゼン資料仮完成、講師のチェック)					
第13回	グループ活動(プレゼンテーションのリハーサル)					
第14回	プレゼンテーションと講評(協力企業参加)					
第15回	全体の振り返り・個人ワーク提出					
事前学修	2時間	協力企業のウェブサイト等を確認し、事前に企業理解を進めておく				
事後学修	2時間	これまでの学習内容を自分でレポートにまとめる				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	0 %	実施予定なし				
レポート	15 %	最終の授業内で半年間の授業を振り返り、個人ワークとしてレポートを提出。半年間の授業を踏まえて、論理的で実現可能なアイデアが示されているかどうかで評価する				
上記以外の試験、平常点評価	85 %	【グループ評価】論理的な考え方が示されているか、柔軟な発想でアイデア出しが出来ているか 【個人評価】グループ活動に積極的・協力的姿勢で関わっているか、論理的思考のフローを理解しているか ※明らかに授業に参加していない態度(寝ている・他授業の課題をやっている・ゲーム等に興じている 等)が見受けられた場合は、欠席扱いとする				
教科書	なし(ワークシートや資料をその都度配布)					
参考資料	協力企業のウェブサイト					

<講義コード> 5521901

<開講学部> 経済情報学部経済情報学科

2019年度

科目名	キャリアデザイン I		単位	講義区分	担当教員	今枝 正史
			2単位	講義		
期待される学修成果	基礎力 態度			ナンバリング	EI2GAS106	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	就職支援コンサルタント	
実務経験を生かした授業内容	「キャリア形成」教育支援会社や就職支援コンサルタントの経験を活かし、大学卒業後のキャリア設計および社会人基礎力について講義する。					
到達目標及びテーマ	自らの意思で未来を創造するための「自己肯定感」を持つことができる。 情報を正確に捉え決断していくための「思考力」を理解する。 「学修意欲」を持ち主体的に学んでいくことができるようになる。 当事者意識をもって自分自身のキャリアを考えていくための「計画力」を身につけることができる。 多様な人との関係を構築するための「人間力」を身につけることができる。					
授業の概略	社会・経済・生活などの視点から世の中を広く理解し、それを基に自分自身のキャリアを考えていきます。 残りの大学生活をどう過ごすべきかを考察し具体的な行動計画を立てることで、大学卒業後のキャリアデザインを描くための土台を形成します。 個人ワークやグループワークに積極的に取り組むことで、働く上で必要な実務能力について理解することができます。					
授業計画						
第1回	シェアリング (授業の目的やゴールを共有する)					
第2回	チームビルディング (チームで成果を目指すための方法を学ぶ)					
第3回	対人コミュニケーション (他者と良好な関係を築くための方法を学ぶ)					
第4回	パーソナリティ (長所や個性など将来に活かせる強みを明確にする)					
第5回	ポジティブシンキング (物事を積極的に取り組むための考え方を学ぶ)					
第6回	激動する世の中を掴む (最新時事問題をテーマに世の中の動きを把握する)					
第7回	社会に求められる人になろう! (業界・職種別にどのような人材が求められているのかを知る)					
第8回	社会人として輝くために (キャリアデザインマップ作成①)					
第9回	表現力 (伝える力を身につける)					
第10回	できる社会人の計算力 (仕事に必要な計算力を身につける)					
第11回	できる社会人の国語力 (正しい文章の書き方を身につける)					
第12回	ロジカルシンキング (物事を体系的に考えたり伝える方法を学ぶ)					
第13回	就職活動・インターンシップについての理解					
第14回	社会人として輝くために (キャリアデザインマップ作成②)					
第15回	総論 プレゼンテーション					
事前学修	2時間	事前にシラバス内容を確認し、自分の意見をまとめておく。 また、これまでの学習内容を踏まえ、自分自身の将来と次回以降の授業を重ねて考えておく。				
事後学修	2時間	これまでの学習内容を振り返り、インターネットで調べたりレポートにまとめておく。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	%					
レポート	50 %	レポート等提出物の内容が、それまでの学習内容を踏まえたものであるか、また主体的に取り組んでいるかどうか。				
上記以外の試験、平常点評価	50 %	グループワークでの貢献度、積極性、発言内容など。				
教科書	なし					
参考資料	なし					

科目名	看護学概論		単位	講義区分	担当教員	上田 ゆみ子
			2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 態度			ナンバリング	NU1FDN101	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	看護師	
実務経験を生かした授業内容	病院勤務における患者への看護ケアを通して得た知識と経験を交えながら、看護とは何かを講義する					
到達目標及びテーマ	1. 看護の構成要素である健康、環境、人間、看護について説明できる 2. 主な看護理論の概要について説明できる 3. 看護の対象及び看護の役割と機能について説明できる 4. 保健医療サービスと看護活動について説明できる					
授業の概略	「看護とは何か」という基本的概念について学習する。看護学の主要概念である人間・健康・環境・看護、および看護実践の理論的根拠となる看護理論の変遷とその内容を看護学の発展の歴史的背景を踏まえて、広い視野から学ぶ。さらに現代における看護の役割や機能、看護活動の内容理解を深める。看護過程の基本的知識を学び、2年次に学習する看護過程の事例展開に繋げる。さらに看護を実践していく上で重要な要素である「看護と倫理」について考える。これらの学習を通して、自らの看護観を育んでいくことを目指す。					
授業計画						
第1回	授業ガイダンス 1. 看護の責務とその広がり 2. 看護への導入 ①看護の目的と役割 ②看護の歴史的背景					
第2回	看護の対象とその理解 1. 統合体としての人 2. 看護の役割 3. 障害をもつこと					
第3回	健康と病気におけるウェルネスの促進 1. 健康観について 2. 健康と病気に影響する要因 3. 健康増進に対する看護の関わり					
第4回	ライフサイクルと健康 1. 成長と発達の特質 2. 発達理論について 3. 人間の発達過程における特徴					
第5回	看護実践のための理論的根拠 1. 看護理論とは 2. 主な看護理論家とその理論					
第6回	グループワーク:それぞれが調べてきた理論についてディスカッションし、「看護とは」について発表する					
第7回	看護における倫理と価値 1. 看護職の倫理綱領 2. 倫理的ジレンマ					
第8回	看護ケア(看護援助)の基本的役割 1. 看護ケアにおける看護師の役割 2. 患者と看護師のコミュニケーション 3. 看護実践における研究の役割 4. 専門的援助関係					
第9回	看護過程 1. 看護過程とは 2. クリティカルシンキング 3. 問題志向型看護記録					
第10回	看護における法的側面 1. 看護と法の関わり 2. 看護実践における法的責任 3.					
第11回	保健・医療・福祉システム 1. 保健・医療・福祉システムにおける看護職の役割 2. 地域包括ケアシステム					
第12回	看護の展開と継続性 1. チーム医療 2. 多職種連携 3. 継続看護とは					
第13回	看護ケアのマネジメント 1. 看護のマネジメントとは 2. 看護方式とは 3. 医療安全への基本的な取り組み					
第14回	災害看護・国際看護 1. 災害看護の必要性 2. 国際看護とは					
第15回	これからの看護の課題と展望・まとめ 1. 看護の専門性					
	定期試験					
事前学修	2時間	各回の授業内容に対応する「看護学概論」の章を授業前に通読する。各回で提示する予習課題(配布資料、「看護覚え書き」、「看護の基本となるもの」に目を通すなど)に取り組む。				
事後学修	2時間	毎回授業後に教科書の該当部分および授業プリントと講義メモを復習し、重要な箇所を整理して次回の授業に備える。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	50 %	看護とは何かについて理解するうえで必要な基本的知識を問う内容				
レポート	40 %	①15回の授業の中で指定する課題レポート2回(看護理論の概要、病を体験する人の理解)について理解度の評価をする。 ②15回目授業終了時に課す自己の看護観に関するレポートについて、論理的に述べているかの評価をする。				
上記以外の試験、平常点評価	10 %	グループワークへの主体的、積極的な参加の姿勢を評価表を用いて評価する。				
教科書	1. 志白岐康子・松尾ミヨ子・習田明裕:ナーシンググラフィカ 基礎看護学①看護学概論 ISBN978-4-8404-5794-1 2. ナイチンゲール著、湯横ます他訳:看護覚え書、2012、現代社 3. ヘンダーソン著、湯横ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの、2006、日本看護協会					
参考資料	なし					

科目名	成人看護学概論	単位	講義区分	担当教員	大久保仁司、古川智恵
		2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2ADN101
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	看護師
実務経験を生かした授業内容	成人期にある人の健康障害が生活に与える影響とそれを支える看護の概要について、病院勤務の経験を活かし解説する。				
到達目標及びテーマ	1. 成人各期の人々の身体的、心理的、社会的な特徴を述べるができる。 2. 成人看護学で使用する理論・モデルの特徴を説明できる。 3. 成人期にある人の健康と健康障害の特徴について述べるができる。 4. 成人期にある人に健康問題の特徴を踏まえた看護を提供することの意義と方法を考察することができる。				
授業の概略	成人期にある人の価値観・健康観の多様性、役割や健康問題など、ライフサイクルの中で生活者としての特徴を踏まえ、健康上のニーズ及び彼らの健康問題に関する知識を習得し、成人看護の役割と機能を考える。				
授業計画					
第1回	1. 成人看護学および概論の位置づけと学習について(古川) 2. 成人看護が対象とする人の特徴(成長・発達の見点、おとなとは)				
第2回	3. 社会環境と成人の生活(保健・医療・福祉政策を含む)(大久保)				
第3回	4. 成人期にある人々の健康と健康問題①(古川)				
第4回	5. 成人期にある人々の健康と健康問題②(古川)				
第5回	6. 成人看護に活用できる理論①(大久保) 健康促進と成人教育(ヘルスプロモーション、アンドラゴジー)				
第6回	7. 成人看護に活用できる理論②(古川) ストレスと人間の行動促進と成人教育(危機理論、ストレス・コーピング理論)				
第7回	8. 成人看護に活用できる理論③ 健康行動理論(病みの軌跡、自己効力理論)(大久保)				
第8回	9. 健康の危機状況にある患者・家族への支援:急性期(古川)				
第9回	10. 手術療法を必要とする患者・家族への支援:急性期(大久保)				
第10回	11. リハビリテーションを必要とする患者・家族への看護:回復期(古川)				
第11回	12. 健康生活の継続に向けての患者・家族への支援:慢性期(大久保)				
第12回	13. 人生の最期を迎える人と家族への看護:終末期(大久保)				
第13回	14. 継続医療と看護(古川)				
第14回	15. 看護過程・看護診断(大久保)				
第15回	16. 画像診断の見方(外部講師・大久保)				
	定期試験				
事前学修	2時間	1.MANALOGの事前課題・事前テストを済ませる。 2. 生涯発達論の成人期(思春期～成熟期)の特徴をまとめてくる(授業に使用します)。 3. 授業は必ず事前に学習し、指定された資料等を持参する。			
事後学修	2時間	1. 課題のレポートを提出すること。 2. 成人の健康のレベルに応じた看護の特徴と援助ポイントをノートにまとめておくこと。			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	70 %	1) 成人看護学で用いる理論・モデルが使用できるかを試す課題、健康レベルと看護の特徴を理解しているかを試す。 2) 成人各期にある人と健康に関係が理解できているかを試す問題を出題する。3) 画像診断に関する問題を出題する。			
レポート	20 %	レポートは2回提出し、内容に応じて各レポート5段階で評価する。詳細は、マナログと授業中に提示する。 提出期限は厳守する。期限後の提出は受け付けない。その場合は0点となる。 「大学生としての学び方ガイド」に指示された形式・方法を用いて作成する(自筆のみ)。			
上記以外の試験、平常点評価	10 %	小テスト実施、討議への資料内容、発表内容と討議参加度より評価する。			
教科書	新体系看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論/成人保健 メディカルフレンド社 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 医学書院 がん看護学 ヌーヴェルヒロカワ				
参考資料	ナーシング・グラフィカ 成人看護学①成人看護学概論 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④周手術期 メディカ出版 ビーエルウグ、黒江ゆり子訳 慢性疾患の病みの軌跡 医学書院				

科目名	老年看護学概論		単位	講義区分	担当教員	中尾 治子
			2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2GTN101	
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション・ディベート			実務家教員	看護師	
実務経験を生かした授業内容	病院・施設勤務の経験を生かし、老年看護の特徴と看護の役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	看護学におけるAgingの捉え方、老年期にある人の健康と障害、価値観や信念を尊重する意味、家族の関係性について説明できること。また、老年期にある人がおかれている保健医療福祉システムについて説明できる。					
授業の概略	さまざまな健康レベルの老年期にある人とその家族を対象に、その人の生きてきた過程における顕在的・潜在的な能力が最大限に発揮されるよう看護のあり方について学ぶ。また、特に老年期にある人を取り巻く倫理的課題について学ぶ。					
授業計画						
第1回	オリエンテーション、Agingとは：テキストp.7～11、p.25～27を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第2回	老年看護学における老年期の捉え方：テキストp. 27～30を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第3回	老年期の健康と生活援助(1) 老年期における健康と生きがい：テキスト P.12～16、P.30～32を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第4回	老年期の健康と生活援助(2) パターンとしての生活行動と健康維持・増進その1：テキスト P.16～21、P.32～35読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第5回	老年期の健康と生活援助(3) パターンとしての生活行動と健康維持・増進その2：テキスト P.22～24、P.199～207読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第6回	老年期看護学における倫理的課題(1) 高齢者の尊厳と意思決定：テキスト P.35～43を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第7回	老年期看護学における倫理的課題(2) 高齢者の終末期ケア：テキスト P.207～214を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第8回	高齢者を取り巻く家族への看護(1) 高齢者の健康障害が家族に及ぼす影響と家族支援：テキスト P.269～287を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第9回	高齢者を取り巻く家族への看護(2) 高齢者を看取る家族への支援：テキスト P.287～292を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第10回	高齢者を支える保健医療福祉制度(1) 医療保険制度と高齢者ケア：テキスト P.293～300を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第11回	高齢者を支える保健医療福祉制度(2) 介護保険制度と高齢者ケア：テキスト P.301～312を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第12回	医療を受ける高齢者への看護(1) 受療形態に講じた高齢者の看護：テキスト P.223～233を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第13回	医療を受ける高齢者への看護(2) 医療機関における慢性期にある高齢者の看護：テキスト P.313～316を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第14回	介護保険施設に暮らす高齢者の看護：テキスト P.316～319を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
第15回	在宅高齢者の看護：テキスト P.321～329を読んでくる。講義を受講し、思考の変容をリアクションペーパーに記述し提出する。					
	定期試験					
事前学修	2時間	1)授業前に、講義内容に関連した範囲の教科書を読んでくること 2. 授業前に指定された課題を行うこと				
事後学修	2時間	1. 老化に伴う変化(身体・精神・社会)、高齢者を理解するために必要な発達課題、生きがいづくりに向けた支援について振り返り学習する。 2. 授業後に出された課題を期日までにまとめて提出する。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	60 %	各講義の内容について、事前学修事後学修の学びの整理をしている範囲から出題する。				
レポート	25 %	事前学修課題のレポート、事後学習のレポート				
上記以外の試験、平常点評価	15 %	毎回のリアクションペーパー提出、授業参加度				
教科書	川島みどり監修(2015)『老年看護学 改訂版』看護の科学社					
参考資料	参考書、参考資料については随時授業内で配布・紹介する。					

科目名	小児看護学概論	単位	講義区分	担当教員	大見サキエ、高橋 由美子、小平 由美子
		1単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2PDN101
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	看護師、子育て支援活動家
実務経験を生かした授業内容	医療機関での看護師の勤務経験、地域における子育て支援活動の経験を踏まえて講義を展開する。				
到達目標及びテーマ	子どもを取り巻く社会と子どもの健康上の問題を理解し、小児看護の果たすべき課題と役割を理解する。 1. 小児看護の歴史的背景を理解し、小児看護の特徴を説明できる。2. 保健統計から現代の小児と家族の健康問題を説明できる。3. 小児の健康の維持増進のための政策を説明できる。4. 小児の人権擁護の観点から子どもへの子どもへの倫理的配慮について説明できる。 5. 小児を取り巻く現代社会の課題を整理し、小児看護が果たすべき課題を説明できる。				
授業の概略	子どもから大人への成長・発達する変化を踏まえて、小児看護の特徴と看護の果たすべき役割について学習する。子どもに関する統計の数値から子どもに安全な環境を提供する重要性や学習環境を保護する必要性、子どもの健康維持のための母子保健事業や児童福祉行政などの政策を学び、健やかな育ちの支援について考える。子どもの人権の歴史的背景から、権利擁護の必要性と倫理的配慮について考察する。子どもを取り巻く社会や小児医療の現状から子どもと家族の置かれている状況を知り、個人・家族・集団・組織の支援をしていくために、小児看護の果たすべき課題を考察する。				
授業計画					
第1回	小児とは、小児看護の歴史的背景、小児看護の特徴と看護の変遷(大見)				
第2回	子どもの成長・発達(高橋)				
第3回	保健衛生統計からみた小児と家族の健康問題(小平)				
第4回	小児をめぐる法律と政策①母子保健、子育て支援(高橋)				
第5回	小児をめぐる法律と政策②予防接種、学校保健(高橋)				
第6回	小児の人権の歴史的背景と子どもの権利条約、医療現場における子どもへの倫理的配慮(大見)				
第7回	子どもを取り巻く社会における健康問題に関する課題(大見)				
第8回	これからの小児看護:子どもと家族支援のために果たすべき課題(大見)				
第9回	定期試験				
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					
事前学修	1時間	「生涯発達論」で学んだ発達理論と小児期における発達課題を復習して臨む。看護学概論で学習した看護の歴史、看護の視点を復習しておく。指示された事前課題を提出する。			
事後学修	1時間	統計の数値や政策は変化するので、新しい情報に関心を持ち、毎年自分のノートを修正していく。小児の特徴を理解したうえで、小児看護の果たすべき課題を各自の興味ある点について、整理する。指示された事後課題を提出する			
成績評価方法	割合	評価基準等			
定期試験	80%	小児の成長・発達を踏まえた小児の特徴、小児看護の歴史的背景と看護の変遷、倫理的課題、社会における法整備と課題、小児の健康上の課題とこれからの看護の役割について問う。			
レポート	20%	事前事後課題のレポートで評価する。			
上記以外の試験、平常点評価	0%				
教科書	小児看護学 市江和子編 オーム社				
参考資料	医学書院、南江堂、マジカルフレンド社等				

科目名	母性看護学概論		単位	講義区分	担当教員	門脇 千恵
			2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2MTN101	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	看護師、助産師	
実務経験を生かした授業内容	病院や地域において行ってきた(妊産婦指導・更年期指導・思春期指導)について講義をする。					
到達目標及びテーマ	1. 子どもを産み育てることについて理解し、母性を取り巻く生活環境や家族とのかかわりについて考えながら学習する。 2. 健康レベルの指標としての母子保健統計の意義が説明できる。 3. 母性のライフサイクルにおける身体的特徴が説明できる。 4. 女性の各ライフステージの特徴・看護の視点が説明できる。 5. 母性の健康の保持・増進の必要性が説明できる。					
授業の概略	母性看護学の導入として、母性看護学の基盤となる概念について理解する。次いで母性看護の対象者に対する理解を深めるために、人間の性と生殖、母性の特徴と健康問題について考えることができる。さらに母性看護の対象者を取り巻く社会の変遷と現状、法令を理解する。また女性のライフステージにおける特徴を理解し、母性看護の特徴を学ぶ。また、適時資料・メディア教材を活用する。					
授業計画						
第1回	母性看護学の概念:親になること、母子関係、母子相互作用と家族発達					
第2回	セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ					
第3回	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷;歴史、環境					
第4回	母子保健統計の動向					
第5回	母性看護に関する法律、施策					
第6回	女性のライフサイクルにおける形態・機能・セクシュアリティ(女性生殖器、性の分化)					
第7回	女性のライフサイクルにおける形態・機能・性周期(ホルモン)					
第8回	女性のライフサイクルにおける形態・機能・妊娠					
第9回	各ライフステージにおける健康と看護 思春期、成熟期					
第10回	各ライフステージにおける健康と看護 更年期、老年期					
第11回	母性看護に必要な看護技術					
第12回	母子保健をめぐる課題、リプロダクティブヘルスケア 女性の健康問題(グループワーク)					
第13回	リプロダクティブヘルスケア 性感染症					
第14回	リプロダクティブヘルスケア 不妊症					
第15回	リプロダクティブヘルスケア 家族計画					
	定期試験					
事前学修	2時間	1. テキストの該当頁を読んでおく。 2. 事前配布資料を読んでおく。				
事後学修	2時間	1. 授業で学習した内容をノートに整理し理解を深める。 2. 毎回のミニテストの内容を深めて理解する。 3. 課題レポートは期限までに提出する。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	50 %	基本的概念や語句を理解した上で、形態・機能に関する問題を出す。統計的な意義を理解し、母子保健や法律に関する問題を出す。各ライフステージの健康問題や看護に関する問題を出す。				
レポート	10 %	母子保健に関するレポートを課す(A42~4枚程度)				
上記以外の試験、平常点評価	40 %	理解度を評価するために、ミニテストを毎回実施する。				
教科書	母性看護学概論(医学書院)2019年版 ISBN978-4-260-01365-9					
参考資料	看護のための臨床病態学 ISBN978-4-525-50513-4 病気がみえる10産科 第3版(メディックメディア) ISBN978-4-89632-7173					

科目名	精神看護学概論		単位	講義区分	担当教員	小林 純子
			2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2PSN101	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	看護師	
実務経験を生かした授業内容	精神科病院での勤務経験を活かし、精神看護学の概要と看護の役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	1)人間のあらゆるライフステージにおける精神機能の発達と、それに影響を与える諸要因・危機的状況について説明できる。 2)こころの健康の保持・増進および疾病の予防・回復に必要な援助や保健・医療・福祉制度の仕組みを説明できる。 3)こころの健康問題を抱える人の「生きにくさ」を実感でき、その人のストレンクスに着目することの重要性を説明できる。 4)精神医療・看護の歴史の変遷から人権擁護について考察し、自分の言葉で論じることができる。					
授業の概略	人間のこころの機能・構造、およびこころの発達に影響を与える諸要因・危機的状況について学習する。特に、人間のライフステージや生活の場におけるこころの健康問題を中心に、現代社会が抱えるこころの健康問題への理解を深めるとともに、こころの健康を保持・増進、回復するために必要な看護およびこころの健康を支える保健・医療・福祉制度の仕組みを学ぶ。さらに、精神医療・看護の歴史の変遷を学ぶことにより、現代社会における精神保健、精神看護の諸問題・課題および人権擁護について考えることを期待する。					
授業計画						
第1回	精神看護学の枠組み					
第2回	精神の健康と障害、こころの理解モデル					
第3回	人間のこころのはたらき					
第4回	ライフサイクルにおけるこころの健康(1) こころのしくみと人格の発達					
第5回	ライフサイクルにおけるこころの健康(2) 現代の精神保健、こころの危機					
第6回	生活の場におけるこころの健康(1) 家庭・学校の精神保健					
第7回	生活の場におけるこころの健康(2) 職場・地域の精神保健					
第8回	医療の場におけるこころの健康(1) 患者・家族のこころの健康					
第9回	医療の場におけるこころの健康(2) 看護師のこころの健康、リエゾン精神医学・看護					
第10回	災害時のメンタルヘルス					
第11回	地域精神保健福祉(1) スtrenクス・リカバリーの概念と実際 * 第11～12回続き					
第12回	地域精神保健福祉(2) 地域精神保健福祉の課題 * 第11～12回続き					
第13回	精神保健医療の歴史の変遷					
第14回	精神保健福祉に関する関係法規					
第15回	精神科における看護倫理					
	定期試験					
事前学修	2時間	1)心理学や人間理解にかかわる既習の授業内容を復習し、授業に臨むこと。				
事後学修	2時間	1) 毎回事後学修課題を提示するので、それについてノートを作成し、学習すること。 2) MANALOGで小テストを提示するので、授業内容を復習した上で受験し、理解度を確認すること。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	80 %	各授業での重要ポイント(基本概念や語句の意味など)についての理解度を確認する。特に、精神保健医療の歴史や関係法規については、年代・出来事・主要人物名などが合致して理解できているかどうかを確認する問題を出題する。				
レポート	20 %	「生活の場におけるこころの健康問題」および「地域精神保健福祉」終了後にA4・1枚程度のレポート課題を出す。テーマに即した内容であるか、自分の考えを記述しているかをそれぞれ0～10点で評価する。				
上記以外の試験、平常点評価	0 %					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② (医学書院) 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)					
参考資料	適宜紹介する。					

科目名	在宅看護援助論		単位	講義区分	担当教員	深谷 由美
			2単位	演習		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU3HCN102	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	訪問看護師・介護支援専門員	
実務経験を生かした授業内容	訪問看護や介護支援専門員の実践を通して、在宅看護の特徴と多職種連携について講義・演習を行う。					
到達目標及びテーマ	在宅療養者と家族に対し、効果的な看護ケアを提供するために必要な看護アセスメント能力を養うと共に、根拠を踏まえた在宅看護技術を習得できる。					
授業の概略	在宅療養者の適切な理解のため、在宅看護アセスメント・看護計画の立案・評価方法を事例を用いて実践します。継続看護において在宅療養者を対象とした多職種連携についても学びます。在宅看護における感染予防、呼吸ケア、栄養・排泄ケア等の演習を通して、在宅看護技術を習得します。また、訪問時のマナーや面接技術についても学習します。					
授業計画						
第1回	在宅看護過程の考え方と在宅看護技術について					
第2回	在宅看護過程①:対象の捉え方・情報の整理1					
第3回	在宅看護過程②:情報の整理2					
第4回	医療管理を要する人の看護Ⅰ:呼吸ケア					
第5回	在宅看護過程③:看護アセスメント(一次アセスメント)					
第6回	医療管理を要する人の看護Ⅱ:栄養と排泄					
第7回	訪問看護師の基本的態度:訪問時のマナー・面接技術					
第8回	在宅看護過程④:看護アセスメント(二次アセスメント)					
第9回	在宅看護過程⑤:関連図					
第10回	在宅看護過程⑥:関連図(グループワーク)					
第11回	在宅看護過程⑦:看護計画					
第12回	在宅看護過程⑧:看護計画(グループワーク)					
第13回	看護ケアの実施:立案した看護計画に基づき看護ケアを実施					
第14回	医療管理を要する人の看護Ⅲ:感染予防・褥瘡予防とケア					
第15回	医療管理を要する人の看護Ⅳ:在宅における疼痛緩和ケア・エンドオブライフケア・グリーフケア					
	定期試験					
事前学修	2時間	各回の演習内容の教科書および参考資料関連ページを読み、基本知識を得る。事前課題がある場合はそれを完成させる。グループワークで積極的に討論できるよう、指定範囲までの看護展開は必ず行い、討論項目をまとめる等の準備をする。				
事後学修	2時間	各自で看護過程事例展開を計画的に行う。技術演習の振り返りを行う。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	50 %	在宅看護過程の展開、在宅看護技術に関して出題します。在宅看護過程の展開では、試験中に新たな事例の展開はありません。在宅看護技術に関しては、訪問看護師の基本的態度・医療管理を要する人の看護Ⅰ～Ⅳに関する問題を出題します。				
レポート	30 %	看護過程事例展開レポート[A:内容の充足度(情報整理、科学的根拠に基づいた看護アセスメント・計画・実施評価)、B:フォーマットの遵守] A,Bにより総合的に評価する 中間提出時の評価10%、最終提出時の評価20%				
上記以外の試験、平常点評価	20 %	A:演習中における発表内容および参加度 B:技術演習における事前/事後学習・服装・態度および知識の習得度 A,Bにより総合的に評価する				
教科書	1. 正野逸子、本田彰子(編)、関連図で理解する在宅看護過程、第2版、メヂカルフレンド社 2. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 第5版【2年次購入済】					
参考資料	1. 河野あゆみ(編)強みと弱みからみた在宅看護過程、医学書院 2. 押川真喜子、写真でわかる訪問看護アドバンス、インターメディア					

科目名	公衆衛生看護学概論		単位	講義区分	担当教員	古澤 洋子
			2単位	講義		
期待される学修成果	知識理解・発展 地域貢献			ナンバリング	NU2PHN101	
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク			実務家教員	保健師	
実務経験を生かした授業内容	保健所、健診センター勤務の経験を生かし、公衆衛生看護活動の実際と役割について講義する。					
到達目標及びテーマ	1. 公衆衛生看護学の変遷を知り、理念や目的を説明できる 2. 公衆衛生看護の対象・活動の場や活動の根拠などを説明できる 3. 地域の人々の健康課題を明確にし、それに対応する公衆衛生看護活動の意義・方法を説明できる					
授業の概略	公衆衛生看護の基本理念と目的、ヘルスプロモーションを理解する。地域に住む対象者の健康問題の影響要因を特定し、コミュニティレベルでの疾病予防、健康状態の改善、多職種との連携、社会資源の充実を目指して行われる看護活動を学ぶ。事例に基づき、健康課題別・健康危機管理を含む状況別の活動内容、健康教育や相談による予防的介入を基盤とした看護活動を学ぶ。					
授業計画						
第1回	公衆衛生看護の理念・目的、対象について、歴史的変遷から学ぶ。公衆衛生看護を学ぶ意義について考える（古澤）					
第2回	公衆衛生看護を学ぶ上での基本となる用語、概念（ヘルスプロモーション・コミュニティなど）を理解する（古澤）					
第3回	健康の概念、一次・二次・三次予防に関わる看護実践の要素と特徴を学ぶ（古澤）					
第4回	社会の変化に伴う疾病構造の変遷を踏まえ、地域住民の健康問題をライフサイクル・健康問題別に整理し、理解する（古澤）					
第5回	公衆衛生看護にかかる制度・法律、保健医療福祉システムを学ぶ（古澤）					
第6回	地域診断 地域診断の必要性と地域診断過程の実際を理解する（古澤）					
第7回	乳幼児健診や教室などを通し、こどもの健やかな成長と育児支援を目指した母子保健活動を学ぶ（古澤）					
第8回	成人保健の動向を把握し、メタボリックシンドローム、特定健診・特定保健指導を中心に成人期の健康づくりについて学ぶ（古澤）					
第9回	介護予防に焦点をあて、要介護状態にならないための高齢者の健康保持についての保健活動を学ぶ（古澤）					
第10回	精神障害者・難病患者・障害者に対する保健施策と保健活動を学ぶ（古澤）					
第11回	感染症、特に結核管理に焦点をあて、感染症の拡大防止のための保健活動を学ぶ（古澤）					
第12回	健康診査・健康相談・保健指導・家庭訪問・健康教育・グループ支援などの基本的な考え方・方法について学ぶ（古澤）					
第13回	産業保健・看護の定義、理念を理解する。産業保健の現状を把握し、産業看護職の役割と保健活動を学ぶ（古澤）					
第14回	学校保健の目的、現状と健康課題を理解し、学校保健活動を学ぶ（古澤）					
第15回	地域における健康危機管理（災害への対応、虐待への対応）を学ぶ まとめ（古澤）					
	定期試験					
事前学修	2時間	1) 新聞や広報誌などから、地域の公衆衛生や公衆衛生看護活動に関する記事を読み、まとめておく。わからない単語など調べておく。 2) 授業前に単元ごとに、教科書を読み、わからない単語を調べてくること。				
事後学修	2時間	授業で学習したことをノートに整理し、重要な語句・用語・制度の意味・内容を再度確認すること。				
成績評価方法	割合	評価基準等				
定期試験	60 %	公衆衛生看護活動の意味、語句の理解ができているかを試す問題をだす（第7回以降）				
レポート	15 %	事前レポートA4用紙1枚（自分の地域の公衆衛生看護活動について調べる。疑問点も含め考察する）15点				
上記以外の試験、平常点評価	25 %	小テスト：基本的な概念・語句の説明など（第1～6回講義内容）				
教科書	公衆衛生看護学。JP（インターメディカル） ISBN978-4-900828-66-7					
参考資料	国民衛生の動向					

令和元年度 役員構成

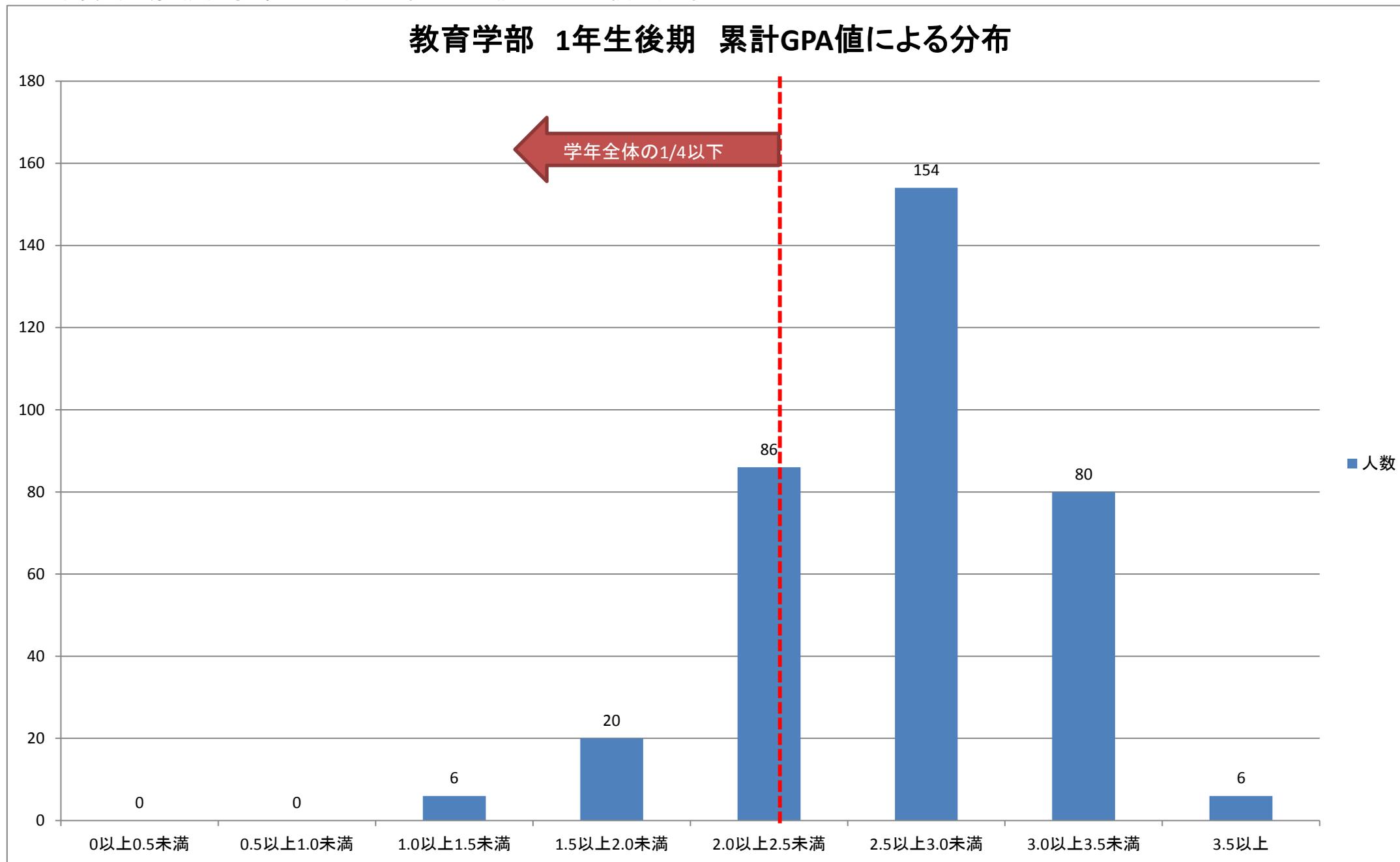
□理事会

理事・・・現員12名（学内7名、学外5名）

監事・・・現員2名（学外2名）

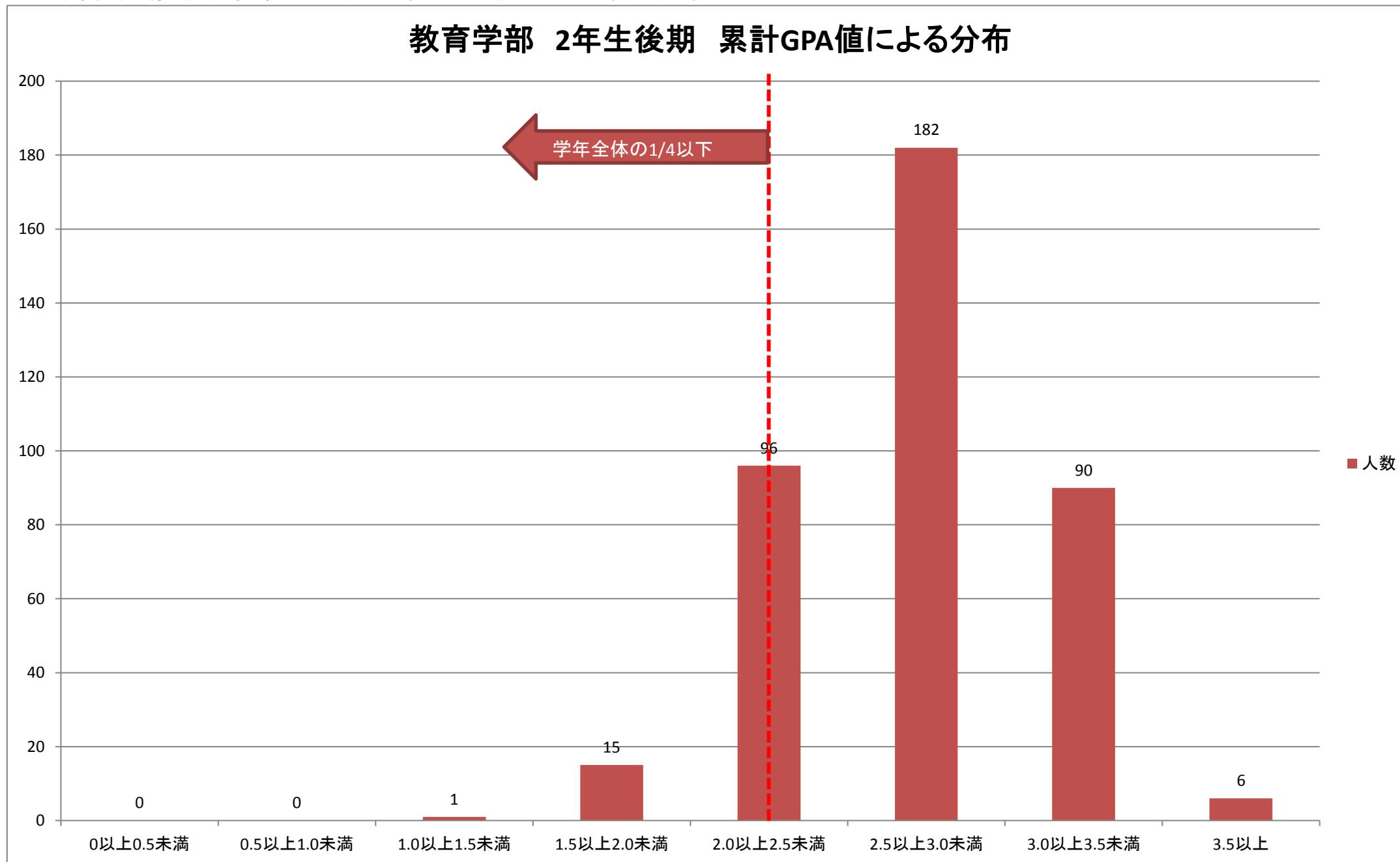
理事長	杉山元彦	学外
理事	藤井德行	学内
理事	林俊彦	学内
理事	宮島康広	学内
理事	桑原常晴	学内
理事	水谷啓	学内
理事	竹本浩之	学内
理事	加納顯	学外
理事	上原理	学内
理事	三宅隆教	学外
理事	大野實	学外
理事	山田貞夫	学外

監事	水野雄二	学外
監事	小森信雄	学外

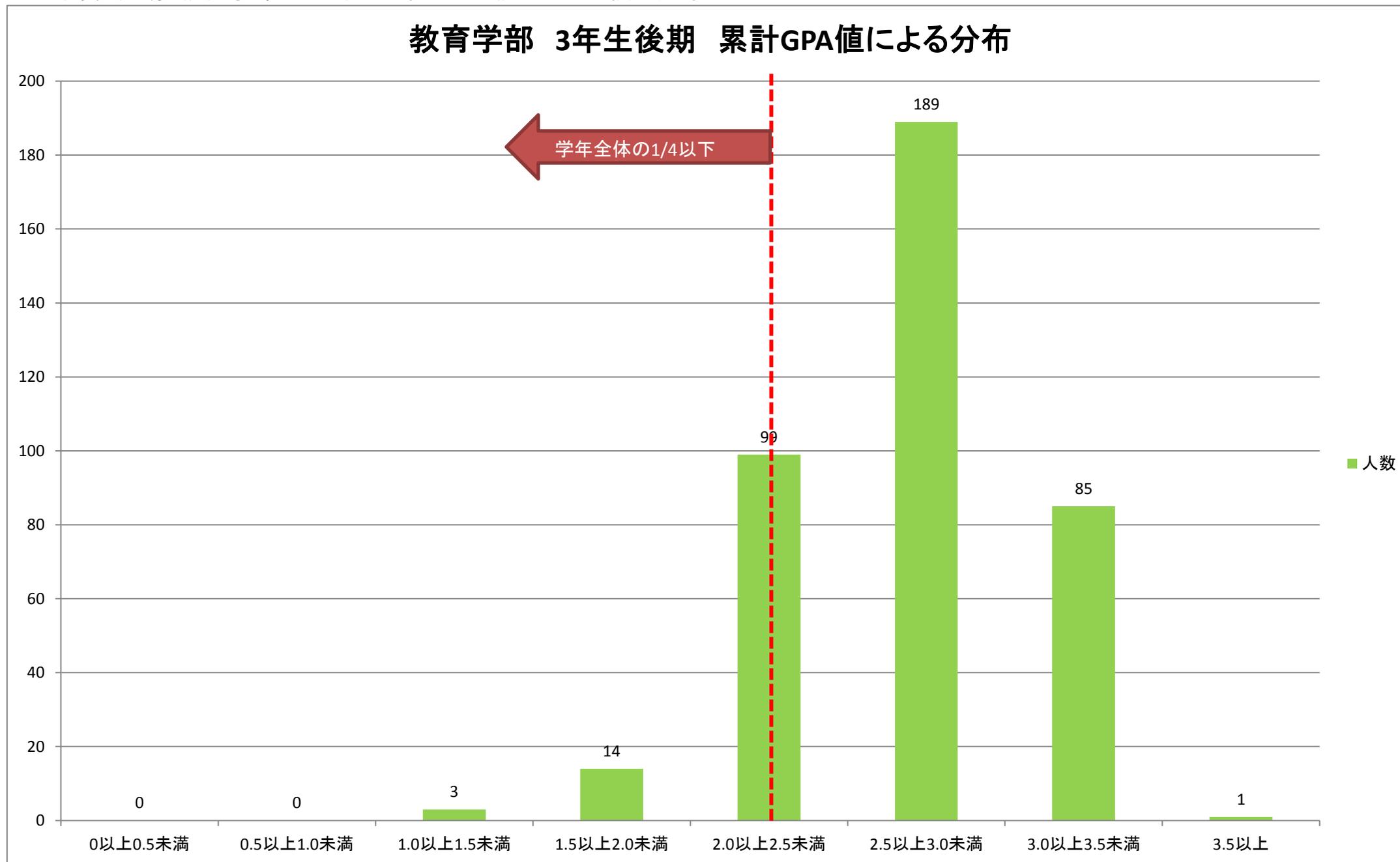


1学年 352 名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.45 以下(下位1/4 88 番目の学生)
学年全体の成績下位1/4以下の学生数 91 名

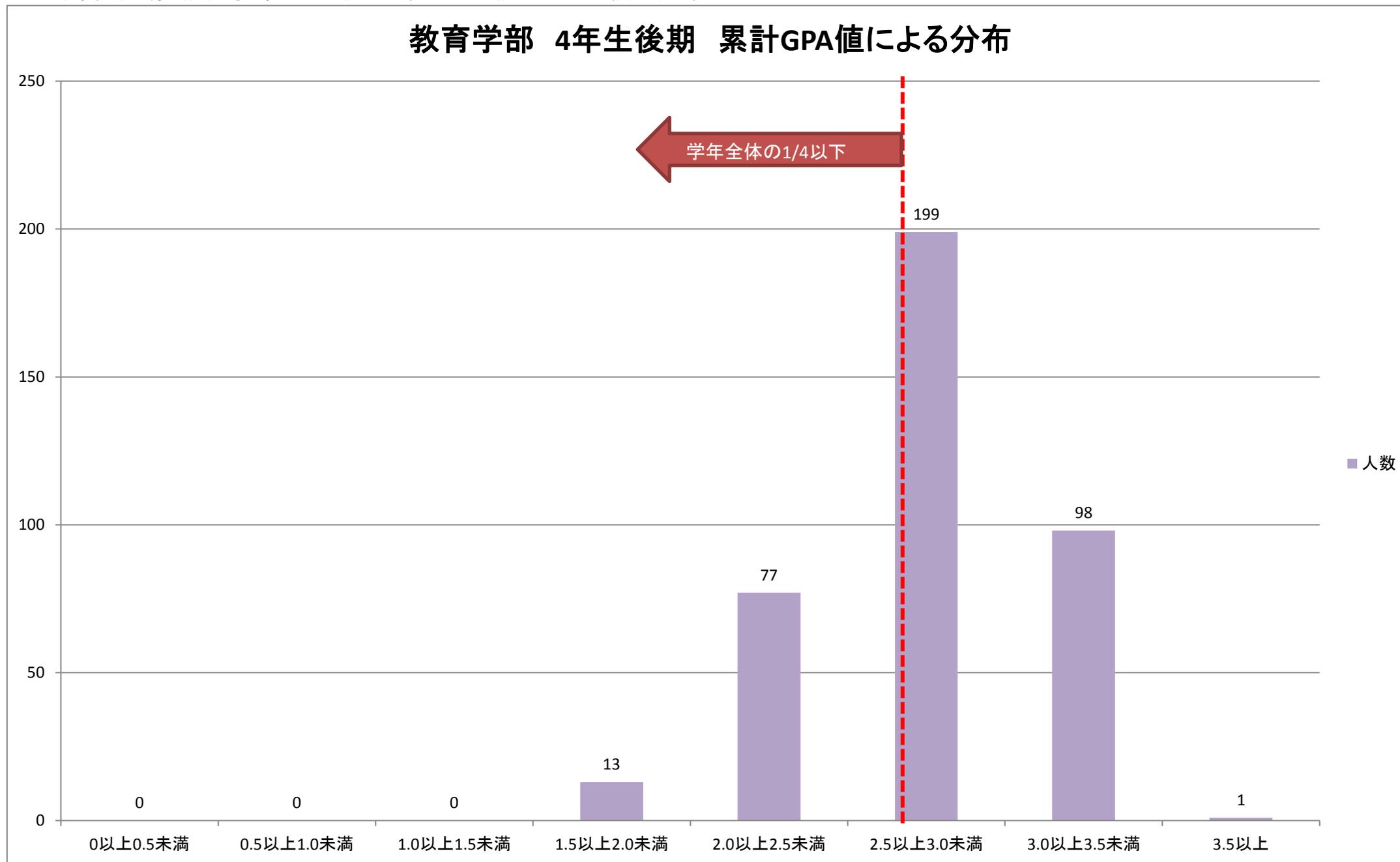


1学年 390 名 学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.49 以下(下位1/4 97.5 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 103 名

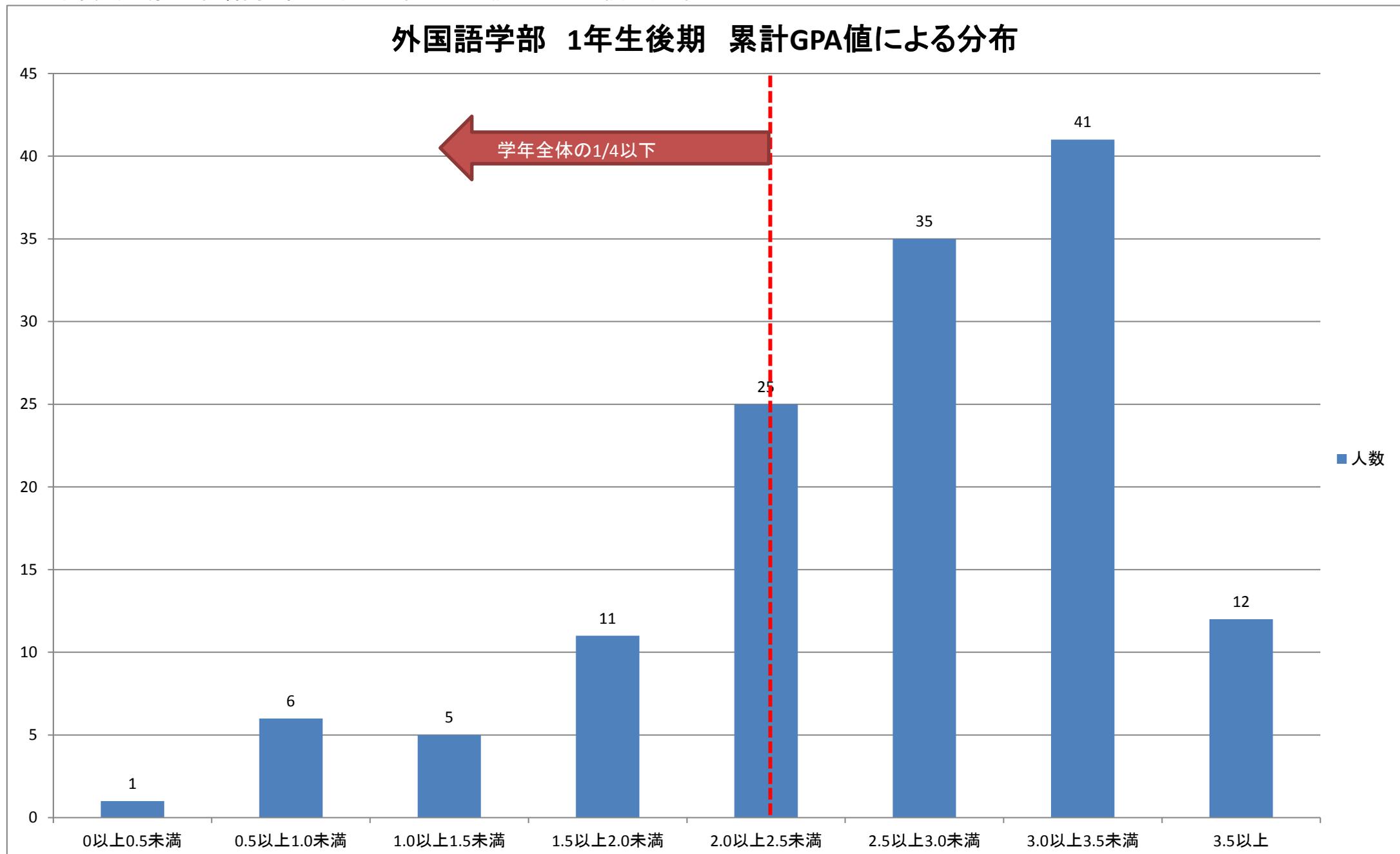


1学年 391 名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.43 以下(下位1/4 97.75 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 98 名



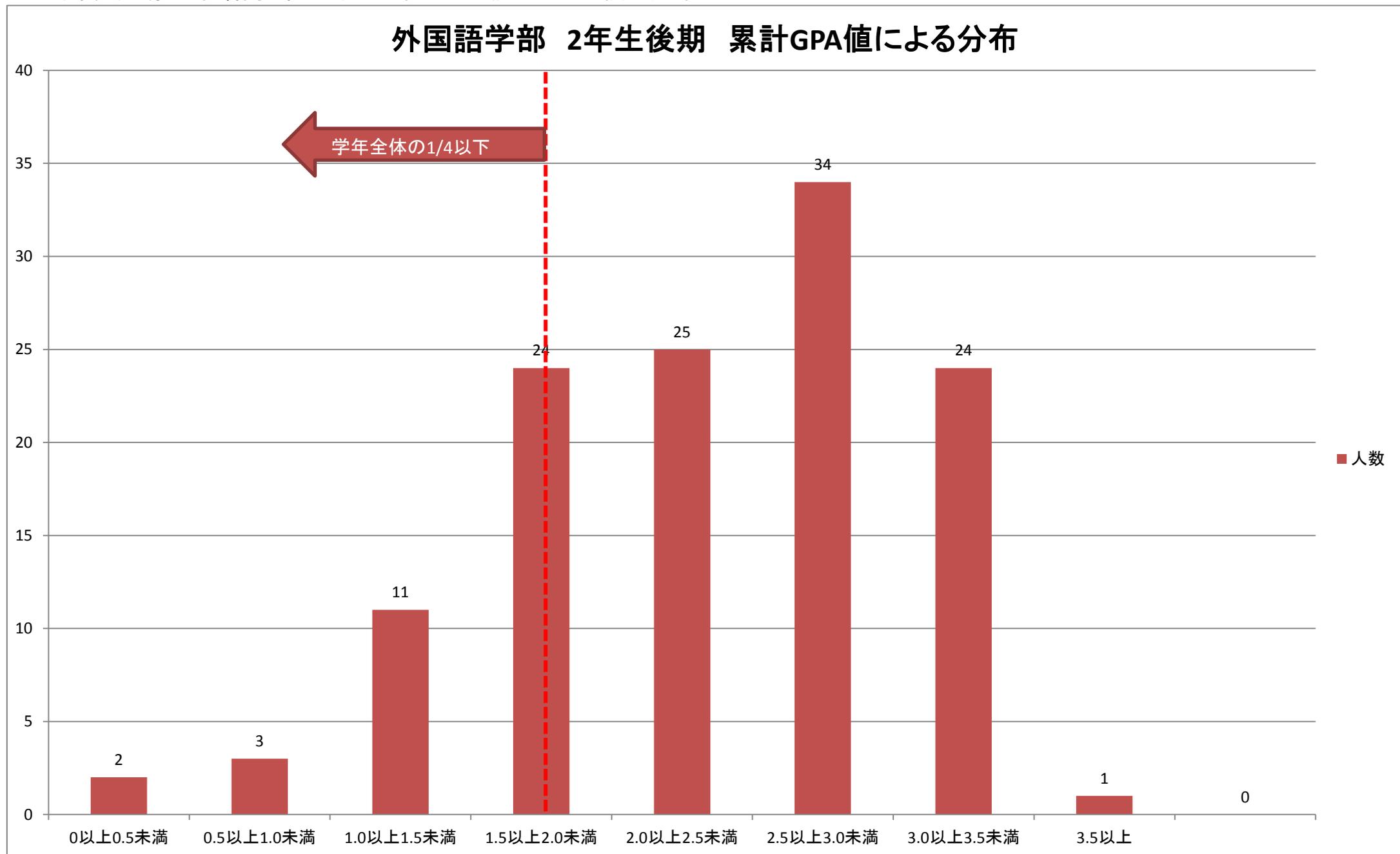
1学年 388名 学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.52以下(下位1/4 97番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 99名



1学年 136名

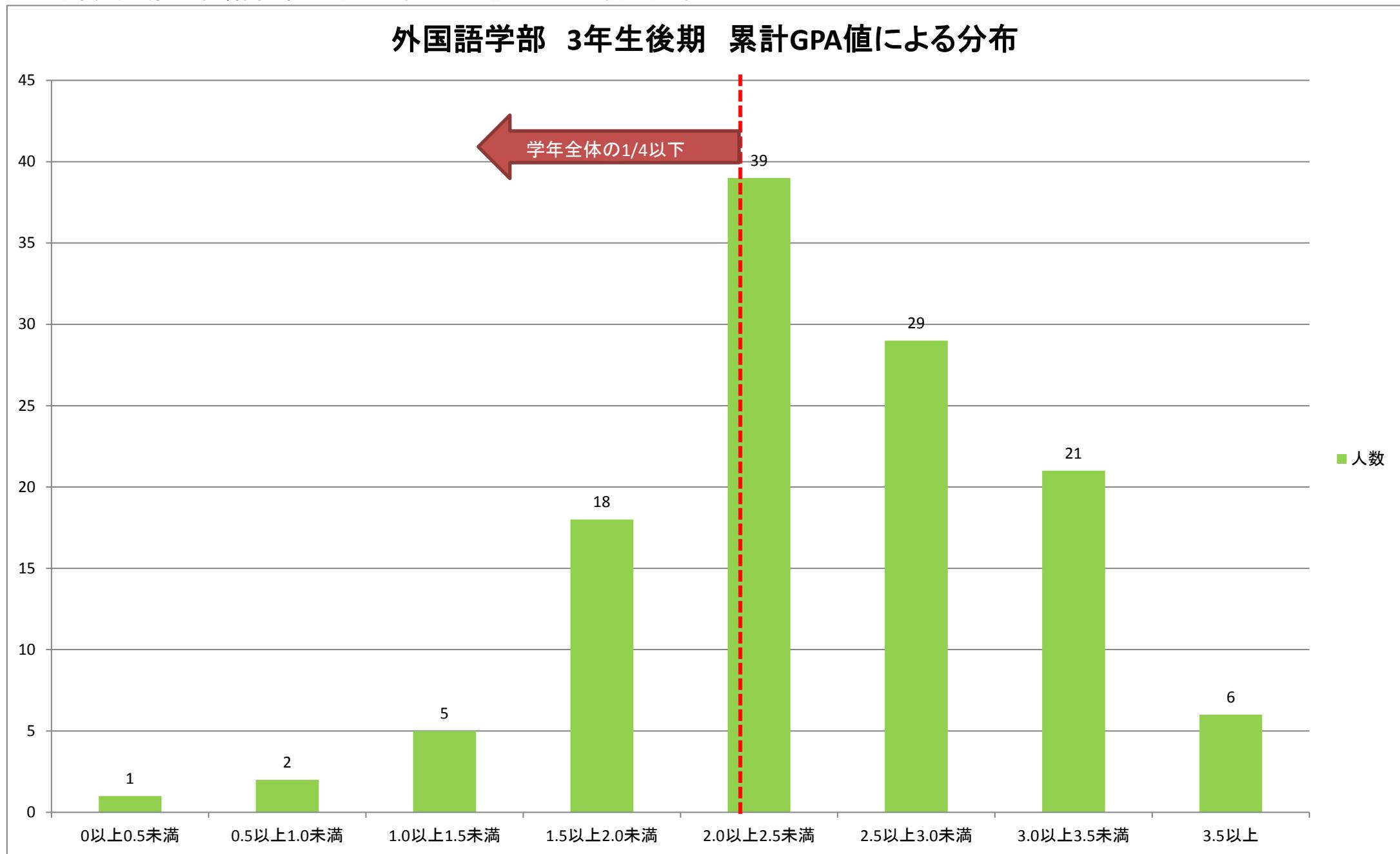
学年全体の成績下位1/4の累計GPA
学年全体の成績下位1/4以下の学生数

2.15 以下(下位1/4 34番目の学生)
34名



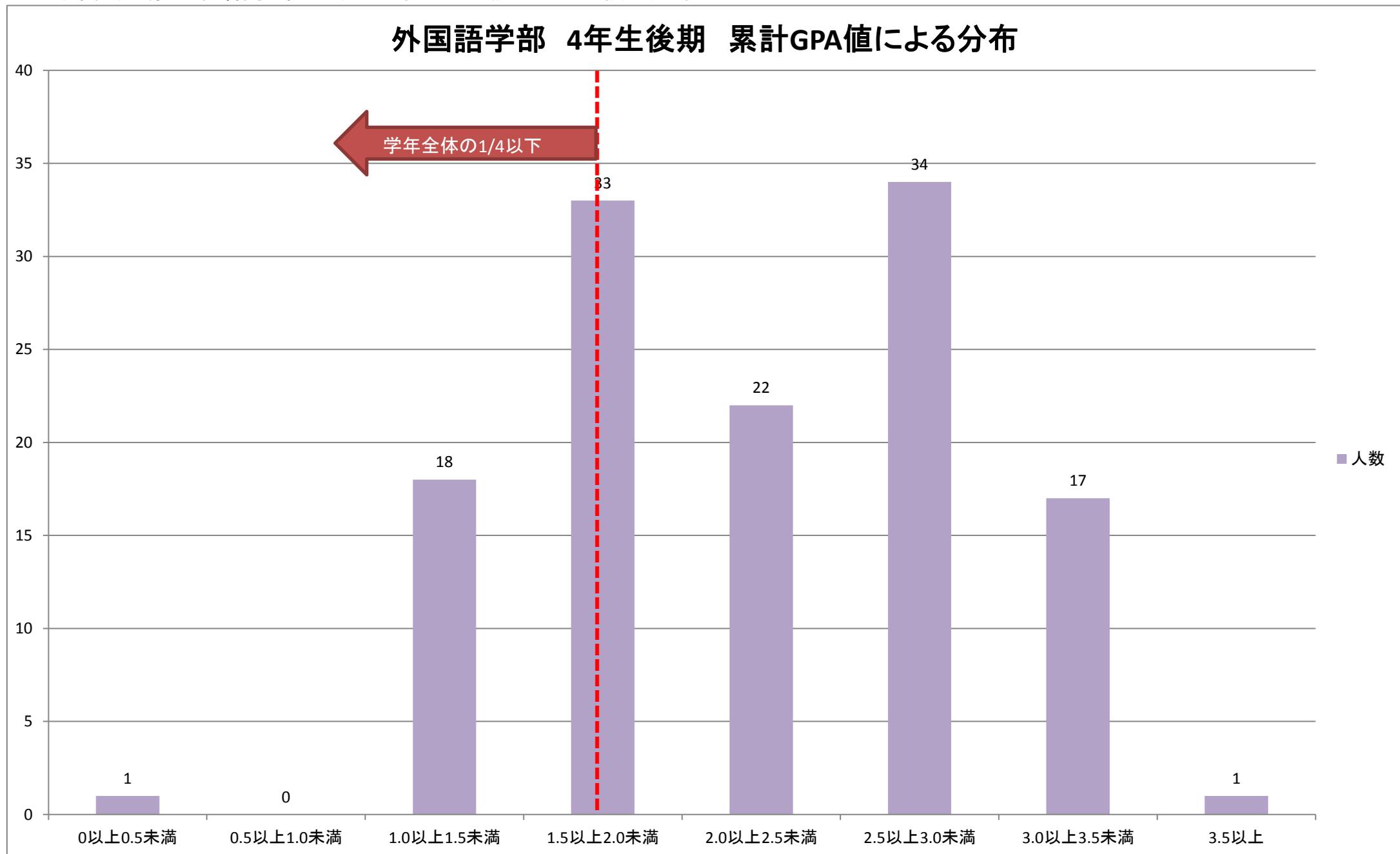
1学年 124 名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 1.88 以下(下位1/4 31 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 32 名



1学年 121名

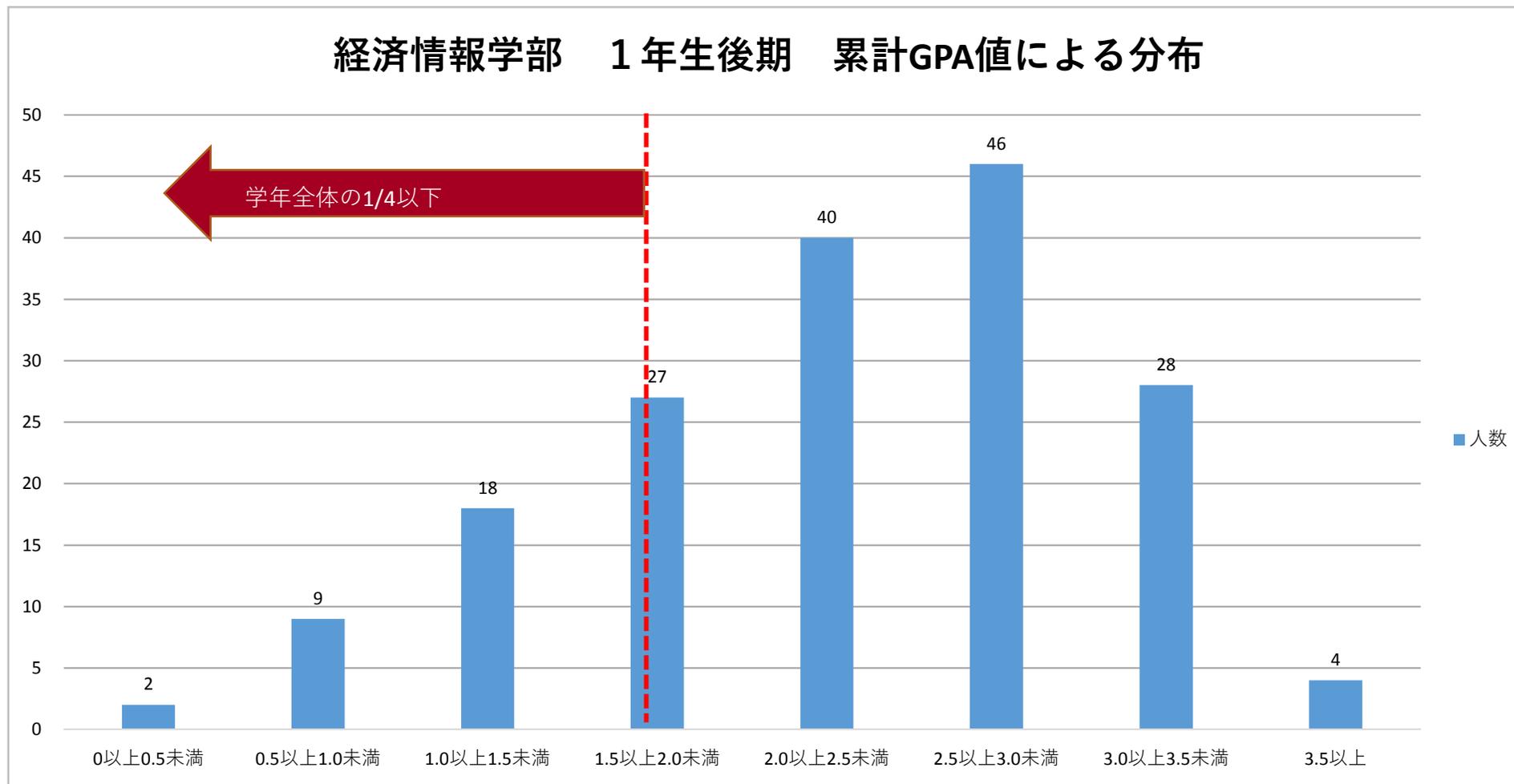
学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.07 以下(下位1/4 30.25 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 30名



1学年 126名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 1.71 以下(下位1/4 31.5 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 32名

2018年度 後期 経済情報学部 1年生 累計GPA値による成績の分布



1学年
(休学者を含む)

174 名

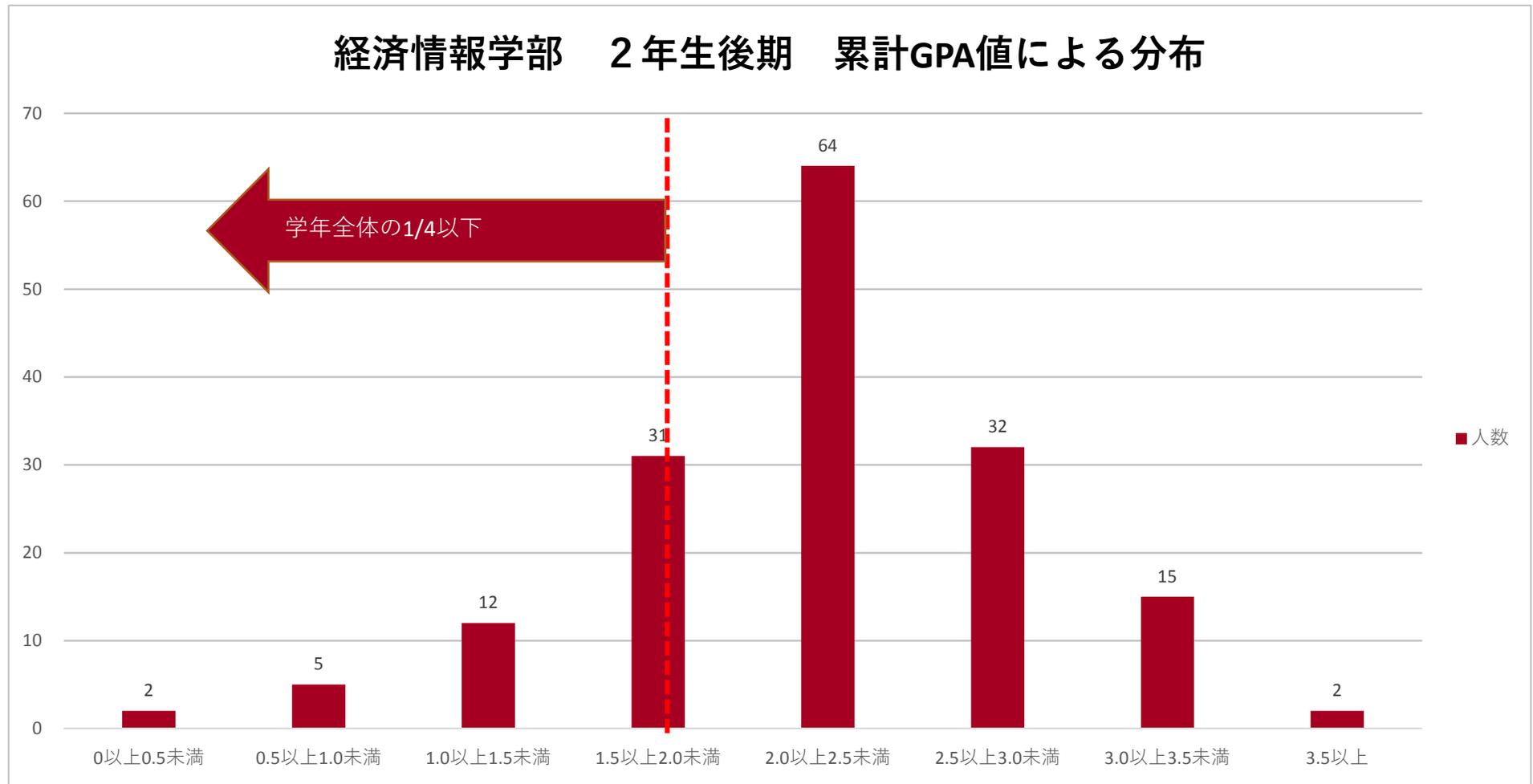
学年全体の成績下位1/4以下の累計GPA

1.69

学年全体の成績下位1/4以下の順位

131 位 (3/4にあたる学生 130.5 番目の学生)

2018年度 後期 経済情報学部 2年生 累計GPA値による成績の分布



1学年
(休学者を含む)

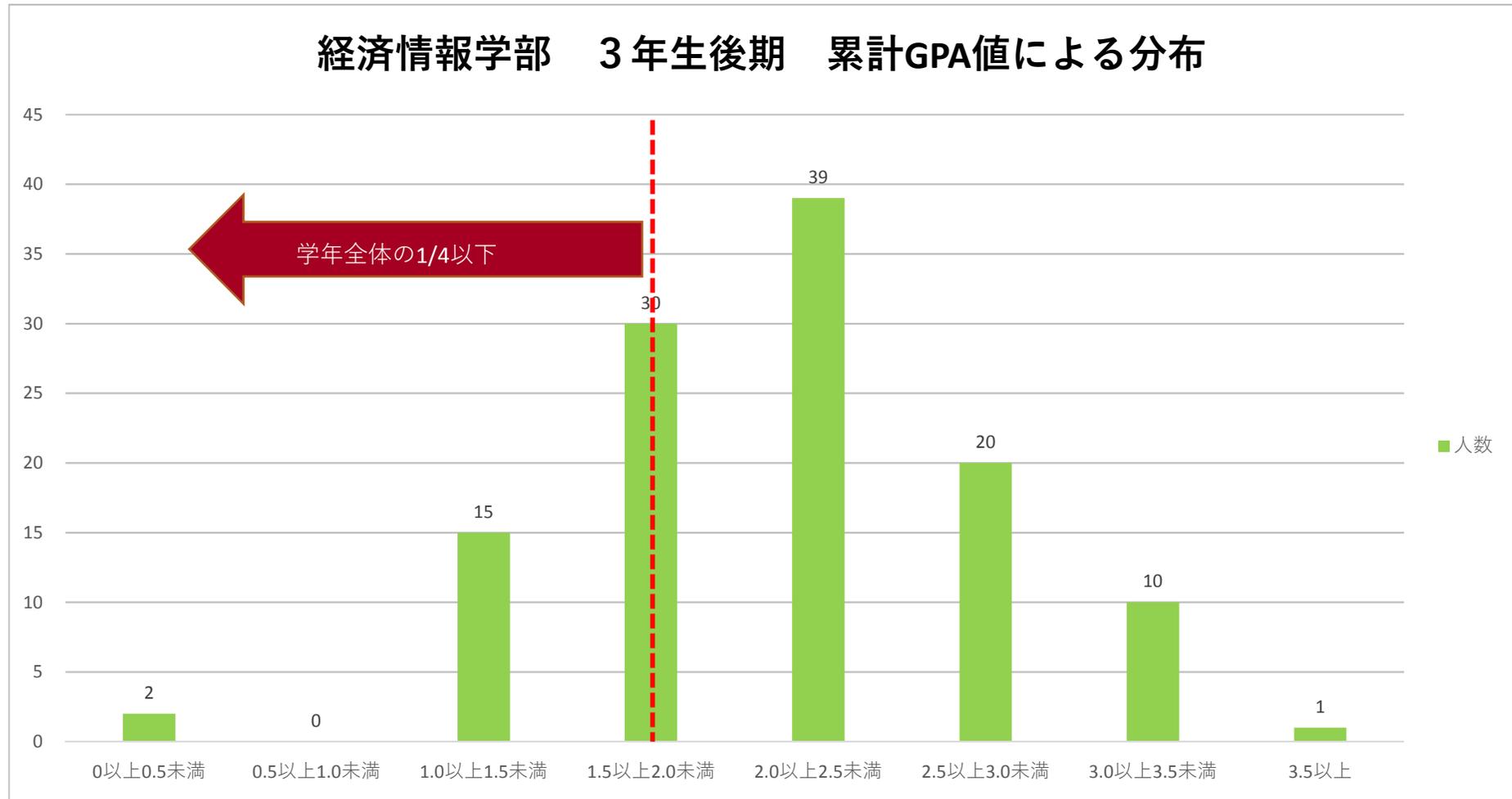
163 名

学年全体の成績下位1/4以下の累計GPA
学年全体の成績下位1/4以下の順位

1.88

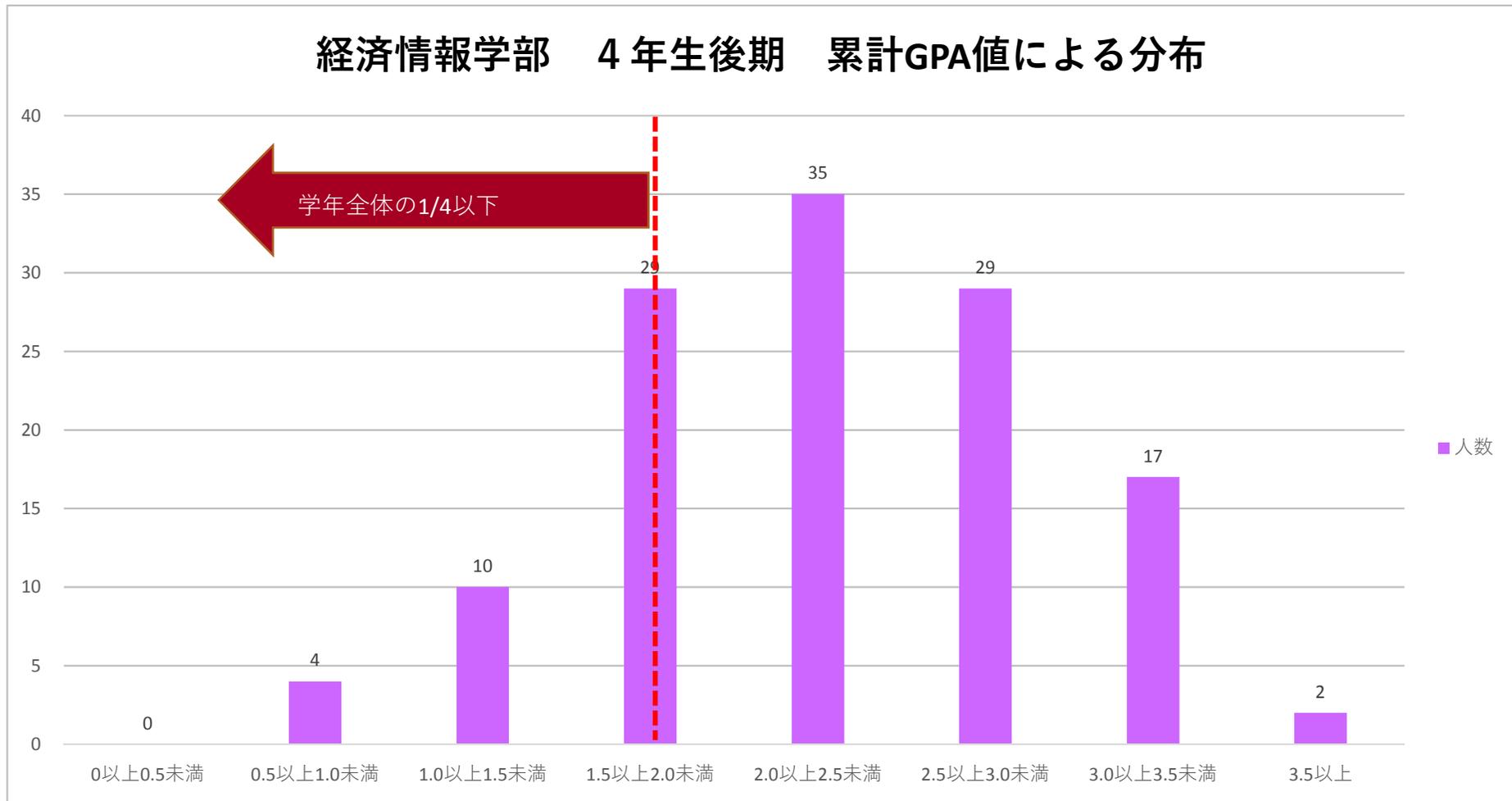
123 位 (3/4にあたる学生 122.25 番目の学生)

2018年度 後期 経済情報学部 3年生 累計GPA値による成績の分布



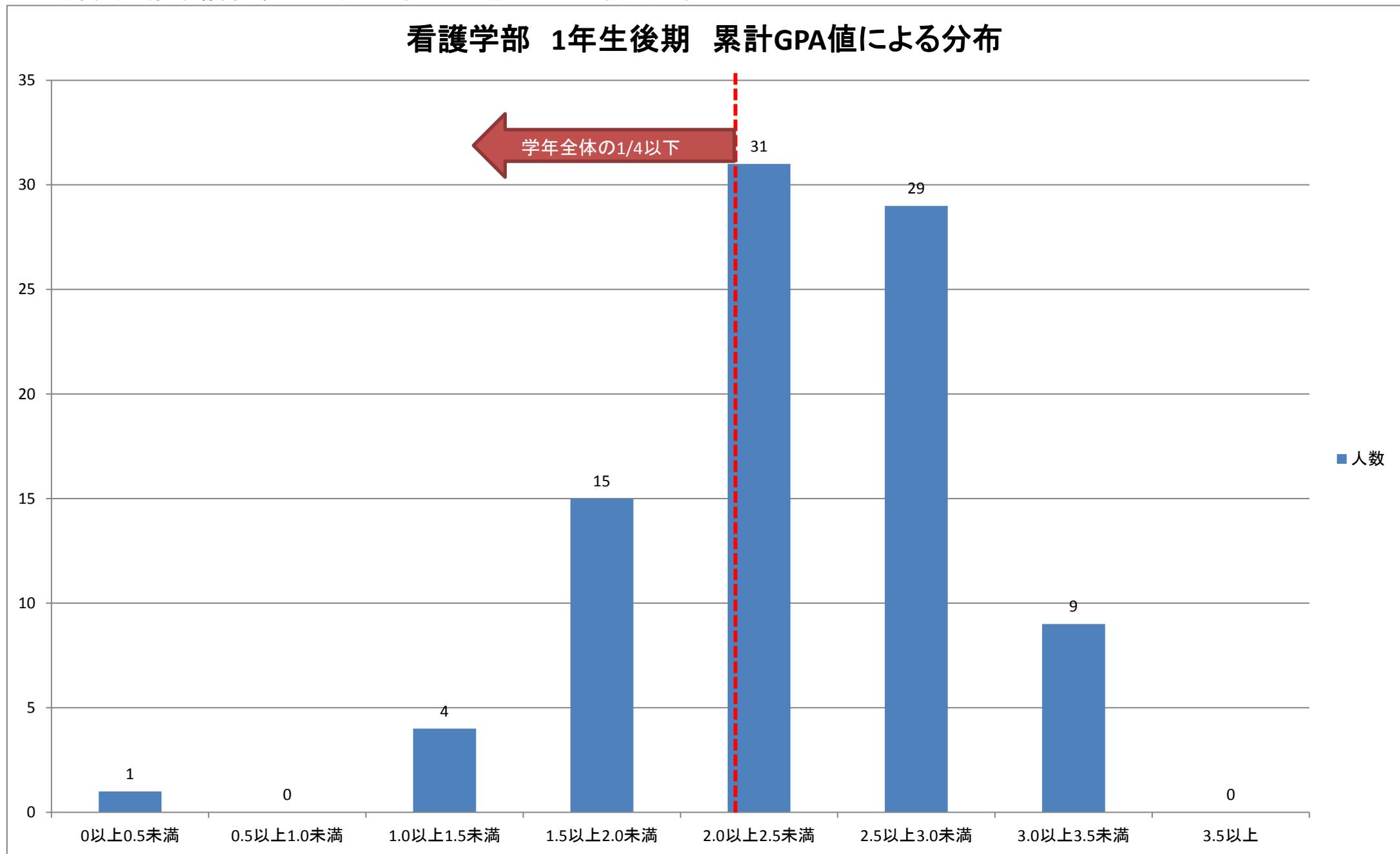
1学年 117名
 (休学者を含む) 学年全体の成績下位1/4以下の累計GPA 1.71
 学年全体の成績下位1/4以下の順位 88位 (3/4にあたる学生 87.75番目の学生)

2018年度 後期 経済情報学部 4年生 累計GPA値による成績の分布



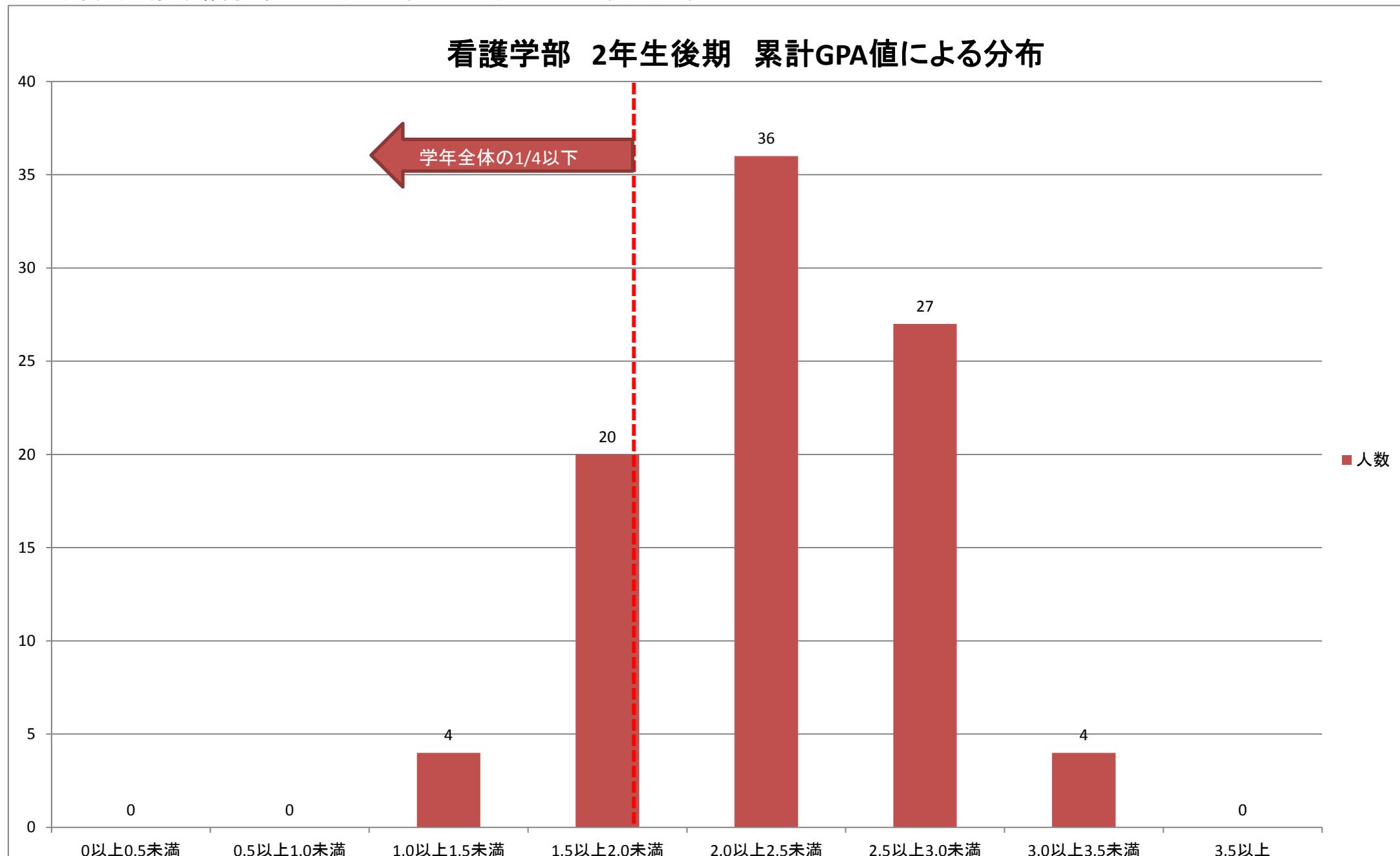
1学年 126名
 (休学者を含む)

学年全体の成績下位1/4以下の累計GPA 1.85
 学年全体の成績下位1/4以下の順位 95位 (3/4にあたる学生 94.5番目の学生)



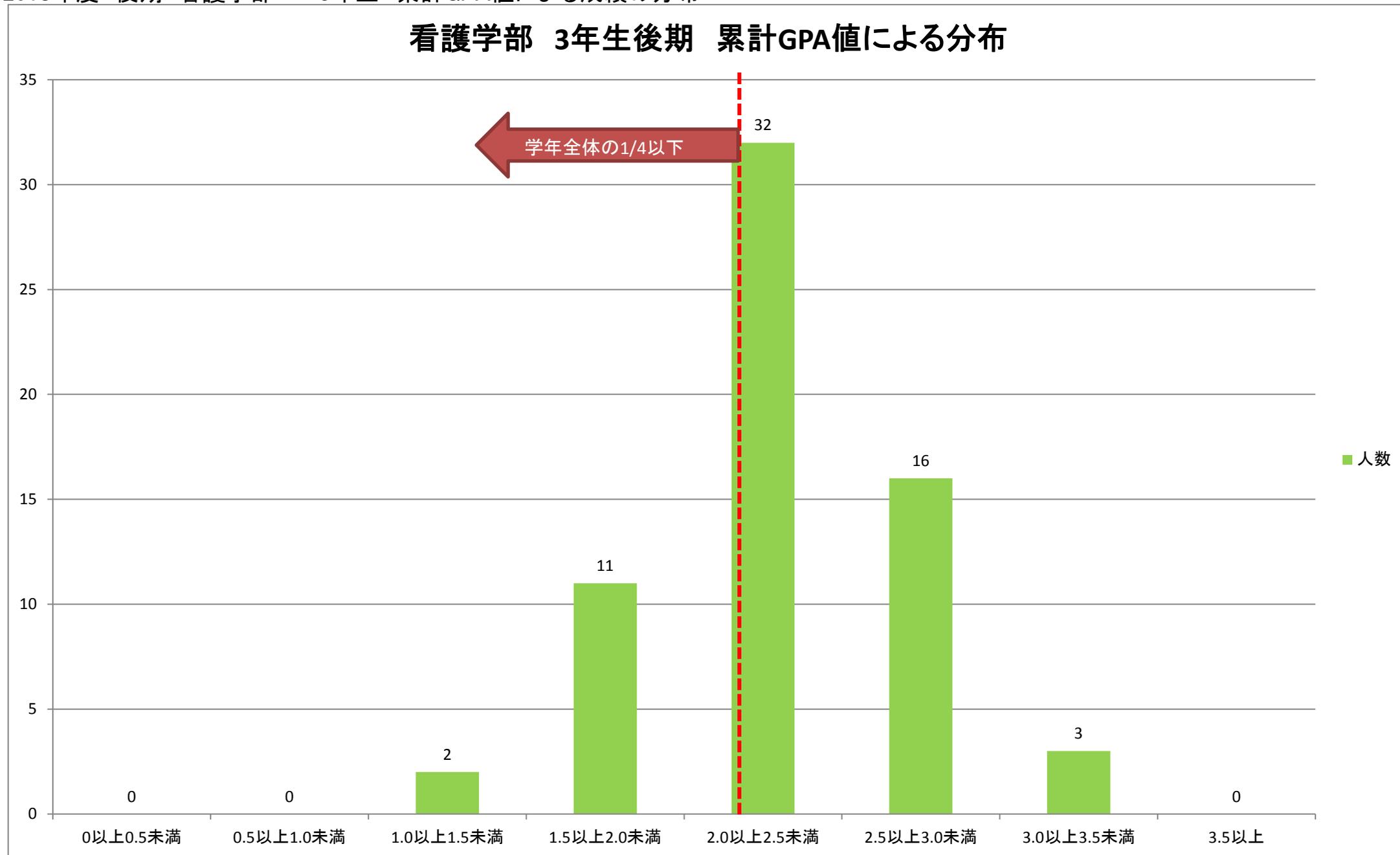
1学年 89 名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.04 以下(下位1/4 22.25 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 23 名



1学年 91名

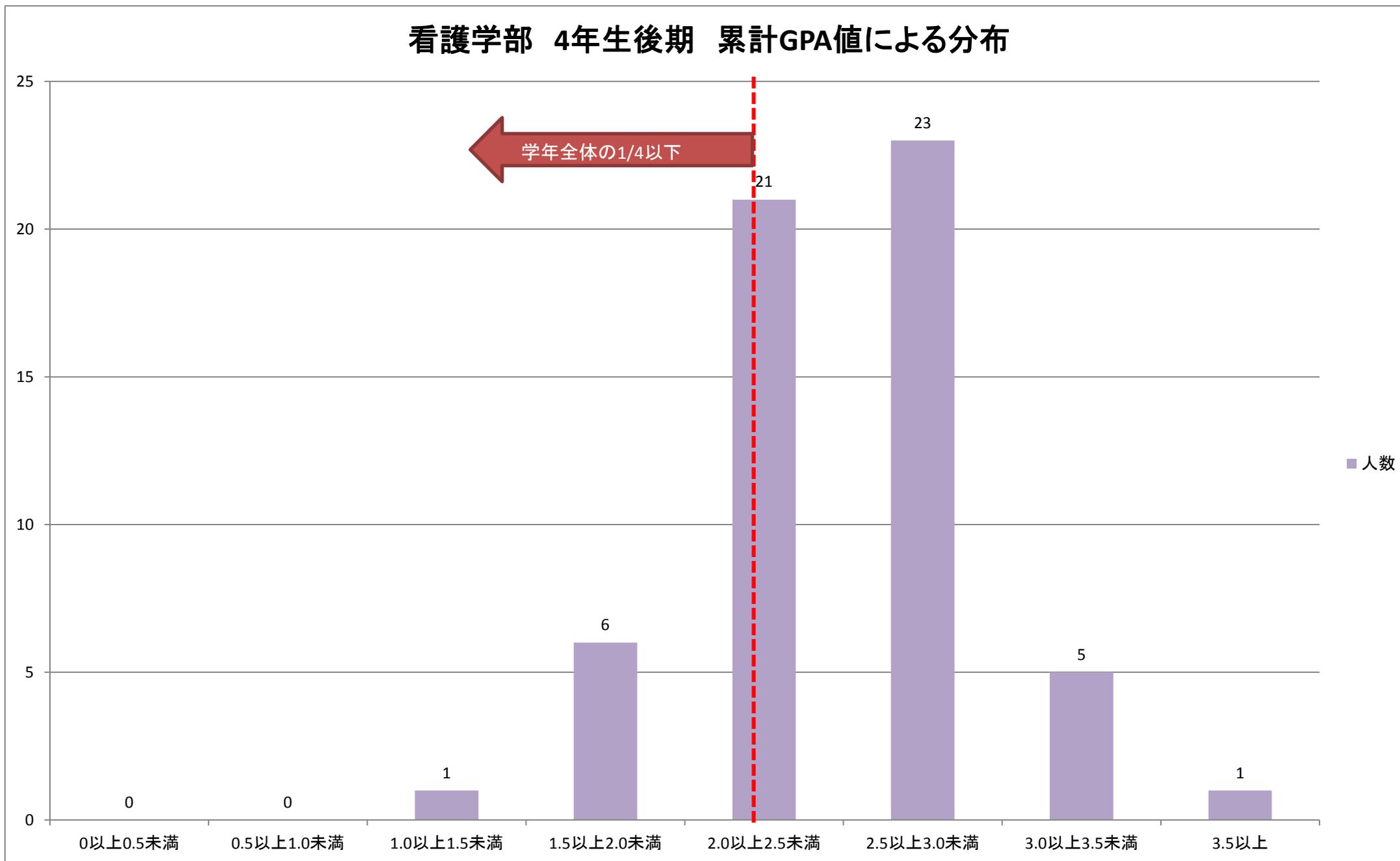
学年全体の成績下位1/4の累計GPA 1.97 以下(下位1/4 22.75 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 23名



1学年 64名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA
学年全体の成績下位1/4以下の学生数

2.08 以下(下位1/4) 16番目の学生)
16名



1学年 57名

学年全体の成績下位1/4の累計GPA 2.24 以下(下位1/4 14.25 番目の学生)
 学年全体の成績下位1/4以下の学生数 14名